

人と社会と未来をつなぐ



SGホールディングスグループ

CSRレポート

Corporate Social Responsibility Report 2010



みんなで止めよう温暖化

「SGホールディングス」チーム・マイナス6%

- 1 Corporate Social Responsibility Report 2010メッセージ
- 2 Top Message

5 **4Eyes** SGホールディングスグループを見つめる、4つの視点

- 6 特集1 消費者の視点
- 10 特集2 お客さまの視点
- 12 特集3 従業員の視点
- 14 特集4 有識者の視点



- 18 SGホールディングスグループの理念と指針
- 20 SGホールディングスグループのCSRの考え方と体制
- 22 SGホールディングス株式会社 企業情報

23 **事業の取り組み**

- 24 REPORT／2009年度の実績
- 25 SGホールディングスグループ 事業データ(連結)
- 26 SGホールディングスグループ 経営ビジョンと中期経営計画
- 28 SGホールディングスグループ 事業活動
- 30 SGホールディングスグループ 事業体制と事業概要
- 32 SGホールディングスグループ 海外拠点
- 33 財団活動

- 34 CSRへの想い

35 **安全への取り組み**

- 36 REPORT／2009年度の実績／今後の目標
- 37 安全性向上へのスキーム
- 41 エコ安全ドライブの取り組み
- 42 車両整備、安全機器の装備による安全への取り組み
- 44 安全な社会の実現を目指して

- 46 CSRへの想い

47 **環境への取り組み**

- 48 REPORT／2009年度の実績／今後の目標
- 49 環境活動の考え方／地球温暖化への取り組み
- 53 輸送の効率化による環境対策
- 56 資源の有効活用
- 58 循環型社会を目指した取り組み
- 60 SGホールディングスグループ環境行動
- 62 生物多様性への取り組み
- 63 環境啓発への取り組み
- 64 環境活動推進の体制づくり

- 66 CSRへの想い

67 **社会とのかかわり**

- 68 REPORT／2009年度の主な取り組み／今後の目標
- 69 お客さまに向けて
- 72 従業員とともに
- 76 社会とともに
- 77 社会貢献活動

- 80 CSRへの想い
- 81 第三者保証報告書(クライメート・セイバーズ・プログラム)
- 82 第三者意見
- 83 キャッチコピーについて／表紙デザインについて／編集方針と報告範囲／編集後記

人と社会と未来をつなぐ

大切な人と、つながっている。

今日という日が、未来とつながっている。

そんな確かな毎日を

お客さま一人ひとり、

ともに働くすべての従業員、

ビジネスパートナーの皆さま、

地域住民、そして世界中の人々にお届けする。

それが、SGホールディングスグループの使命。

私たちは、ステークホルダーの皆さまとともに、

人と社会と未来をつないでいきます。

皆さまから信頼される 「ステークホルダー経営」によって、 企業の社会的責任を果たしていきます。

社会のインフラとして大きな役割を担っている「物流」。

物流事業をコアとするSGホールディングスグループでは、産業・社会インフラの充実・発展のため当社グループの事業活動を進化・発展させる真摯な取り組みが、最も重要な社会貢献であると考えています。これまで以上にすべてのステークホルダーへの意識を強め、それを事業基盤に据え、今後も人と社会、そして未来のためにさまざまな活動を展開してまいります。



SGホールディングス株式会社
代表取締役会長 兼 社長

栗和田 栄一

「疾風^{けいそう}に勁草を知る」の精神で

当グループがホールディングス制となってから、5年目を迎えました。その間、日本国内の経済は、原油価格の乱高下や世界的不況の影響などによって、厳しい状況へと陥りました。しかし私はそんな時だからこそチャンスと考えています。何がチャンスかと申しますと、これまでの自分たちの事業を振り返り、足元を固めて新たな道へ

歩き出す、またとない機会だということです。中国の古典に「疾風に勁草を知る」ということばがあります。これは、強風が吹くと弱い草は倒れるが強い草は何度でも起き上がるという意味で、つまり人間や企業の真価は、困難な時期にこそ発揮されるということです。そもそも当グループは逆境にこそ奮い立つ風土があります。これからも営業現場とそれを支える各部門が団結し、どんな状況にあっても社会から信頼される「勁草」へと、グループをたくましく育ててまいります。

真摯に事業に取り組むことが、CSRに直結する

私たちSGホールディングスグループは、「物流」をコア事業として産業や社会のインフラの充実に大きな役割を担っています。一方で物流事業者は、交通安全へのリスクや環境への負荷を避けることができません。公道を利用させていただきながらビジネスを展開する我々のような物流企業が社会から永続的に信頼されるには、事業活動が及ぼす社会への影響を客観的に見極めて対処し、消費者の声に謙虚に耳を傾け、時代の変化にいち早く対応した行動を心がけることが大切です。CSR、つまり企業の社会的責任とは、このように日々の事業に対して真摯に取り組むことに他なりません。企業は事業を通じてお客さまや地域社会のお役に立つことで、はじめて存在価値が高まることから、事業活動とCSRとは不可分なものと考えます。安全な交通社会の実現、温暖化防止に向けた取り組みなど、事業を通じて社会の豊かさに貢献していくことが大切です。

SGホールディングスグループでは、事業で得た恩恵を、地域社会にお返しすることも忘れてはいません。また財団法人を通じて、医療、芸術分野での支援活動、アジア各国の留学生のバックアップ、開発途上国への物的、人的支援活動など、幅広い分野において、人々が幸せに暮らせるための取り組みを行っています。

大切なのは、「当たり前をやり抜くこと」

1977年(昭和52年)に佐川急便に入社した私は、折あるごとに従業員に対して「当たり前のことを徹底して実行しよう」と語り続けてきました。この想いは、「SGホールディングスグループ倫理・行動規範」として事業経営の中に浸透させ、すべての従業員がそれを実行することで社会との調和、自然との共生に向けて継続的に取り組んでいます。

さらには法令を遵守して事業活動を行うよう、企業活動の透明性の向上や内部統制システムの構築などにも努めてまいりました。もちろんこうしたシステムは、たえず社会の倫理観に対応できるよう、柔軟性を持たせることが必要でしょう。

SGホールディングスグループをこれまで以上に社会に貢献できる企業体に育てていくには、このように「個人の教育」と「システムの構築」、双方に力を注ぐことが必要であると考えています。



物流事業をコアに、
時代の変化に対応した経営を。

次世代に豊かな自然を残すために

私たちはこれまでディーゼル車と比べてCO₂の排出量が少ない天然ガストラックの導入や、輸送手段をトラックだけに頼るのではなく、輸送効率が高く環境負荷の小さい鉄道や船舶へと転換するモーダルシフト、都心部においてはトラックに頼らない配送方法、さらには地域住民の方々に対して自然との共生を学んでいただく活動など、地球温暖化防止を目指す取り組みを実施し、環境保全に積極的に力を注いでまいりました。さらに、WWF(世界自然保護基金)の活動である「クライメート・セイバース・プログラム」に物流企業として世界で唯一参加し、CO₂削減に向けた高い目標を設定してさまざまな対策を実施してまいりました。自然は一度破壊されてしまえば、元の状態に戻すまでには大変な労力を必要とします。次代を担う未来の子どもたちへ自然豊かな地球を渡すために、これからもさまざまな環境保全活動を推進していきます。

中期経営計画の基盤となる「ステークホルダー経営」

2007年度から2009年度までは、10年後のSGホールディングスグループを見据えた経営計画の第一段階として、「First Stage Plan」を策定し、「持続的に成長可能な事業基盤の構築」を目指してまいりました。デリバリー事業、ロジスティクス事業、その他事業でグループ各社が成長と拡大に向けて積極的な取り組みを展開した結果、2009年度は営業収益は8,881億円、営業利益は302億円となりました。

2010年度からは新たな中期経営計画「Second Stage Plan」をスタートさせました。ここでは「事業領域の拡充と収益基盤の強化」というテーマを掲げ、宅配便事業における収益基盤の一層の強化を図るとともに、重点事業への経営資源の集中によって、第2、第3、そして第4の柱となる事業の確立を目指します。

そして「Second Stage Plan」の基盤として打ち出したのが、「ステークホルダー経営」です。現代社会において企業が持続的に存続するためには、「顧客」「従業員」「地域社会」「株主」「取引先」との関係をより強固にしていくことが必要です。これまで以上にすべてのステークホルダーへの意識を強め事業を遂行していくことが、信頼の獲得につながるという考えのもと、今後も新たな価値の創出を目指してまいります。

ステークホルダーへの意識の強化は、CSRも加速させることです。お客さまのために、従業員のために、地域に暮らす人々のために何ができるか。それを突き詰め、行動することは、豊かな社会の創造につながると確信しています。

「ステークホルダー経営」を基盤に、これからもSGホールディングスグループは経営ビジョンである「グループ各社が、それぞれの事業基盤を築き、新たな価値を創出する」を目指して、さらなる挑戦を続けてまいります。

ステークホルダーとともに、
新たな価値の創出を目指します。



4 Eyes

SGホールディングスグループを 見つめる、4つの視点

CSRを実践する上で大切なことは、
企業が主体的に社会と向き合うと同時に
ステークホルダーが企業をどう見ているか、どうあってほしいか、
客観的な意見に真摯に耳を傾けること。
そこでさまざまな立場の方から、
SGホールディングスグループの「今」を語っていただきました。

1

消費者の視点

消費者問題の専門家による最前線レポート

人に、自然に、社会に優しい 物流がここに

業務の中で実践されるSGホールディングスグループのCSR



2

お客さまの視点

グローバルにビジネスを展開するお客さまの声

お客さまの夢の実現のために

SGホールディングスグループの総合力を生かした
物流ソリューション



3

従業員の視点

ワークライフバランスを実現する
セールスドライバーの声

家族の笑顔があって 働くことの喜びがある



4

有識者の視点

有識者と語り合う「CSRの今とこれから」

対談

今、SGホールディングス
グループが目指すべき
CSRとは？



人に、自然に、社会に優しい物流がここに 業務の中で実践されるSGホールディングスグループのCSR



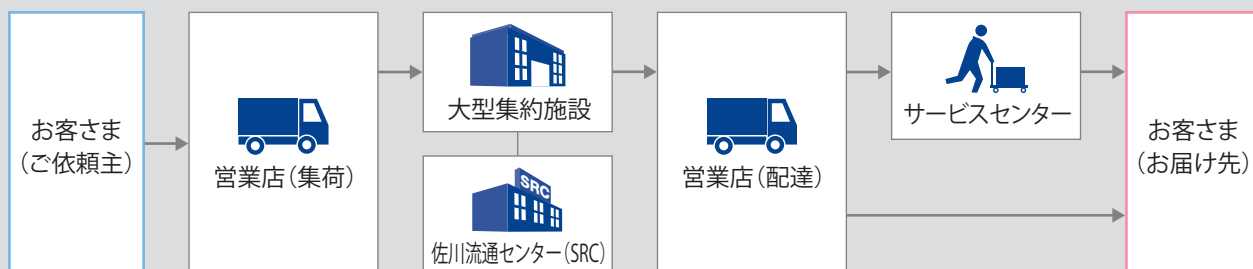
レポーター

辰巳 菊子 様

1948年大阪生まれ。奈良女子大卒。高校・大学で教鞭を執った後、1998年、社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会理事就任。特に環境問題に対して多方面で活躍中。

毎日大量のお荷物をお預かりし、
お客さまの必要なときに必要な場所へお届けしているSGホールディングスグループの
コア事業であるデリバリー・ロジスティクス事業。
各物流工程では、安全や環境、業務効率化に向けてさまざまな工夫がされています。
お客さまが普段目にするすることができないこうした物流現場での取り組みを、
消費者視点に基づいた提言活動を行っている
日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会の辰巳菊子様に見学いただき、
私たちの人と自然、そして社会への取り組みを体感していただきました。

■SGホールディングスグループの物流工程





営業店(集荷／配達)

荷物を預かる「集荷業務」、荷物をお客さまへ届ける「配達業務」を行っているのが営業店。安全や環境に配慮した取り組みが積極的に実践されています。

アイドリングストップの経済効果はなんと年間13.7億円

お客さまの荷物の大部分は、営業店のセールスドライバーによって集荷／配達が行われます。見学に訪れた佐川急便の千代田店は東京都千代田区エリアを管轄、約450人の従業員が勤務する店舗です。

トラックは配送エリアごとに割り当てられ、担当のセールスドライバーは出勤すると毎朝必ずトラックの点検を行っています。交通事故を未然に防ぐためには、ドライバーのテクニックの向上と同時に、日常の車両点検が必要です。さらに佐川急便では独自に「エコ安全ドライブ7ヶ条」を制定し、安全、環境、コスト削減に配慮した運転を実践しています。そのひとつがアイドリングストップです。ドライバーはキーチェーンを装着し、トラックから離れる際は必ずキーを抜くよう義務づけられています。仮に1日2時間のアイドリングストップを全車両で実施すると、1年間(300日換算)で約3万トンのCO₂排出削減につながり、燃料費は約13.7億円も抑制できるそうです。これは環境にも経営にも配慮した取り組みといえます。



トラックの日常点検は、毎朝行うそうです。他にも3カ月点検、12カ月点検と車両整備は徹底しています。



キー抜きによるアイドリングストップは、1997年より実施。キーを抜かなければ運転席を離れられない仕掛けとなっています。

天然ガストラックは、国内最多。環境配慮型企业として、物流業界を牽引

千代田店の施設内には、ディーゼル車に比べてCO₂やNOx※1の排出量が少なく、PM※2を排出しない天然ガストラック専用の充填スタンドがありました。天然ガストラックを間近で見ると、ボディの左右には大きなガス充填タンクが1本ずつ搭載されていました。2本を満タンにすると300キロ近く走行が可能で、燃費もディーゼル車とほとんど変わらないそうです。

天然ガスの充填スタンドは、国内では十分普及していないため、佐川急便では自主的に営業店などにスタンドを設置し、その数は全国で23カ所にのびります。また全国各地で走る佐川急便の天然ガストラックは約4,300台で、日本国内の民間企業では最多の数を誇っているそうです。町中でよく見かけるのも道理です。こうした数字からも、環境への取り組みを積極的に推進している企業ということがわかります。

※1 Nitrogen Oxide:窒素酸化物(光化学スモッグや酸性雨などを引き起こす大気汚染原因物質とされる)

※2 Particulate Matter:粒子状物質(ぜんそくや気管支炎を起こすとされる)



天然ガススタンド。見た目はガソリンスタンドと変わりません。



大型集約施設

大型集約施設では、営業店から集められた荷物をエリアごとに仕分けし、協力会社のトラックが輸送しています。徹底した輸送品質の向上と効率化により、お客さまのニーズにお応えしています。

1時間に21,000個を処理する 自動仕分機で、積載効率を向上

佐川急便の大型集約施設は全国5カ所あり、各営業店から集められた中長距離の荷物をセンターに集約し、エリアごとに仕分けし直して大型トラックの積載率を上げ、輸送の効率化を図っているとのこと。訪れたのは東京湾に近い「Tokyoビッグベイ」です。

1階のターミナルではトラックから次々と荷物がベルトコンベヤーに降ろされていました。ここでは作業スタッフによって、通常の荷物は自動仕分機がある2階へ続くラインへ、割れものや重心の不安定な荷物は手仕分けが行われる1階のラインへと選別されていました。

自動仕分機では、ベルトコンベヤーを流れる荷物に貼られたバーコードデータをスキャナが読み取り、配送エリアごとに仕分けを行っていました。自動仕分機は約30年前の導入から改善を重ね続け、現在の処理速度は人間の約3倍、1時間に21,000個の仕分けが可能だそうです。一方、1階の手仕分けラインでは、スタッフが壊れやすい荷物を慎重にひとつずつ、仕分けをしていました。このような、自動仕分けと手仕分けの2工程があることで、荷物を早く、正確に、そして安全にお届けできることがよくわかりました。



手前が自動仕分け、奥が手仕分けのライン。手際良く作業が行われています。



自動仕分けのラインは大きな施設を周回。その途中にあるシュート(滑り台)へ、自動的に荷物を振り分けていきます。

郵便局のインフラを利用した 飛脚ゆうメール

続いて案内されたのがTokyoビッグベイの5階。ここは「飛脚ゆうメール」の仕分け拠点、「ゆうメールセンター」です。

飛脚ゆうメールは法人のお客さまから荷物を預かり、これらをゆうメールセンターで郵便番号ごとに仕分けしたのち、佐川急便が差出人となって郵便局へ差し出すサービスです。お客さまが飛脚ゆうメールを選ぶ最大のポイントはコスト削減だそうです。佐川急便が差出人となることでお客さまは佐川急便と郵便局が交わしている契約料金で利用可能となり、コストメリットが非常に高くなるのです。差出方法が異なるため通常の郵便と比べて日数は少し余分にかかりますが、納期厳守でない限り、このサービスはお客さまにはとても嬉しいサービスです。この飛脚ゆうメールのほかに、佐川急便ではセールスドライバーがお届け先のポストに直接投函する「飛脚メール便」も展開しているそうです。法人のお客さまにとっては、配送サービスに選択肢があることは、大きなメリットですね。



全国の郵便局ごとに自動仕分けが行われます。佐川急便は仕分け済みの荷物を郵便局の拠点に搬入し、そこから先は郵便局の業務となります。



営業店から集まった荷物は、行き先や重量などを管理するためにバーコードが貼付されます。



佐川流通センター (SRC)

SRCでは、メーカーなどから商品を入荷し、その後の検品、一次保管、値付けなどの「物流加工」から出荷までを一元管理しています。

一元管理によって輸送の無駄を省く

検品、保管、値付けなどの各業務を別々の場所で行えば、その分移動の負荷がかかります。SRCではこうした作業を同じ施設内で行うことで、輸送のコストとCO₂の削減を図っています。また、膨大なアイテムの入在庫管理は、SRCを運営する佐川グローバルロジスティクスとさまざまなシステム構築を担当するSGシステムとの連携により万全の体制で行われていました。利用する企業にとっても、コストは業務にかかる在庫スペースと人件費だけなので、固定費の削減につながり喜ばれているそうです。最近では、出荷時に段ボールではなく繰り返し使用できるハンガーボックスを利用するなど、環境に配慮した輸送手段に切り替えるケースも増えているそうです。



ハンディスキャナで出荷指示書のバーコードを読み取ると、近い棚から順番に出荷商品情報がスキャ画面に表示。初心者でも効率的にピッキングができます。



私が訪れた東京(勝島)SRCでは在庫を正確に管理するために、ハンディスキャナとバーコードを用いたデータベースシステムを導入していました。



サービスセンター

都市部の渋滞緩和や大気汚染物質の排出量削減、輸送の効率化を目的に、台車や自転車による集荷・配達を行っています。「ゼロエミッション」という究極のエコ物流に取り組んでいます。

人力によるデリバリーで、物流の効率化、CO₂削減を実現

サービスセンターでは、配送方法をトラックに依存するのではなく台車や三輪自転車を用いた人力による配送が行われていました。都市部などビルが密集する地域では、トラックよりもずっと効率的だそうです。1店舗あたりの担当エリアは半径400メートル程度で、数分で目的地に到着できます。こうした取り組みの結果、サービスセンター1店舗につき、平均4～5台の車両が削減できたそうです。つまり業務効率化を目指した結果、都市環境の改善にもつながったのです。

サービスセンターなら運転免許がなくとも働くことができますし、女性従業員が大勢活躍していることにも注目です。見学先も従業員9名中7名が女性。物流業界イコール「男性」というイメージが強かったのですが、女性でも活躍できる職場があることを再認識しました。



サービスセンターは2010年3月現在、全国251カ所に展開。佐川急便全体で1,260台もの増車抑制につながっています。



一度の集配作業は20～30分で終了。すぐに店舗に戻って次の集配先へ。機動力でお客さま満足を追求しています。

見学を終えて

辰巳 菊子様

普段、配達の方を通じ、身近に接している佐川急便でしたが、改めて荷物が預けられ、相手に届けられるまでに、安全への配慮や時間短縮のための効率化、そして、環境負荷削減に向けてさまざまな取り組みをされていることが確認できました。私はさまざまな環境問題に携わっていますが、問題解決のカギは、「もったいない」思想だと考えています。今の佐川急便の取り組みにさらに加えるならば、物流の包装にはできる限りリサイクルボックスを使用する、配達先に受取人がいることを確認し、1回の訪問で確実に業務を終わらせる、といった取り組みを推進することだと思います。それにはお客さまの理解が何よりも重要です。SGホールディングスグループには、消費者の声に耳を傾け、コミュニケーションを重ねながら、これまで以上に豊かな社会を目指したグループならではの取り組みを実践してくださることを期待しています。

お客様の夢の実現のために

SGホールディングスグループの総合力を生かした物流ソリューション



新潟県の山間部、豪雪地帯として知られる十日町。ここで、きもののトータルケアや製造・販売を通して着実に業績を伸ばしているお客様がきものブレイン様です。グローバルで事業展開しているきものブレイン様の輸送業務に関して、SGホールディングスグループでは、佐川急便や佐川グローバルロジスティクス、そして海外法人の佐川急便ベトナムとの総合力を生かした物流システムをご提供しています。

株式会社きものブレイン
代表取締役社長

岡元 松男 様

株式会社きものブレイン
取締役副社長

岡元 眞弓 様

きものをより身近に。 新しい発想で挑戦を続ける きものブレイン様

成人式や結婚式など、特別な時にきものを着る人は数多くいますが、現在きものを日常着として着用している人は少なくなりました。きものの需要が減少傾向にある中、きものブレイン様では、誰もが簡単に着られるように加工した「フィット仕立て」や、リーズナブルな価格の「プレタきもの」など、若い女性を中心

にきものをより身近に感じてもらえる商品を考案し、着実に業績を伸ばしています。

そして、きものブレイン様の縫製を支えているのが、2006年にベトナムのホーチミン市に設立した自社直営のベトナム工場です。この工場では170名の従業員がきものの縫製作業を専門に行っており、現在は年間約7万点ものきものが縫製されています。岡元眞弓副社長は、「今やベトナムの縫製技術は着実に上がっており、日本にも引けを取らない品質を誇っています。今後さらにベトナム工場での縫製量は高まっ



株式会社きものブレイン

1976年創業。従業員数230名。きものアフターケアやビフォー加工（ガード加工・修正・縫製）から開発・販売まで手がける企業。「地場産業の発展」と「障がい者雇用」にも積極的に取り組み、1995年にはその取り組みが高く評価されました。さらに、2008年には従業員が優秀勤労障がい者として厚生労働大臣賞を受賞されています。



安全かつ迅速な輸送が求められます



ていでしょう」と大きな期待を寄せています。

日本ーベトナム間の 円滑な物流システムを実現

ベトナム工場での縫製作業量が高まるにつれ、日本ーベトナム間の輸送が大きな課題となりました。日本からベトナム工場に撥水などのガード加工を施した生地を送り、工場で縫製後、日本に送り返すまでの期間はわずか2週間しかありません。当初は国内輸送と海外輸送を別々の物流会社に依頼していたのですが、納期が遅れる、アクシデント発生時の対応が不十分など、リスク回避にも問題があったようです。

そこで、かねてから国内輸送で取引のあった佐川急便(六日町店)に相談が持ちかけられ、SGホールディングスグループの総合力を生かしたトータルソリューションをご提案しました。

当社グループは、お客さまの国内拠点から海外拠点までの輸送、物流加工などをワン・ストップでお引き受けします。きものブレイン様の場合、輸出入に関わる輸送や通関業務を行い、海外法人である佐川急便ベトナムがベトナム国内の輸送を行っています。もちろん、SGホールディングスグループの総合力を生かし、日本国内では佐川急便によってご要望に応じた輸送手段で店舗や消費者まで商品をお届けしています。このような国際一貫輸送により、2週間という厳格な納期に対応できる体制が整いました。

岡元副社長は「きものは高価なうえ、お客さまが着る日も決まっているもの。納期はもちろん、丁寧・安全に

運ぶことが求められます。万一の事態が起きた場合にも、グループ一貫輸送の体制はとても心強く、信頼しています」という評価をいただきました。

お客さまにとって 最適な物流ソリューションを 目指して

「仕事は作るもの」「変革なくして明日はない」とおっしゃる岡元松男社長。きものブレイン様では新たに「きもの保管サービス」や新しい繊維加工技術を活用した「超撥水ドリームケア」といった新技術を開発し、きもの以外の繊維分野への進出など、新たな事業展開を進めています。

さらに今後は中国で同新技術の事業が本格化されれば、日本ー中国間の国際輸送も想定され、さらなるグローバル化により、ロジスティクスの重要性も今まで以上に高まると考えられます。

「事業に専念するために、物流分野は信頼できるパートナーと組むのが一番」と副社長がおっしゃる通り、現在、企業に求められているものは、もてる経営資源をコア事業に集中し、経営効率の向上を図ることです。物流効率の向上により、経営効率を高めることが企業経営の重要なファクターとなっています。

SGホールディングスグループでは、お客さまの物流業務を包括的に受託し、全体最適の概念からソリューションを追求することで、物流合理化を実現し、お客さまとともに成長していくことを目指しています。



ベトナム工場での縫製作業



しみが酸化した「黄変」をていねいに落とす



「箔直し」の作業は美術品の修復のよう

家族の笑顔があって 働くことの喜びがある

愛する家族の幸せを願い、家族の笑顔のために毎日汗を流す。

それは、一人の人間としてとても尊い生き方だと、私たちは考えています。

オンとオフ、それぞれの時間を大切に、毎日充実した生活を送るセールスドライバー。

彼ら一人ひとりの「活力」が、SGホールディングスグループを支えています。

お客さまとの コミュニケーションが大切

2003年、29歳で佐川急便に入社。「スタートの年齢が他の人より上だったこともあり、『年下の人には負けまい』『家族のために』と自分なりにがんばってきました」佐川急便の石野健志は、入社7年目のセールスドライバーで、現在、八王子店で主任として活躍しています。

「入社当時は、作業量が多く、目の前の仕事をこなすだけで精一杯でした。しかし今は、同僚であるセールスドライバーと車両が増え、輸送効率も向上しているため、お客さまと接する時間が多く取れるようになりました。私たちの仕事はお客さまとのコミュニケーションから

広がっていくものです」

担当エリアは工業団地が中心。精密機械を運ぶことも多いため、特にお客さまとの信頼関係が重要です。「お客さまから『佐川さん』と呼ばれていたのが、『石野さん』と個人名で呼ばれるようになった時は、とても嬉しかったです」

徐々に信頼関係を深め、お客さまのニーズを的確にキャッチできるようになったことで、石野主任は今、「仕事をこなす」から「仕事をつくる」にステップアップできた充実感を感じているとのことでした。

何よりも安全が優先。 セールスドライバーの原点

「主任という立場は部下の管理だけではなく、会社の経営に対する意識も必要です。責任の重さを感じるとともに、やりがいも大きくなりました」

主任になって2年。8名の部下の指導に加え、自らもハンドルを握って営業活動に従事する石野主任。

「セールスドライバーとして心がけているのは、何より安全

佐川急便 八王子店
営業課 主任

石野 健志

2003年入社。SD指導員※1、運行管理者資格(国家試験)取得。優れた業績を認められ、2009年度「最優秀社員」を受賞。趣味は食べ歩き。

※1 SD(セールスドライバー)指導員:業務に精通し、知識・技術・指導力があり、かつ試験に合格した従業員。(詳しくはP38をご覧ください)





どんなに忙しい時も丁寧、
かつ慎重な作業を心がけています



無事故無違反は家族の誇り

運転と健康管理。出発前の車両点検はもちろん、早めのギヤチェンジやエンジンの回転数を1,500回転以上にしないなど、エコ安全ドライブを徹底しています。睡眠も充分にとり、運

転中も注意が散漫にならないよう気を引きしめています」

SD指導員の資格を持つ石野主任。当たり前のことを当たり前に行う、佐川急便のセールスドライバーとしての心構えを忘れず、お客さまと接していきたいと語っていました。

ツを通してひとつになれる一大イベントに参加して改めて福利厚生充実さを実感しました。今度は絶対に家族と一緒に連れてきたいと思います」

仕事のオンとオフ、それぞれの時間を大切に、充実した毎日を送っている石野主任。家族とやすらぎの時間を過ごすことが、仕事の原動力になっていると、強く感じられました。

SGホールディングスグループは、従業員はもちろん、その家族もグループの一員と考えています。これからも、さらに働きやすい職場環境づくりに努め、従業員、家族の幸せを支える企業でありたいと考えています。

※2 SSF:SGホールディングスグループスポーツフェスティバル(詳細はP75)
※3 守山パーク:SGホールディングスグループのスポーツ・文化総合施設

仕事と家庭の両立。 家族とのやすらぎが、仕事の原動力

石野主任は奥さまと長女、長男の4人暮らし。休日の気分転換は何ですか?という問いに「家族といること」と即座に答えが返ってきました。「家族をもっといろいろな所に連れて行ってあげたいですね。SGホールディングスグループは福利厚生の施設や家族も参加できるイベントなども充実しているので、どんどん利用したいと思っています。2009年度の最優秀社員に選ばれ、優秀社員表彰式とSSF※2へ参加するために、初めて滋賀県守山市にある『守山パーク※3』を訪れました。従業員とその家族がスポー

トラックを運転しているパパ、かっこいい!

以前、家の近くで配達中の主人を子どもたちが偶然見かけ、「パパ、かっこいい!」と叫んでいました。忙しい仕事ですが、入学式、運動会など子どもの行事には必ず休みを取ってくれるので、子どもたちも喜んでます。車を運転する仕事ですから、日頃から栄養管理、健康管理には充分気を使い、気持ちよく出勤できるように心がけています。これからも体に気をつけて、安全運転でお願いします。



COLUMN

誰もがいきいき働ける職場を目指して

SGホールディングスグループにとって、従業員はかけがえのない「人財」。一人ひとりの能力を最大限発揮できる職場づくりに力を注いでいます。

男性、女性の区別なく優秀な人財に活躍してほしい

佐川アドバンスでは、男女の区別なく従業員を積極的に登用し、職場では女性の管理職も多数活躍しています。また、ダイバーシティに関する会議も毎月行い、その内容は社内報を通じて従業員に告知しています。今後は、男性従業員の育児休暇や介護休暇の取得など、仕事と家庭の両立を実現しながら、誰もが安心して働き続ける環境づくりを目指していきます。



佐川アドバンス
大阪支店
人財開発事業部
課長
山本 美也子

対談

今、SGホールディングスグループが 目指すべきCSRとは？

お客さまのために、地域社会のために、従業員のために、そして地球の未来のために。
私たちは事業を通して、さまざまなCSR活動を行っています。

今まで以上に高い成果をあげるために、今後どのようなスタンスで取り組むべきか、
当社のCSR担当部長である小林康男と国連環境計画 金融イニシアチブ特別顧問の
末吉竹二郎様が語り合いました。

国連環境計画 金融イニシアチブ特別顧問

末吉 竹二郎 様

1945年、鹿児島県生まれ。東京大学経済学部卒業後、三菱銀行（現 三菱東京UFJ銀行）入行。ニューヨーク支店長、取締役、東京三菱銀行信託会社（ニューヨーク）頭取、日興アセットマネジメント副社長を経て、2003年に国連環境計画 金融イニシアチブ（UNEP FI）特別顧問に就任。現在もUNEP FIの活動にかかわる他、環境問題や企業の社会的責任についての講演や啓発活動を積極的に行っている。情報番組のコメンテーターとしても活躍している。

SGホールディングス株式会社 事業戦略部 総務・CSR担当部長

小林 康男

世界のCSR最新動向は、 環境情報の開示がポイント

小林 はじめまして。SGホールディングスのCSR担当部長の小林と申します。今日はCSRに造詣の深い末吉さんとの対談ということで、楽しみにしております。国連環境計画 金融イニシアチブの特別顧問をされておられますが、どういう取り組みをされているのですか。

末吉 10年ほど前、投資信託の会社で仕事をしていた時、「エコファンド」という新しい投資信託のファンドができました。環境活動に積極的に取り組む企業への投資で、こうした金融商品と環境問題を結びつけたのは日本初の試みだったわけです。売れ行きも好調で、それが国連の目に留まり、国連環境計画 金融イニシアチブの会議に私が説明に行きました。それが縁で特別顧問としてお手伝いすることになったのです。世界の金融機関との協力体制の中で、金融機関のさまざまな業務における環境や持続可能性に配慮した望ましいあり方を模索しながら、普及・促進に取り組んでいます。

小林 国際的な活躍をされていますが、最近の世界的なCSRの傾向についてお話を伺えますか。

末吉 世界にインパクトを与えることが、2010年の1月にありました。SEC※が、「これから上場企業は社会に公表する情報の中に、気候変動、温暖化問題に関する情報を入れなさい」という発表をしたことです。当たり前だと思われるかもしれませんが、これまでのSECでは、貸借対照表や損益計算書など、企業の資産状況に関する情報をしっかり開示することが重要だという考えでした。

※ SEC: Securities and Exchange Commission。証券取引委員会。アメリカ合衆国における株式や証券取引を監督・監視する連邦政府の機関。

小林 株主・投資家に対して、財務諸表の開示で充分である、ということですね。

末吉 そうですね。ところがそのSECに対して、ここ数年アメリカの年金基金が、「財務データだけでは不十分である。企業の環境、社会的責任、そしてガバナンスなどのESG問題に関する情報を、全部義務として出させなさい。そうしないと企業の実態がわからない、ほんとうに投資していいかの判断ができない」という



ことを言い始めた。そういう要求を受けて、SECが今回ガイドラインで、どういう情報を出すのかという解釈の見直しを図ったのです。

法規制が進む環境問題。 早期の対策で業界をリードする

小林 それは、新たな情報開示のガイドラインが策定されるということですね。環境情報の開示では、ちょうど日本でも省エネ法が改正になりました。企業が自分のところで使ったエネルギーを把握して報告し、目標をきちんと持って毎年提言することが義務づけられています。

SGホールディングスグループとしても、全社の使用エネルギーを把握するため、グループ各社の社長と幹部を対象にセミナーを行っています。そのセミナーの講師の方が、末吉さんが言われたような財務諸表に財務情報だけではなく、温暖化対策、つまりどれくらいエネルギーを使っているかなどを開示しなければならない時代が来ているとおっしゃっていました。環境にやさしい、と口で言うのは簡単ですが、将来的な

リスクに対しての対策は難しいことが多いと感じています。

私たちは、環境問題もCSRの重要課題と捉え、地球温暖化に対しても積極的に取り組むため、自主的に環境活動をスタートさせました。今回、省エネ法の改正によって新たな規制がかかってくるわけですが、よりいっそうCSR活動という捉え方だけではなく、環境への取り組みも法令遵守、つまりコンプライアンスの方へ徐々にシフトしてくるものと考えています。今まさに言われたような財務情報に地球温暖化対策に関する情報を入れるなど、環境対策や社会的問題とビジネスとが深く関わってくると思います。

私たちもすでに先のことを見越して、データや開示の仕方に関する情報を収集しながら、事業に取り組んでいこうと考えています。日本ではこのような規制やルールがいつ頃からと予想されますか？

末吉 地球温暖化対策基本法案が閣議決定され国会に提出されました。これが通れば日本もはじめて法律に基づくCO₂の国家削減目標を持つ国になる。2020年までに、25%削減という目標ですね。この法案で



具体策が打たれてくると、この2、3年のうちに、日本にもさまざまな規制やルールが導入されると思います。

先ほどの小林さんのご質問に対して、1点強調したいことがあります。温暖化をストップさせるためのルールは前倒しでくる。温暖化のための対策はすぐにも打

たなければいけないということです。ということは、法律や規制は前倒しでくる。そして、決まった途端にビジネスに影響します。そのスピード感を考えて準備をしておくことが必要だと思いますし、逆にいえば準備をしている企業は、新たなビジネスチャンスが生まれると思います。

車を使わない物流へ。 究極の目標はゼロエミッション※1

小林 私たちも末吉さんがおっしゃっているスピード感の必要性は感じています。1997年の京都議定書が採択された国際会議場へお荷物を輸送しましたが、それ以降、経営に環境対策を取り入れていこうという動きが社内で高まってきました。例えば一般的なディーゼルトラックに比べてCO₂やNO_xの排出量が少なく、PMを全く排出しない天然ガストラックの導入を推進しています。現在民間企業としては最多の4,355台※2を保有しています。もちろんエコだけではなく、物流を主とする事業では安全への取り組みも重要です。環境に配慮したエコ安全ドライブを推進し、すべての従業員への教育にも取り組んでいます。

また、道路や建物に関する規制の厳しい東京では、究極には車を使わない物流をやろうということで、都市部を中心にサービスセンターの設置を拡大し、そこにお荷物を運びこんで、台車や自転車配送する取り組みを行っています。つまり法の規制に対応するために物流の効率性を考えていくと、さまざま

なエコにつながってくるのですね。

末吉 都市部ではできるだけ車を使わないとか、そういうコンセプトが実はこれから求められるのだと思います。現在、世界的にゼロエミッションというコンセプトが強く求められ、それを実施しようという動きが出ています。少し減らす、もっと減らすということではなくて、都内では究極的には車で配送しないというようなゼロエミッションの考え方は、これからの時代にすごくマッチしていくと思います。

※1 ゼロエミッション(zero emission):企業などで排出される廃棄物を、別の企業の原料として使うなどして、トータルで廃棄物をゼロにしようというもの。

※2 2010年3月現在

問題意識を出発点に、 ステークホルダー経営を

小林 SGホールディングスグループでは、3年ごとに中期経営計画のプランを区切っていて、2010年度からSecond Stage Planに入り、新たに「ステークホルダー経営」という考え方を打ち出しました。お客さま、従業員、地域社会、株主、取引先など、さまざまなステークホルダーの期待に添えていくことを基本方針として掲げていま



す。今の社会はさまざまなステークホルダーとの関わりが重要であると考えます。それぞれのステークホルダー

にとってすべてがプラスになる形でやっていくというのは大変難しいことだと思いますが、末吉さんはどのようにお考えですか。

末吉 「ステークホルダー経営」を、より具体的な言い方で伝えていったほうがいいと思います。社会のインフラの一翼を担うSGホールディングスグループの事業活動が、今何を問題に思っているのか、何をしたいかと思っているか、ということが出発点になると思います。そうした問題意識から、問題解決に向かうときに自分たちの次の目標がそこにある。そこで、まず何を問題視するのかというときの視点として、ステークホルダーの視点があるわけです。解決の手段を選択するときも、順番を序列づけするときも、

ステークホルダーからの視点を持ち、取り組むことが重要なことだと思います。

小林 ステークホルダーからの視点を常に持って、問題と対峙する、ということですね。

末吉 英語でバウンダリーと呼んでいますが、仕切りの範囲のことです。今まではSGホールディングスグループという「仕切りの範囲」で問題を考えていた。それは事業を展開するうえで当然のことです。しかし現在、社会が要求しているのは、今までのSGホールディングスグループのバウンダリーだけで充分なのかということ。SGホールディングスグループを取り囲む地域社会がある、日本がある、アジアがある、世界がある。グループの枠を取り払って、もっと広い地域社会で見たときにSGホールディングスグループにとってベストなことが、地域社会にとってもベストなことなのかが重要だと思います。

小林 なるほど。もっと視野を広く持って、パラダイムを変換していかないと企業は生き残れないということですね。

末吉 SGホールディングスグループにとってCSRとは何か。事業活動それこそが社会にとって重要なニーズ



である「物流」を担っているということ。物流企業だからこそやらなければならないことがあるはずで、それは大きな経営課題であると同時に、社会にとっても大きな関心事なのです。社会やすべてのステークホルダーは、物流という事業が何を考えているのか、その問題意識と解決策に期待しているのです。

私は、SGホールディングスグループは環境に対して先駆的に取り組んでいる企業だと、心強く感じていました。実際に小林さんからいいお話が伺えてとてもよかったですと思っています。世界はどんどん変わってきています。社会の問題解決に、企業こそが当事者になってほしいですね。

小林 CSRへの取り組みは非常に難しいと思いますが、これからも社会やステークホルダーの期待に応えられるよう、活動していきます。本日はありがとうございました。



対談を終えて

末吉 竹二郎 様

これからのCSRにも期待

SGホールディングスグループの歴史を見るとCSR活動に非常によく取り組んでいらっしゃると思います。「経済が停滞している今だからこそ、CSRを改めて考えていかなければならない」とトップの方がおっしゃっていることは、まさしくその通りです。目先のことに一喜一憂するのではなく、次世代、次々世代のために永続的にCSRを行っていくことが大切です。私も含めて消費者は、SGホールディングスグループがどんな次世代物流システムをつくってくれるのだろう、どんなふうに生活を変えてくれるのだろうと、わくわくしているのです。これからも期待しています。

▶ SGホールディングスグループの 理念と指針

SGホールディングスグループの企業活動は、すべての経営者とすべての従業員の倫理観を持った行動によって築き上げられています。業務の適正を確保するための体制づくりと法令遵守体制の構築を図るため、「企業理念」「行動憲章」「倫理・行動規範」を制定し、全社で取り組んでいます。

SGホールディングスグループ企業理念

SGホールディングスグループ行動憲章

SGホールディングスグループ倫理・行動規範



SGホールディングスグループ統一スローガン

SGホールディングスグループ企業理念

SGホールディングスグループは、佐川急便の創業の原点である「飛脚の精神(こころ)」を継承するとともに、人権の尊重および、法令の遵守をもって公正且つ自由な企業活動を行います。

「飛脚の精神(こころ)」とは
「迅速・確実・丁寧」をモットーに、

- 一. 顧客第一主義に徹する
- 一. 地域社会の発展に奉仕する
- 一. 責任と誠意を使命とする

SGホールディングスグループ行動憲章

— 社会の信頼と共感を得るために —

責任規定

経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し率先垂範の上、SGホールディングスグループをはじめとする関係者に周知徹底させ、実効のある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。また、本憲章に反する事態が発生したときには、自らが問題解決にあたる姿勢を内外に表明し、原因究明、再発防止に努めます。

共同宣言

SGホールディングスグループのすべての役員および従業員は、いかなるときでも一致団結して次の原則を実践するために、責任をもって行動します。

行動原則

- 1 社会的に有用なサービス・製品を安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分配慮して開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得する。
- 2 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
- 3 国際的な事業活動においては、国際ルールやその国の法律の遵守はもとより、文化や慣習を尊重し、その地域の発展に貢献する経営を行う。
- 4 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動する。
- 5 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保つ。
- 6 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決する。
- 7 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
- 8 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現する。

SGホールディングスグループ倫理・行動規範

私たちは、「SGホールディングスグループ行動憲章」を具体的に表現した本倫理・行動規範に則り行動します。

- 1 私たちは、顧客第一主義に徹して考え行動します。
- 2 私たちは、地域社会の発展に奉仕する事を考え行動します。
- 3 私たちは、公明正大に、責任と誠意をもって考え行動します。
- 4 私たちは、自分と職場の人たちの成長、よりよい仕事ができる職場づくりを考え行動します。

SGホールディングスグループ統一スローガン

安全 環境 そしてサービス

すべての品質を世界標準へ。

SGホールディングスグループのCSRの考え方と体制

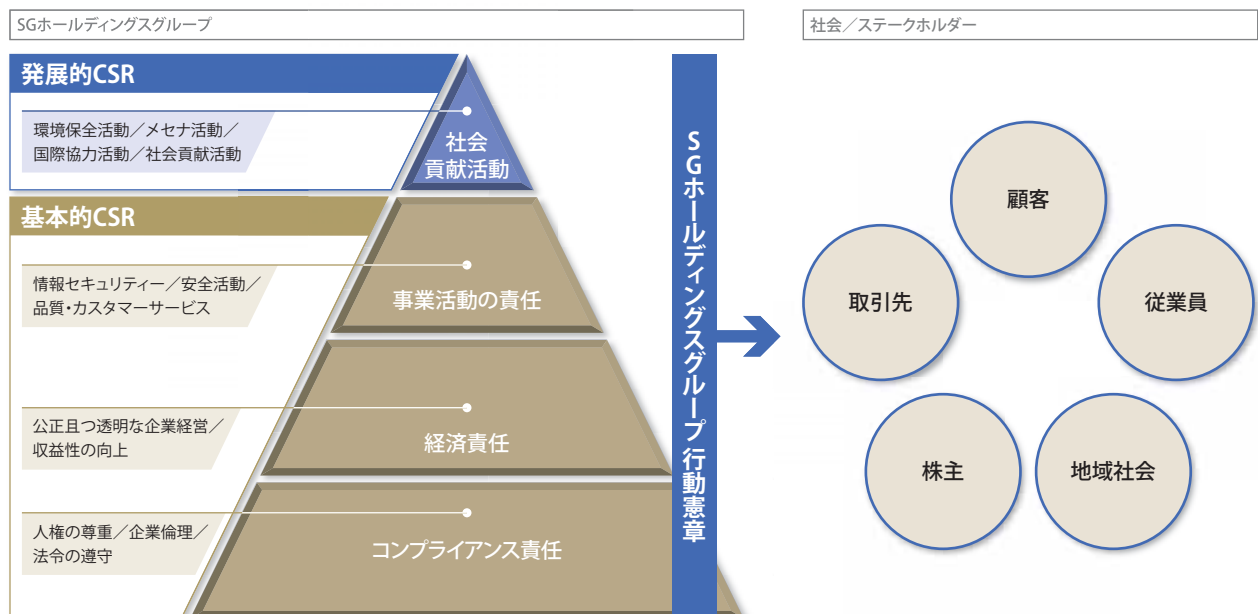
CSRの基本概念

CSRを果たすことは、多様化・高度化する社会からの要請や期待に応えるための適応力であり、企業の信頼性の確保に努めるものと考えています。

当グループのCSR概念として、「基本的CSR」と「発展的CSR」の2つがあり、企業活動が存続するための「法令遵守」

などは必須事項として、基本的CSRと捉えています。この基本的CSRの上に、顕在化するさまざまな社会からの期待や要請に対応し、貢献していくための発展的CSRがあります。この2つの柱でCSRを成り立たせるものと考えています。

■SGホールディングスグループ CSR基本概念図

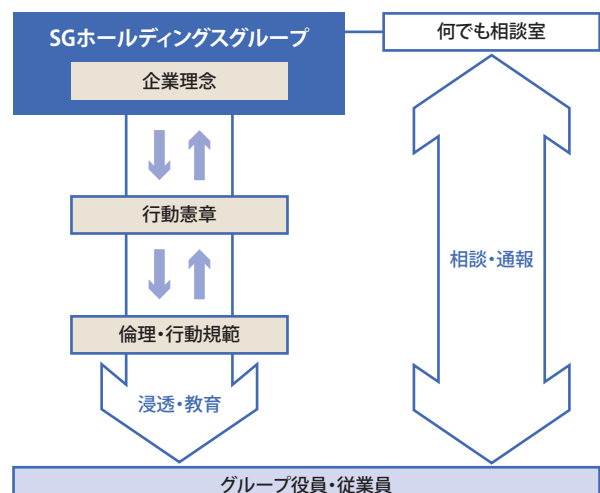


CSR推進体制・「倫理・法令遵守(コンプライアンス)体制」への取り組み

CSR委員会は「SGホールディングスグループ行動憲章」の実践をCSR活動と位置づけ、グループ全体の経営に反映すべく管理体系の構築と、継続的改善活動を推進することを目的としています。グループ中期経営計画(2007～2009年度) First Stage Planでは、会社法における内部統制を主眼としたSGホールディングスの「倫理・法令遵守体制」としてグループの「企業理念」「行動憲章」を統一し、「倫理・行動規範」を策定してグループ統一の大綱(統制環境)を構築するとともに、「倫理・行動規範」の教育・浸透を図り、2009年度はグループ全従業員を対象に浸透度のモニタリングを目的としたアンケート調査を実施し28,722名の回答を得ました。

「活気ある働きやすい職場づくり」をテーマとして「倫理・行動規範」の完全浸透を目指し健全な企業風土をつくる活動を推進いたします。

■SGホールディングスグループ「倫理・法令遵守体制」大綱



※CSR委員会はSGホールディングス株式会社の取締役全員で構成されています。

内部統制システムの基本方針(概要)

SGホールディングス株式会社は、グループの企業活動全般にわたり、企業としての社会的責任を果たし、株主をはじめとするステークホルダーの信頼を得るために、不祥事を防止し、業務執行の有効性・効率

性、法令の遵守および財務報告の信頼性を確保するための内部統制システムを構築することが必要不可欠であり、本方針を以下のとおり定めています。

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 業務執行体制 | 6 企業の社会的責任 |
| 2 情報の取り扱い | 7 業務遂行体制に関する事項 |
| 3 財務面の統制 | 8 監査体制に関する事項 |
| 4 業務執行に関する情報の保存および管理 | 9 取締役および従業員の監査役への報告体制 |
| 5 リスク管理の原則 | 10 内部監査体制 |

コンプライアンス経営を強化し、社会からの信頼回復を目指します

路上パーキング不正使用に対する再発防止について

佐川急便において、路上パーキングの不正使用がありました。

【概要】

佐川急便の従業員2名は、東京都豊島区においてトラックを長時間にわたり駐車する目的で路上パーキングメーターを不正に操作していたことが判明いたしました。これにより、2009年9月警視庁より偽計業務妨害の容疑で書類送検されました。

【再発防止策】

佐川急便では、2007年に同様の事案を発生させたことを受け、全営業店に対して路上パーキングの利用状況を調査するとともに、全従業員に対して路上パーキングの適切な使用についての指導・監督の強化に取り組みました。にもかかわらず、今回も同じ不適切な行為が判明したことについて、大変重く受け止めております。今後も再発防止に向けて全従業員への指導・教育を改めて強化するとともに、現場での指導・管理体制の再徹底を図り、再発防止に努めてまいります。

SGホールディングスグループでは、今回の事態を厳粛に受け止め、ご迷惑をおかけしたことを慎んでお詫び申し上げます。今後はコンプライアンスのさらなる取り組みを強化し、グループ一丸となって再発防止に取り組んでまいります。

SGホールディングス株式会社

企業情報



商号

SGホールディングス株式会社(SG HOLDINGS CO., LTD.)

設立日

2006年3月21日

所在地

京都市南区上鳥羽角田町68番地

資本金

113億8,300万円

役員一覧

| | |
|-----------------|--------|
| 代表取締役会長 兼 社長 | 栗和田 榮一 |
| 代表取締役専務 | 辻尾 敏明 |
| 取締役 ロジスティクス事業担当 | 直井 好昭 |
| 取締役 経営戦略担当 | 近藤 宣晃 |
| 取締役 事業戦略担当 | 久森 健二 |
| 取締役 財務戦略担当 | 三谷 徹 |
| 社外取締役 | 高木 邦夫 |
| 常勤監査役 | 鈴木 喜一 |
| 常勤監査役 | 富永 正行 |
| 監査役 | 堤 義成 |
| 監査役 | 石井 和人 |

沿革

| | | | | | |
|-----------------|-------|------------------------------|-----------------|-------|---------------------------|
| 1957 (昭和32年) | ▶ 3月 | 京都―大阪間を主体とした 飛脚業を開始 | 1989 (平成元年) | ▶ 2月 | 「財団法人佐川がん研究助成 振興財団」設立 |
| 1965 (昭和40年) | ▶ 11月 | 「佐川急便」設立 | 1990 (平成2年) | ▶ 12月 | 「佐川林業」設立 |
| 1975 (昭和50年) | ▶ 7月 | 「佐川アドバンス」設立 | 1998 (平成10年) | ▶ 1月 | 「公益財団法人佐川美術館」設立 |
| 1980 (昭和55年) | ▶ 5月 | 「SGモーターズ」設立 | 2001 (平成13年) | ▶ 9月 | 「ヌーヴェルゴルフ倶楽部」設立 |
| | ▶ 9月 | 「佐川グローバルロジスティクス」 設立 | 2005 (平成17年) | ▶ 3月 | 「佐川フィナンシャル」設立 |
| 1981 (昭和56年) | ▶ 7月 | 「SGホールディングスグループ 健康保険組合」設立 | 2006 (平成18年) | ▶ 3月 | 純粋持株会社 「SGホールディングス」設立 |
| 1983 (昭和58年) | ▶ 2月 | 「SGシステム」設立 | 2007 (平成19年) | ▶ 8月 | 「SGリアルティ」設立 |
| | ▶ 11月 | 「SGホールディングスグループ 企業年金基金」設立 | | ▶ 8月 | 「SGモバイルサポート」設立 |
| 1986 (昭和61年) | ▶ 2月 | 「財団法人佐川留学生奨学会」設立 | 2009 (平成21年) | ▶ 2月 | 「ワールドサプライ」グループ会社化 |
| | ▶ 10月 | 「財団法人佐川国際経済協力会」 設立 | | ▶ 6月 | 「SGモーターズ関越」 グループ会社化 |
| 1988 (昭和63年) | ▶ 10月 | 「佐川引越センター」設立 | 2010 (平成22年) | ▶ 2月 | 「佐川ロジスティクスパートナーズ」 事業開始 |

(現在の社名・団体名で表記しています)

事業の 取り組み

事業基盤の構築と
新たな価値創出を目指して

事業
の取り組み

安全
への取り組み

環境
への取り組み

社会
とのかかわり

時代の潮流を読み、
新たな「価値」を
創造していきます。



REPORT

SGホールディングス株式会社
取締役
経営戦略担当
近藤 宣晃

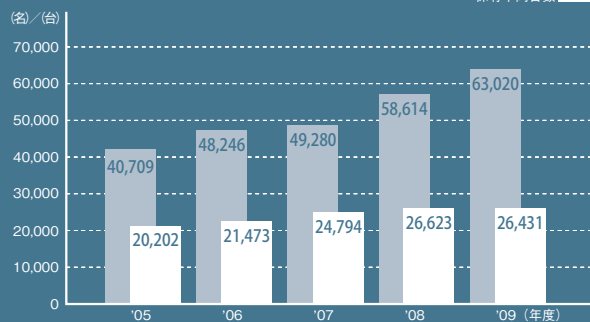
SGホールディングスグループでは、宅配便や設置配送ビジネスなどグループ全体を牽引する「デリバリー事業」、物流業務の包括的受託サービスや国際貨物を取り扱う「ロジスティクス事業」、自動車整備、不動産、ITなどの「その他事業」の3つのセグメントで事業を展開しています。そして「グループ各社が、それぞれの事業基盤を築き、新たな価値を創出する」という経営ビジョンのもと、2010年3月に、中期経営計画「Second Stage Plan」をスタートいたしました。物流業界はグローバル化が進み、お客さまのニーズも多角化するなど、変化のときを迎えています。こうした時代の潮流を敏感に捉え、顧客、従業員、地域社会、株主、そして取引先などさまざまなステークホルダーの期待に応える「ステークホルダー経営」に向け、これからもグループ一丸となって邁進してまいります。

▶ 2009年度の実績

グループ各社が健闘し、前期を上回る数値

2009年度は中期経営計画「First Stage Plan」の最終年度として、グループ各社の成長と拡大に向け、事業基盤の構築へ積極的に取り組んでまいりました。その結果営業収益は前期8,872億円から8,881億円へ、営業利益は前期219億円から、302億円となりました。また営業利益率は、2.5%から3.4%となり、いずれも前期の実績を上回ることができました。2010年度からは「Second Stage Plan」として「事業領域の拡充と収益基盤の強化」を目指してまいります。

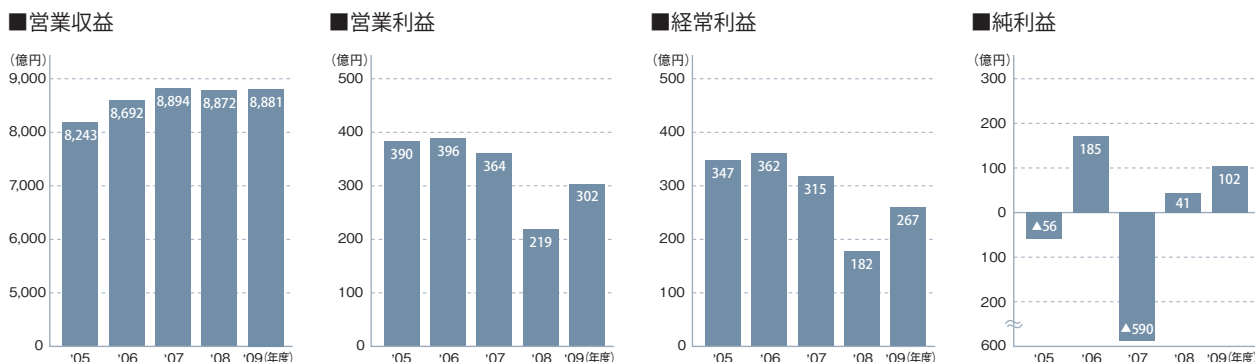
■従業員数(連結)／保有車両台数(佐川急便)



※2005年度までは国内従業員のみの実績となります。2006年度からは海外法人も含めた従業員数として集計しています。※保有車両台数は軽自動車を含んでいます。

SGホールディングスグループ 事業データ (連結)

「デリバリー事業」「ロジスティクス事業」「その他事業」の3つの事業領域でビジネスを展開しています。グループ全体では堅調に業績を伸ばしています。

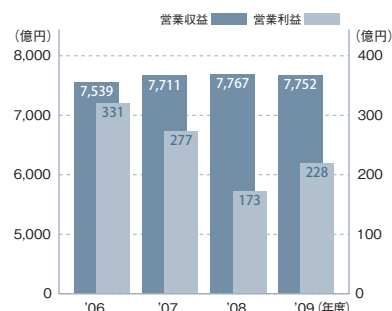


セグメント別 業績概況

デリバリー事業

「飛脚宅配便」、代金引換サービス「e-コレクト[®]」および「飛脚クール便」は取扱個数が増加するなど、主力商品は順調に推移しました。また、新たに「リコール・トータルサービス」および「文書保管サービス」の取り扱いの開始や、2009年2月に子会社化したワールドサプライの本格稼働により、市場ニーズに合わせた新商品の提供および新規事業の拡充に注力しましたが、近距離小型貨物の増加により、当事業セグメントの営業収益は7,752億円(前期比99.8%)となりました。営業利益については、事業基盤の構築を行ってきたことによりコスト構造が大きく改善した結果、228億円(前期比131.8%)となりました。

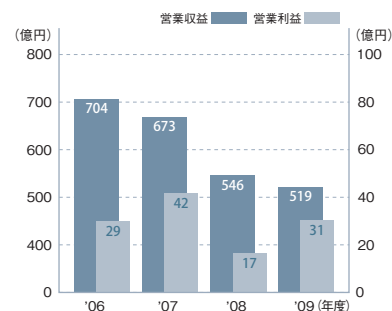
営業収益／営業利益



ロジスティクス事業

国内展開では、福岡物流センター、久喜第二営業所を開設し、業務請負型3PLの事業拡大に向け、拠点整備を行いました。また、佐川ロジスティクスパートナーズにおいては、プラットフォーム共有型3PLの事業基盤を確立しました。海外展開では日中間の一貫輸送業務を受託、中国・深圳市では蛇口物流センターが完成し、本格稼働しました。しかし、アパレル関連を中心とした出荷量低迷、輸出入取扱貨物の落ち込みにより、当事業セグメントの営業収益は519億円(前期比95.1%)となりました。営業利益については業務改善を行い効率性が向上した結果、31億円(前期比180.0%)となりました。

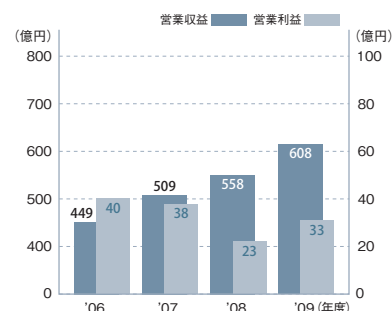
営業収益／営業利益



その他事業

自動車整備事業では、新たな顧客の獲得と事業体制の強化に注力し、新三国モーターズ・サービス(現SGモーターズ関越)をSGモーターズの子会社としました。不動産事業ではグループのCRE戦略の推進と外販収益機会の拡大に向けた大型の不動産投資を実施しました。IT事業では、新たなビジネス機会の創出と当社グループの競争力を高めるためのIT戦略強化に向けた体制を構築しました。その他事業につきましても基盤構築に尽力した結果、当事業セグメントの営業収益は608億円(前期比109.0%)、営業利益は33億円(前期比144.4%)となり増収増益となりました。

営業収益／営業利益



※セグメント別の営業収益／営業利益は、2006年度からの開示となっています。

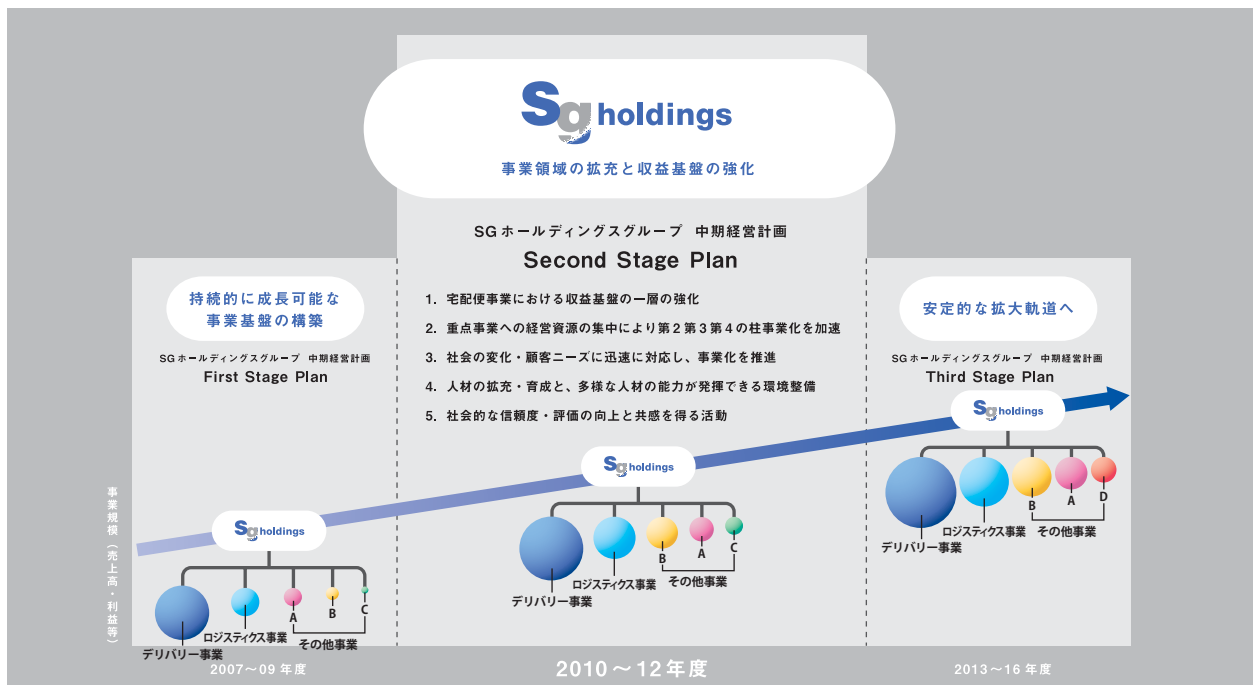
▶ SGホールディングスグループ 経営ビジョンと中期経営計画

経営ビジョン

「グループ各社が、それぞれの事業基盤を築き、新たな価値を創出する」

顧客ニーズの変化、市場環境の変化に迅速に対応し、未来永劫繁栄すべく変革・挑戦し続け、新たな「価値」を創造し、第2、第3、第4の柱となる事業を確立することに取り組みます。

2010～2012年度 中期経営計画「Second Stage Plan」



明確な目的意識の喚起と新たなるモチベーションの創造

さまざまなステークホルダーの期待にこたえる「ステークホルダー経営」



Second Stage Plan テーマ

「事業領域の拡充と収益基盤の強化」

方針

- 1 宅配便事業における収益基盤の一層の強化
- 2 重点事業への経営資源の集中により第2第3第4の柱事業化を加速
- 3 社会の変化・顧客ニーズに迅速に対応し、事業化を推進
- 4 人材の拡充・育成と、多様な人材の能力が発揮できる環境整備
- 5 社会的な信頼度・評価の向上と共感を得る活動

Second Stage Plan セグメント別戦略概要

デリバリー事業

佐川急便／佐川引越センター／ワールドサプライ

新事業領域における重点事業



宅配便事業の市場競争力を強化

原価構造の改革によって宅配便事業の市場競争力を強化。進化を続けながら高収益体質へと転換を図ります。

宅配便事業以外の事業領域を強化

佐川急便、佐川引越センター、ワールドサプライの3社が連携した営業体制を構築し、宅配便事業以外の事業領域の強化を図ります。

新事業領域に積極参入

既存の事業領域を超えた新事業領域にも積極的に参入し、マーケットを拡大することでデリバリー事業全体の規模拡大を図ります。

ロジスティクス事業

佐川グローバルロジスティクス／佐川ロジスティクスパートナーズ／海外法人

重点事業



海外の事業地域を拡大し、一貫輸送を推進

物流加工保管事業を主軸に海外の事業地域を拡大し、一貫輸送を推進します。

成長著しいアジアに経営資源を投下

驚異的な成長率を維持するアジアを展開エリアに設定。中でも発展著しい中国に、経営資源を優先的に投下します。

付加価値・専門性の高いロジスティクス事業分野へ進出

国内事業においては、より付加価値・専門性の高い事業分野へ進出し、物流加工保管事業の基盤を強化。さらなる規模拡大を図ります。

その他事業

佐川フィナンシャル／SGモーターズ／SGモーターズ関連／佐川アドバンス／SGモバイルサポート／SGシステム／SGリアルティ／ヌーヴェルゴルフ倶楽部／佐川林業

重点事業



重点事業に注力し、第3、第4の柱事業を育成

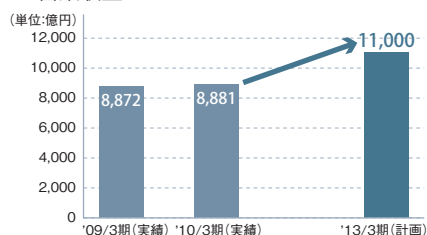
自動車整備事業、不動産事業、IT事業、通販事業の4事業を重点事業と位置づけ、経営資源を集中。宅配便事業、ロジスティクス事業に続く第3、第4の柱事業に育成します。

Second Stage Plan 連結計数計画

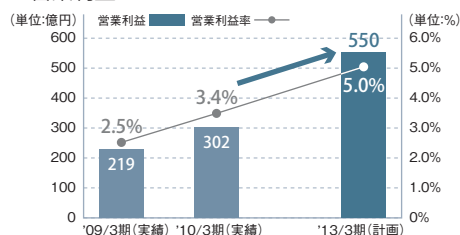
■連結計数計画 (2013年3月期)

| | |
|------|-----------|
| 営業収益 | 1兆1,000億円 |
| 営業利益 | 550億円 |

■営業収益



■営業利益



▶ SGホールディングスグループ 事業活動



フォワーディング



ロジスティクスサービス



佐川流通センター (SRC)



スーパーレールカーゴ



大型集約施設



天然ガス充填スタンド



デリバリー



サービスセンター



不動産管理



車両整備



e-コレクト®



通信販売



引越し

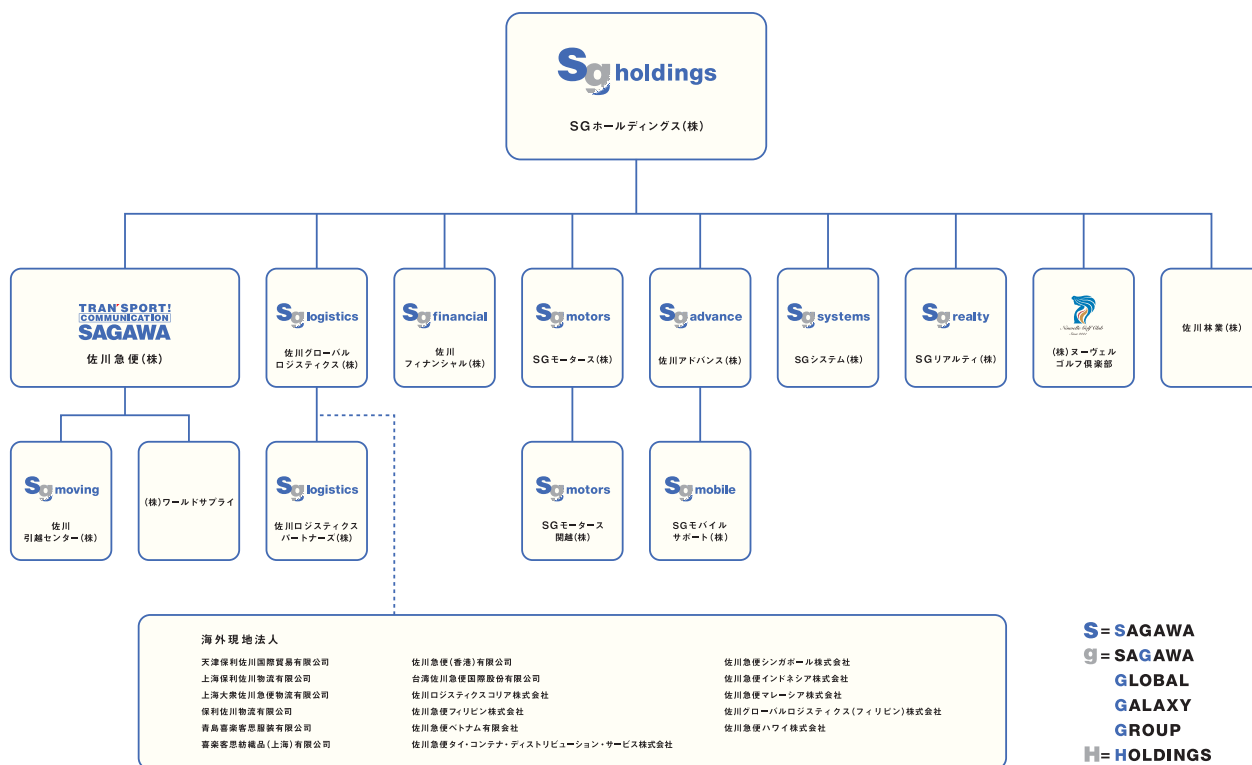


ITシステム



▶ SGホールディングスグループ 事業体制と事業概要

SGホールディングスグループ 事業体制



主な国内事業会社の事業概要

佐川急便

佐川急便はSGホールディングスグループの中核として、宅配便を中心に幅広くデリバリー事業を展開しています。毎日約450万個を超えるお荷物を取り扱い、一つひとつのお荷物をお客さまの心とともにお届けします。また、グループ各社と連携し、効率的な物流のトータルソリューションを提供しています。



佐川引越センター

個人のお客さまのお引越はもちろん、企業移転にも対応する引越事業。家具や家電を2名のスタッフでお届けし、組立・設置までをサポートする設置輸送事業。イベントで使用する機材、什器などの移動、設置、解体をトータルで提供するルート配送事業。佐川引越センターは、お客さまの多様なニーズに最大限対応することを目指し、これらの幅広い事業を展開しています。



ワールドサプライ

百貨店や量販店への納品代行業を中心に、3PL事業、食品共同配送(築地市場)を事業として展開しています。また、国内外を問わずアパレル商品並びにコスメ商品などの保管から出荷までを担うロジスティクスサービスを、国際セキュリティ規格『TAPA Class-A』の認証取得センターで提供しています。



佐川グローバルロジスティクス

数多くの国内拠点と、中国・東南アジアをはじめとした海外拠点を結び、多様な輸送モードを用いた国際一貫輸送のスキームを構築し、3PL事業、情報システムを組み込んだ物流加工事業などを展開しています。さまざまなモノが世界各国から集まってくる現代において、効率の良い輸送方法を選択し、販売機会の増加と物流コストの削減を図ることは、経営効率を向上させます。オーダーメイドでワンストップロジスティクスを提案することで、お客さまの経営をサポートしてまいります。



佐川ロジスティクスパートナーズ

国内8カ所で検針・検品から保管・物流加工業務をトータルサポートしています。施設内のソーター処理能力を最大限発揮できるように作業を組み合わせることにより、同一システムで複数荷主・複数納品先への作業が可能。プラットフォーム共有型の事業基盤を有し、ローコストオペレーションの提案を実現しています。さまざまなニーズにお応えし、お客さまから選ばれ続ける企業を目指します。



佐川フィナンシャル

佐川フィナンシャルは、金融分野においてさまざまな事業を展開しています。主力事業である「e-コレクト[®]」サービスは、情報照会サービス「e-SAXIS」との連携、クレジットカードやデビットカードによる決済が可能なことを強みとし、着実に成長を続けています。どなたにも安心してご相談いただける総合「物流金融」会社になるべく、サービスのチャンネル整備と質の向上に努めてまいります。



SGモータース

全国25カ所の自社整備工場をはじめ全国270カ所の協力整備工場、2カ所の自社ボディ工場を有し、年間4万台近い佐川急便車両の車検・メンテナンス・ボディ製造を行っています。また、新車販売・中古車販売・特装車両整備など一般企業や個人ユーザーに向けたサービスも幅広く展開。さらにすべての工場でCNG車両やHV車両の整備が可能な他、環境配慮型ボディ「ECO車体」の開発・普及にも取り組み、環境負荷低減に積極的に取り組んでいます。



佐川アドバンス

総合サービス企業になるべく、人材開発事業、商品開発事業、旅行代理店業、保険代理店業を柱として、さまざまな分野のサービスを提供しています。今後は、グループの総合力を活かして通販事業に特に力を注いでいきたいと考えています。社内に込められたADVANCE(前進・進歩)を一層強く打ち出し、お客さまのあらゆるニーズに対応してまいります。



SGシステム

情報システムのコンサルティング、構築、運用、保守管理、BPOセンター運営など、「情報のオールインワンカンパニー」としてシステムやソリューションを提供しています。先進的な物流ソリューションで培ってきた開発力や処理能力を駆使し、さまざまな業界のお客さまへ高品質なサービスを提供しています。



SGリアルティ

総合不動産会社としてSGホールディングスグループの不動産を管理運営し、これらの有効活用とともに新規開発などを行っています。テナントに対する賃貸借のあり方や日常管理、修繕計画の最適化を行うPM戦略、バランスシート上の不動産価値の向上、さらには企業価値の向上を目指すCRE戦略の2本柱で、SGホールディングスグループ内外問わず、不動産ビジネスを通じてお客さまの事業をサポートしています。



財団法人 ■財団法人佐川留學生奨学会 ■財団法人佐川がん研究助成振興財団
■財団法人佐川国際経済協力会 ■公益財団法人佐川美術館

外郭団体 ■SGホールディングスグループ健康保険組合
■SGホールディングスグループ企業年金基金

▶ SGホールディングスグループ 海外拠点

アジア地域の物流のさらなる成長に貢献するため、私たちSGホールディングスグループは、日本国内で培ったノウハウを生かした物流インフラの整備、ネットワークの拡大に努めています。



| | 社名 | 主な事業内容 |
|----|-------------------------------------|---|
| 1 | 天津保利佐川国際貿易有限公司 | フォワーディング※1、貿易業務、保税保管 |
| 2 | 上海保利佐川物流有限公司 | フォワーディング、エクスプレス※2、3PL※3 |
| 3 | 上海大衆佐川急便物流有限公司 | 宅配便事業 |
| 4 | 保利佐川物流有限公司 | フォワーディング、エクスプレス、3PL、 倉庫・保管業務、輸送業務、引越業務 |
| | A 北京分公司 | |
| | B 大連分公司 | |
| | C 天津分公司 | |
| | D 青島分公司 | |
| 5 | 青島喜楽客思(シロックス)服装有限公司(青島シロックス有限公司) | 検品、検針、物流加工 |
| 6 | 喜楽客思(シロックス)紡織品(上海)有限公司(シロックス上海有限公司) | 検品、検針、物流加工 |
| 7 | 佐川急便(香港)有限公司 | フォワーディング、エクスプレス、倉庫・保管業務、輸送業務、引越業務 |
| 8 | 台湾佐川急便国際股份有限公司 | フォワーディング、エクスプレス、小口集配業務(台北地区) |
| 9 | 佐川ロジスティクス コリア株式会社 | フォワーディング、エクスプレス、電子商取引貨物取扱 |
| 10 | 佐川急便フィリピン株式会社 | フォワーディング、エクスプレス、倉庫・保管業務、輸送業務、引越業務 |
| 11 | 佐川急便ベトナム有限公司 | フォワーディング、倉庫・保管業務、輸送業務、引越業務、物流加工 |
| 12 | 佐川急便タイ・コンテナ・ディストリビューション・サービス株式会社 | フォワーディング、エクスプレス、倉庫・保管業務 |
| 13 | 佐川急便シンガポール株式会社 | フォワーディング、エクスプレス |
| 14 | 佐川急便インドネシア株式会社 | フォワーディング、エクスプレス、倉庫業務 |
| 15 | 佐川急便マレーシア株式会社 | フォワーディング |
| 16 | 佐川グローバルロジスティクス(フィリピン)株式会社 | 倉庫・保管業務 |
| 17 | 佐川急便ハワイ株式会社 | 輸送オペレーション業務 |

※1 フォワーディング・・・国際事業における輸出入にかかわる輸送や税関手続などの代理業
 ※2 エクスプレス(国際宅配便)・・・国際航空便を利用して、書籍や小荷物などを短時間で送るサービス
 ※3 3PL・・・企業の流通機能全般を一括して請け負うアウトソーシングサービス

▶ 財団活動

SGホールディングスグループは、物流の分野に留まらず、教育、国際交流、医療支援、文化芸術など、より高い信頼を得られるよう社会とのつながりを大切にしています。



財団法人佐川留学生奨学会

<http://www.sagawa-ryugakusei.or.jp/>

1986年、私費留学生への奨学金援助を通して、東南アジア諸国との友好親善と交流に寄与する目的で設立しました。

留学生が学問に集中できるよう、奨学金による経済面の支援や精神面のサポートを行っています。また、採用証書授与式や交流会の開催、奨学生名簿集や卒業文集の発刊、Webサイトの開設など奨学生同士のコミュニケーションの場づくりにも努めています。

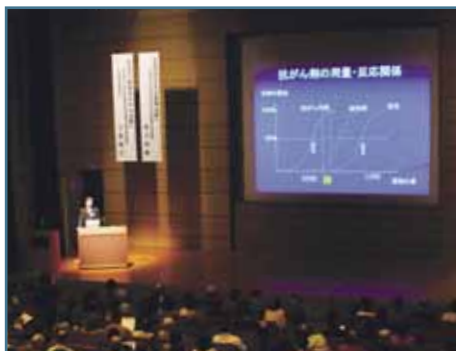


財団法人佐川国際経済協力会

<http://www.sagawa-kokusaikeizai.or.jp/>

1985年に佐川急便が中国へ中古トラック200台を寄贈後、1986年に開発途上国を中心とした地域開発の推進に役立つための支援を継続的に行うため設立しました。また、寄贈したトラックを末長く使用してほしいという思いから、車両整備技術研修生の受入れを実施しています。今後も事業を通じて、国際相互理解の促進に寄与していきたいと考えています。

2007年2月には、長年の中古トラック寄贈に対し、ラオス人民民主共和国より国家勲章を受章しました。



財団法人佐川がん研究助成振興財団

<http://www.sagawa-gan.or.jp/>

1989年、がん医療の向上に寄与することを目的に設立しました。

広く人々の健康増進を目指して、がんの基礎研究と応用治療研究に対する助成支援で医療福祉の向上に貢献し、がんの予防、診断、治療に関する最新情報を一般生活者の方にわかりやすく講演する「がん市民公開講座」を開催して地域社会に対して貢献しています。



公益財団法人佐川美術館

<http://www.sagawa-artmuseum.or.jp/>

1998年3月に開館しました。平山郁夫館、佐藤忠良館、樂吉左衛門館を三本柱として、それぞれ独立した「館とテーマ」で芸術・文化発信を重ね、さまざまな企画展を実施しています。

作品公開による芸術・文化の情報発信はもとより、さまざまなジャンルの音楽家を招いてのコンサートや展覧会に即したワークショップなどを実施し、次世代への教育普及と地域社会との交流に努めています。

CSR活動に真摯に取り組む 全国の仲間たちの声



佐川急便
大館店
セールスドライバー
石田 朋宏

キー抜きを通じて、人々の暮らしに静かな環境を

佐川急便では、アイドリングストップの一環として、お荷物の積み降ろし時の「キー抜き」を行っています。ある時お届け先に行くとき「子どもが寝ているのでチャイムを鳴らさないで」の貼り紙。静かに玄関を開けて、お荷物をお渡しいたしました。もしキー抜きをしていなかったら、赤ちゃんを起こしてしまったと思います。キー抜きは、燃料費の節約やCO₂削減だけでなく、地域住民の皆さまにもお役に立っていることを改めて感じました。



SGシステム
事業戦略部
寺本 由季

社内広報を通じて、小さな努力を広めていきたい

社内広報を通じて環境に対する教育を行っています。SGシステムでは、エコキャップ運動をはじめ、社名変更時に看板電球を省エネタイプのLEDへ切り替えるなど、小さな努力の積み重ねを大切にしています。私自身も、使用済みの切手の収集をしています。今後も広報活動を通じて、社内全体へ使用済み切手およびカード収集運動の取り組みを推進し、福祉団体などへ寄贈することで社会貢献していきたいです。



佐川アドバンス
東京支店
保険事業部
主任
竹内 孝行

「保険のおかげで助かった」その一言は今も忘れられない

保険という商品を通じて、SGホールディングスグループで活躍している従業員の皆さんに、安心を提供するのが私の使命です。ある日、以前保険に加入してくれたドライバーさんから「ケガで長期休業したのですが、勤めてくれた保険のおかげで、助かりました。ありがとう」と感謝の言葉をいただきました。この仕事をしていて本当によかったと思いました。これからも「縁の下の力持ち」として皆さんの暮らしを支えていきます。



佐川
ロジスティクス
パートナーズ
管理課
大沼 佳奈恵

「気づく力」で、職場環境をもっと改善していきたい

私たち管理部門は、お客さまと直接コミュニケーションをとることはありませんが、従業員の皆さんが何事も支障なく仕事ができるような環境を作ることが、お客さまの商品を安心・安全にお届けすることにもつながっていくと考えています。そこで大切なことは、誰かが困っていたり不便に感じていることに「気づく力」。日頃から目配り、気配りを大切に、顕在化されていないニーズにも、できる限り対応していきたいです。

安 全 へ の
取 り 組 み

暮らしの中に、
もっと確かな「安全・安心」を

事業
の取り組み

安全
への取り組み

環境
への取り組み

社会
とのかかわり



すべての活動に
優先するのは
何よりも「安全」です。

REPORT

佐川急便株式会社
人事・安全管理部
安全推進担当部長
亀田 英夫



トラックを使用した物流事業を中核とする SGホールディングスグループでは、「輸送の安全確保」を最優先に考え、エコ安全ドライブや車両整備の充実に取り組んでいます。また、ドライバーコンテストなどを通じて安全意識の向上と知識・技術を習得させるなど、安全運行を目指した活動も推進しています。そして子どもや高齢者を対象にした交通安全教室を開催、地域の皆さまと連携した活動を積極的に行ってきました。2009年、国内では交通事故によって4,914名の方が亡くなっていますが、このような事故を防止すべく、国土交通省が策定した「事業用自動車総合安全プラン 2009」に基づき「交通事故・違反、労働災害の削減」を安全に関する目標に掲げ、取り組んでいきます。これからもグループ各社、協力会社が連携しながら「安全・安心」の社会の創造に貢献していきます。

▶ 2009年度の実績

安全に関するデータベースを、全社的に構築

2009年度は、安全運転を通じて環境負荷低減を目指す「エコ安全ドライブ大作戦」を全国で実施しました。全車両の燃費を計測した結果、前年比102.3%と向上し、油脂費とともに、CO₂の削減にも成果がありました。また、車両に搭載されたドライブレコーダーの記録を一元管理できるシステムを構築。さらにドライバーの体験に基づく「ヒヤリ・ハット情報」を第三者機関が分析、事故を引き起こす「タイミング」「場所」などを分類しました。今後はこうしたデータを教育材料として活用し、従業員の育成を図っていきます。

▶ 今後の目標

指導體制の強化を図り、
ドライバーの安全意識・運転技術を向上

「エコ安全ドライブ大作戦」は2009年度からの取り組みですが、大切なのはこうした取り組みにより、従業員一人ひとりが「事故ゼロ」を目指し、安全運転を継続することです。そこで佐川急便では日常の指導體制の強化を目的に、SD指導員、安全運転検定員の認定研修の見直しを行っています。安全に関わるより高い知識や技術を習得した管理者を育成、その管理者の活躍によって事故リスクの低減を図ります。交通事故率の低下や環境負荷の低減など、2009年度を上回る成果を得られるよう、これからもさまざまな活動を推進していきます。

▶ 安全性向上へのスキーム

ドライバーのスキルアップや安全への意識の向上を目指し、安全管理体制の確立やドライバーコンテストの実施など、全社を挙げてさまざまな取り組みをしています。

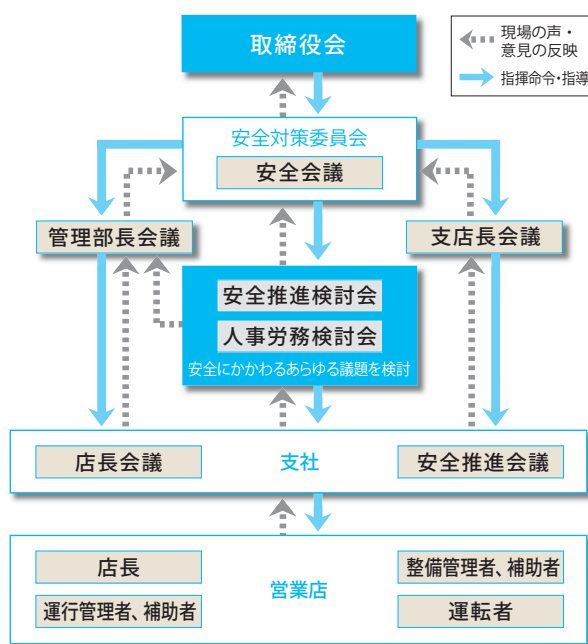
安全管理体制

佐川急便では、経営の最重要課題として「輸送の安全確保」を掲げています。2006年10月、貨物自動車運送事業法により「輸送の安全性を向上させる」ことを目的に運輸安全マネジメントが法制化されましたが、それに先駆けて2003年より、安全対策委員会を設置しました。

委員長には管理担当取締役が、副委員長、委員には取締役、執行役員、支社長、実運送を行うグループ会社の代表取締役など、経営幹部が委員会を構成しています。委員会では安全会議を毎月開催し、安全活動の進捗状況や、安全確保についてハード、ソフト両面からさまざまな対策を討議しています。また、支社、営業店の安全推進担当者による検討会も定例で開催し、現場の声を中心に安全対策の改善を図っています。

また、安全運転を徹底させるために、ドライバーの拠点となる営業店に専任の安全推進職を配置し、ドライバーとのコミュニケーションを図り、安心して乗務できる環境整備を中心に、積極的な安全活動を行っています。

■安全管理組織体制図
※2009年5月1日より



研修施設の充実

佐川急便では、優良なドライバーを育成するため、宮城・神奈川・愛知・香川の国内4カ所に、運転実習ができる教習コースを備えた研修施設を保有しています。見通しの悪い交差点など、住宅地を模したコースを用いて、公道での安全運転に役立つ指導を行っています。

■全国に展開する教習施設

| 所在地 | 教習コース面積 | 教習車 |
|----------|---------|-----|
| 宮城県（蔵王） | 4,336坪 | 14両 |
| 神奈川県（綾瀬） | 9,400坪 | 47両 |
| 愛知県（豊橋） | 7,616坪 | 15両 |
| 香川県（瀬戸内） | 636坪 | 6両 |

※教習車は軽自動車を含む、AT車も導入



蔵王研修センター



綾瀬研修センター



豊橋研修センター



瀬戸内研修センター

ライセンス制度により安全性を向上

交通事故を起こさないドライバーの育成を目指して、指導員の認定を行う「佐川ライセンス制度」を導入しています。安全にかかわるライセンスは、「SD指導員」と「安全運転検定員」があり、業務に精通した従業員の中でも特に知識・技術・指導力などがあり、試験に合格した従業員を「SD指導員」に認定し、OJTにより新入社員をマンツーマンで育成しています。また、新入社員の独り立ちの可否の見極めなどを行う重要な役割を担っているのが「安全運転検定員」です。管理者やベテランの中から、専門的な知識・技術に加え、優れた判断力を備えた従業員を「安全運転検定員」として認定しています。このように「指導」と「見極め」の機能を分離することで人材育成の充実を図っています。



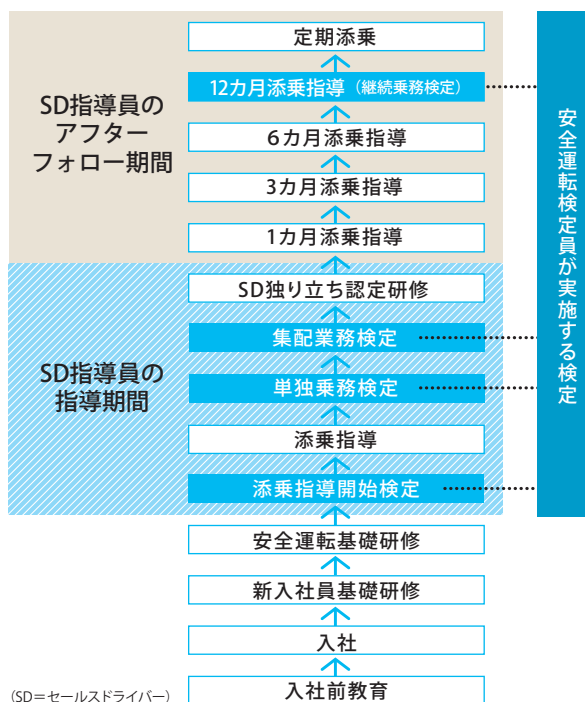
「SD指導員」
ライセンス証



「安全運転検定員」
ライセンス証

2010年3月20日現在、SD指導員は9,130名、安全運転検定員は2,316名が認定を受けています。

■新人ドライバーの育成フロー



Heart to Heart

「安全」という名のDNAを受け継ぐために

2009年に入社した新人ドライバーの成長の歩みを通じて、「安全」への意識を若い世代に伝えていく佐川急便の取り組みを紹介します。



佐川急便 横浜緑店
セールスドライバー
小平 恭平

研修では飛脚の精神(こころ)、安全運転の基礎を習得

「休日に友人を乗せてドライブに行くと、『運転が変わったね』と言われるようになりました」そう笑顔で話すのは、セールスドライバー2年目の小平恭平さん。2009年2月に入社し、現在は横浜市北部エリアを担当しています。

「毎日精力的に働いているセールスドライバーを見て、やりがいのある仕事と思い、入社を決めました」と小平さん。「特にトラックの運転に自信があったわけではないのですが、私が今こうしてセールスドライバーとして働けるのは、佐川急便ならではの人材育成制度があったからだと思います。これまでいくつかの研修がありましたが、やはり新入社員基礎研修が、一番印象深いですね」新入社員基礎研修は二泊三日で行われ、会社の事業内容や環境活動などのCSRの取り組み、ロールプレイを通じてセールスドライバーの業務を学びます。「発声練習などを通じて、佐川急便で働く基本的な姿勢を学びました」お客さまと接する際はハキハキした声で挨拶をするといった社会人としての心構えを、こうした研修によって徹底して学んでいきます。

その後新入社員が受講するのが、「安全運転基礎研修」

です。「発進と停止、加速・減速、指差呼称確認や夜間走行など、トラックを運転するうえでの基礎的なスキルと、プロドライバーとしての心構えを、教習施設で学びます。その他、車両点検や清掃についての講義もあり、安全運転に関するスキルと心構えを体系的に学習することができました」

指導員、検定員の指導を通じて、 入社前の自分の甘さを痛感

安全運転基礎研修が終了すると、その後はSD指導員の指導や安全運転検定員による検定が続きます。「SD指導員からは、運転技術の他にセールスドライバーの業務全般を細かく教えていただきました。お客さまへの接し方など、大変参考になりました。また安全運転検定員からは、一つひとつの動作確認の重要性を教わりました。ときに厳しい言葉をいただくこともありましたが、諸先輩方の指導を通じて入社前の自分が、いかに甘い気持ちでハンドルを握っていたかを痛感しました」

信頼されるドライバーになるために、 安全運転を徹底

セールスドライバーとして2年目を迎えた小平さん。着実に仕事のコツを学んできている一方、仕事に慣れてきた頃に事故を起こしやすいのも事実。安全運転に慣れは禁物、注意し過ぎ、ということはありません。

「トラックは乗用車に比べて死角が多いです。狭い路地からの歩行者や自転車の飛び出し、左折時の巻き込みには、特に注意して運転しています。また仕事中はしっかり集中できるように休日は自分の好きなことを思いっきりやるようにしています。最近ようやく、気持ちをリフレッシュすることで、オンとオフの切り替えができるようになってきました。自分のペースで仕事ができるようになることは、気持ちに余裕を持った運転にもつながります」

最後に今後の抱負についてたずねると「今よりも多くのお客さまに喜ばれ、信頼されるセールスドライバーになることが目標です。そのために、安全への意識をより強く持って日々の業務へ取り組んでいきます」と熱く語ってくれました。安全運転こそ、お客さまとの信頼構築の原点。佐川急便が抱き続けてきた想いは、若手ドライバーにも着実に受け継がれているのです。



車両点検は安全運転の基本

SD指導員からの声

会社全体で、安全運転に対する意識をもっと高めていきたいと、SD指導員を目指すことに決めました。指導の中では、「運転中は運転のみに集中する」ということを何度も繰り返し伝えています。それは、ちょっとした気の緩みが重大事故を引き起こす原因になってしまうからです。被害者も加害者も不幸になってしまうのが、事故というもの。事故で辛い思いをする人を増やさないために、徹底した指導を継続していきます。



佐川急便 横浜緑店
営業課 主任
黒川 智彦



SD指導員による的確な指導

安全運転検定員からの声

安全に運転するために重要なのは、どのタイミングでどこを見ているか、つまり目の動きだと私は考えています。そのため、検定時には視線に一番注目しています。視線が動かないドライバーには、周囲に気を配るようにすぐに注意をしています。今後もドライバー全員に、「運転は真剣勝負、一切妥協しない」という強い気持ちを持って仕事に臨んでほしいと思っています。



佐川急便 横浜緑店
安全推進課 係長
佐川 博昭

全国トラックドライバー・コンテストで上位入賞

2009年10月、茨城県ひたちなか市にある安全運転中央研修所において、安全の知識・技術を競う、全日本トラック協会主催「第41回全国トラックドライバー・コンテスト」にSGホールディングスグループから30名が出場、他の運送会社のドライバーたちと安全に関する知識と技術を競い、警察庁長官賞の受賞をはじめ9名が入賞しました。

競技内容

| | |
|--------|--|
| 学科競技 | 法規(道路交通法、貨物自動車運送事業法等)、構造機能(車両)及び運転常識(プロドライバーとしての一般的認識事項等)に関するマークシート方式の試験 |
| 整備点検競技 | 車両の安全を確保するため日常点検整備について、点検箇所、点検内容(着眼)などについて採点 |
| 運転競技 | コース走行、課題走行の他、運転操作、安全確認などを審査 |

■4トン部門

| 順位 | 氏名 | 営業店名 | 得点 | 備考 |
|----|-------|------|-----|--------|
| 1 | 中山 真充 | 田辺店 | 978 | 警察庁長官賞 |
| 2 | 加賀崎芳男 | 深谷店 | 975 | |
| 3 | 高野 祐輔 | 岐阜店 | 970 | |
| 4 | 佐藤 英行 | 静岡店 | 970 | |

■女性部門

| 順位 | 氏名 | 営業店名 | 得点 | 備考 |
|----|-------|------|-----|--------|
| 1 | 鶴澤 香織 | 東松山店 | 975 | 警察庁長官賞 |
| 2 | 新井 陽子 | 古河店 | 968 | |
| 3 | 葛西 知子 | 秋田店 | 953 | |
| 4 | 杉本こなつ | 東大阪店 | 953 | |
| 5 | 梅原 佳子 | 鳥栖店 | 930 | |



競技中のようす



表彰式



優勝者は内閣総理大臣官邸を訪問
写真提供：(社)全日本トラック協会

佐川急便ドライバーコンテスト開催

交通事故の未然防止を目的に、2009年5月、佐川急便研修センター自動車教習所において「第17回佐川急便ドライバーコンテスト」を開催しました。グループ会社を含め、全国から選抜された60名のドライバーが、日頃培った運転技術と環境への配慮を「学科競技(400点満点)」「運転競技(400点満点)」「点検競技(200点満点)」の合計1,000点満点で競い合いました。

■各部門優勝者

| | 氏名 | 営業店名(支社) | 得点 |
|--------|-------|-------------|---------|
| 軽部門 | 高原 徹 | 須磨店(関西) | 967点 |
| 2トン部門 | 井上 健太 | 福井店(中部) | 978点 |
| 4トン部門 | 佐藤 英行 | 静岡店(中部) | 969点 |
| 11トン部門 | 西原 裕 | 九州路線営業所(九州) | 982点 |
| 新人部門 | 入江 良則 | 古河店(関東) | 958点 |
| 特別賞 | 葛西 知子 | 秋田店(東北) | 952点 |
| 団体表彰 | | 中部支社 | 949.78点 |



競技中のようす



表彰式

▶ エコ安全ドライブの取り組み

安全運転は、環境にも大きな効果があると私たちは考えました。

そこで、安全とエコがひとつになった「エコ安全ドライブ」を推進しています。

エコ安全ドライブの推進

佐川急便では、すべてのドライバーが、急発進、急加速や急停止などを発生させない、環境にやさしく安全な運転「エコ安全ドライブ」を推進し、全社を挙げて取り組んでいます。発進や走行時のエンジン回転数の上限設定や、ギヤチェンジのタイミングに関わる運転技術の向上によって、安全・環境面に配慮するとともに、燃料使用量の抑制によりコスト面での成果も目指しています。「エコ安全ドライブ」の浸透を図るため、管理職や指導員へ専門的な研修も実施しています。

2009年度は3回のエコ安全ドライブ研修を実施し、108名が受講しました。



エコ安全ドライブ研修

エコ安全ドライブ7ヶ条

エコ安全ドライブで特に重要とされる項目を、「エコ安全ドライブ7ヶ条」と定めて社員手帳に掲載。さらに、従業員への浸透を図るために、「エコ安全ドライブ7ヶ条実践マニュアルビデオ」による指導も行っています。

- 1 『ふんわりアクセル eスタート』の実践
- 2 シフトアップは早目に操作
- 3 交通状況に応じた、定速走行での運行
- 4 十分な車間距離の確保
- 5 早目のアクセルオフでエンジンブレーキの活用
- 6 駐車時は、キー抜き(エンジン停止)の励行
- 7 日常の点検・整備と空気圧管理

エコ安全ドライブ大作戦

エコ安全ドライブ大作戦は、営業店単位で燃費を競い、さらなるエコ安全ドライブ推進につなげる取り組みで、2009年度より実施しています。表彰は公平を期すために営業店の規模に合わせA～Dにグループ分けを行い、①燃費改善率、②使用量減少率、③低燃費の3つの部門で四半期ごとに上位の営業店を表彰します。



エコ安全ドライブ大作戦ポスター

▶ 車両整備、安全機器の装備による安全への取り組み

交通事故を防ぐためにも、トラックの日常的な点検や徹底した車両整備、安全機器を使った指導を実施しています。

徹底した車両整備による交通事故防止

整備不良が原因による事故の撲滅と、環境負荷の低減を目指し、SGホールディングスグループが保有するすべての営業用車両は、SGモーターズで徹底した整備を実施しています。2008年度には、札幌・高松の整備工場を新築移転により拡張した他、翌2009年度には、北関東地区において埼玉・群馬・新潟の各県に整備工場を新たに出店し、サポート体制の拡大、サービスの強化を進めました。

また、通常の集配業務では、各ドライバーによる日常点検はもちろん、SGモーターズによるメンテナンスは、3カ月点検および12カ月点検を細部にわたり実施しています。さらに、各メーカーのリコールに対しても改修状況を進捗管理し、常に良好な車両による運行を目指しており、グループを含む約28,000台を超える車両の安全を支えています。

■SGモーターズ車両整備ネットワーク



ドライブレコーダーによる交通事故の未然防止

ドライバーの運転特性を客観的に把握し、効果的な安全指導を行うために、ドライブレコーダー(安全運転記録装置)を導入しています。ドライブレコーダーでは、ブレーキ、停止、ハンドル、右左折、スムーズの5つの項目を点数で評価することによって、ドライバーの日頃の運転行動や課題が明確となり、ドライバーが高得点を目指すようになり、安全運転への意識が高まっています。さらに、地図上であらかじめ設定した地点を通行した際に、アラームで注意を促し、同時に映像を記録するハザードマップ機能を機器に導入し、交通事故の未然防止を図っています。

ドライブレコーダーは2010年3月現在、5,351台を導入しており、診断結果は本社・支社においても情報を共有し、佐川急便全体の安全運転への意識向上につなげています。

ヒヤリ・ハット体験を安全教育に有効活用

運転中に「ヒヤリ、ハット」とした体験を、多くのドライバーが共有することは事故を防ぐうえでとても重要なことです。そこで、ドライブレコーダーに記録された危険映像を営業店で放映するほか、安全に関する各研修やディスカッションの題材として使用し、危険回避に役立てています。



運転指導書にもとづく的確なアドバイス



運転診断結果



運転診断結果を確認



ヒヤリ・ハット事例の映像



ドライブレコーダーによるヒヤリ・ハット映像

幹線輸送の安全確保

幹線輸送における安全性の向上を目指し、佐川急便では協力会社を含めたドライバーの安全意識の向上を図るための取り組みを行っています。

幹線輸送全国一斉安全パトロール

「佐川急便幹線輸送全国一斉安全パトロール」は、ドライバーの心身のリフレッシュと車両の点検整備により、交通事故と車両故障を未然に防止する施策です。1994年より春・秋の年2回実施し、主要高速道路のサービスエリア、パーキングエリアを中心に、幹線輸送に携わるドライバーへ安全の呼びかけを行っています。

また、日頃の感謝の想いを込め環境保全の一環として開催地の清掃活動も行っています。

幹線輸送全国一斉ターミナル点検

幹線輸送時の交通事故と車両故障の未然防止による輸送品質の維持・向上を目的に、「佐川急便幹線輸送全国一斉ターミナル点検」を年2回実施しています。佐川急便の全拠点で、店長をはじめとした管理者と協力会社の管理者が専用のチェックシートを使用し、車両点検などを実施しています。

幹線輸送協力会社 安全セミナーの開催

当社の幹線輸送を担っている幹線協力会社の経営者を対象として、トラック事業者に対する安全対策の取り組みや安全マネジメントの適正な実施などの実例等、経営に関する責任について国土交通省などから外部講師を招いて安全セミナーを開催しました。

■幹線輸送全国一斉安全パトロール

| | |
|------|--|
| 実施日 | 第29回 2009年4月10日(金)~4月11日(土) 第30回 2009年9月10日(木)~9月11日(金) |
| 実績 | 第29回 点検車両3,276台 参加スタッフ830名 不具合件数12件 |
| | 第30回 点検車両3,099台 参加スタッフ843名 不具合件数17件 |
| 実施内容 | ① 幹線ドライバーに中間点呼を実施し、安全運行の呼びかけと日常点検基準に準じた車両点検を行う ② 大阪府流入車規制条例対象運行車への適合車標章の貼付検証を行う ③ 開始前に各開催地の清掃活動を行う |

■幹線輸送全国一斉ターミナル点検

| | |
|------|---|
| 実施日 | 第15回 2009年6月29日(月) 第16回 2009年12月7日(月) |
| 実績 | 第15回 点検車両5,335台 不具合件数56件 第16回 点検車両5,523台 不具合件数46件 |
| 実施内容 | ① 日常点検基準に準じ専用チェックシートにて車両の点検を行う ② 運転席に酒類を持ち込んでいないか厳重にチェックする |

■安全セミナーの実施日

| 開催地 | セミナー開催日 | セミナー参加会社数 |
|-------|---------|-----------|
| 九州 | 8月 3日 | 39社 |
| 中国・四国 | 7月27日 | 42社 |
| 関西 | 7月28日 | 63社 |
| 中部 | 7月31日 | 35社 |
| 関東 | 8月 6日 | 88社 |
| 東北 | 8月 7日 | 18社 |
| 北海道 | 8月 5日 | 16社 |
| 合計 | — | 301社 |

実施内容：テーマ「事業用自動車総合安全プラン2009」
公共の道路を利用する輸送における安全確保を目的として、新たに策定された安全プラン2009の要点について、関係行政機関等の講義をいただきました。

「愛車Day」の取り組み

当社のドライバーが乗務するトラックは、「地域での安全確保、お客さまの大切なお荷物の輸送、そしてドライバー自身の安全」を託し、愛する家族よりも長い時間とともに過ごす大切なパートナーです。

トラックを大切に、愛車精神を向上させる「愛車Day」の取り組みを2009年度よりスタートさせました。



愛車Dayのようす

▶ 安全な社会の実現を目指して

安全な交通社会の実現は、日々トラックを使用する私たちの大切な使命。

地域の皆さまとのコミュニケーションを通じ、交通ルールを守る大切さをお伝えしています。

子どもたちの笑顔を守る「さがわきゅうびん交通安全教室」

未来ある子どもたちを悲惨な事故から守りたい、という想いから始まったのが、「さがわきゅうびん交通安全教室」です。園児から小学校低学年児童を対象とした交通安全教室では、横断歩道の渡り方や信号機・標識の意味など、基本的な交通ルールの指導に加え、実際にトラックを使用して死角の体験をするなどの工夫をしています。2009年度は全国で837回実施し、113,867名の子どもたちが参加しました。参加者からメッセージをいただくこともあり、喜びとともに安全に対する責任の重さを感じています。今後とも全従業員がさらに交通安全に対する意識を高め、事故を起こさないよう日々の安全運転を徹底していきます。



全国の子どもたちからの感謝のお手紙をいただきました。

VOICE



佐川急便
東北支社 安全推進課
安田 詩央莉

安全運転は子どもたちとの約束です

交通安全教室の中で、駐車しているトラックの周りで着ぐるみのぶたさんたちが遊んでいる場面がありました。そのとき子どもたちが一斉に「ぶたさん危ないよ」「トラックに近づいちゃダメだよ」と一生懸命に叫んでいる姿を見て、交通安全教室の活動にとってもやりがいを感じました。先生方にも「またぜひお願いします。口で教えるよりも実際に見て体験した方が子どもたちも覚えるんですよ」とありがたい言葉をいただきました。また、交通安全教室に参加したドライバーも「子どもたちに安全運転することを約束したので絶対に安全運転します」と思いを新たにしており、交通安全教室を通して子どもたちと接することは私たちにとっても安全運転の大切さを再認識する良い機会だと感じました。子どもたちのかわいい笑顔を守るためにも、これからも交通安全教室の活動を広めてまいります。



交通安全教室のようす

高齢者を対象にした交通安全教室

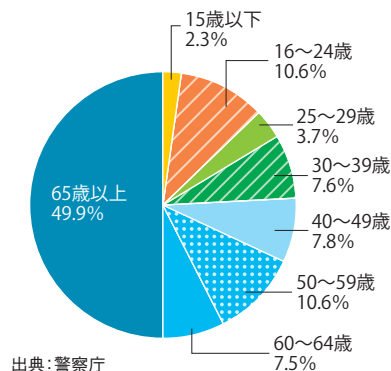
警察庁の発表によると、2009年の交通事故による死者4,914名のうち、65歳以上の高齢者の占める割合がほぼ半数の49.9%という結果が出ています。

高齢者を事故から未然に防ぐために、佐川急便では、幼児・小学生に対する交通安全教室に加えて高齢者を対象とした交通安全教室も各地で開催しています。



交通安全教室のようす

■2009年中年齢層別死者の状況(構成率)



安全を目指す営業店の取り組み

佐川急便では安全にかかわる表彰制度のひとつとして、営業店を対象とした「連続無事故表彰制度」を設けています。連続無事故とは、車両の保有台数に無事故日数を乗じて算出するもので、営業店の全従業員が一致団結して安全運転に取り組んだ結果を評価するものです。

連続無事故最長店所 旭川店の取り組み

旭川店では、ドライバー個々の運転の弱点を克服することに力を入れています。管理者が添乗指導や安全パトロールなどによりドライバー個々の弱点を客観的に把握、マンツーマンによる指導や点呼の際に、各々の弱点に基づく効果的な指導を実施した結果、従来に比べ安全意識が向上し連続無事故の継続につながっています。



ウイークポイントを掲示して意識を向上

国土交通省が運輸安全マネジメントを高く評価

2009年10月に国土交通省による運輸安全マネジメント評価が実施されました。評価の結果、「①経営トップの積極的なコミットメントの発揮、②安全重点施策の達成状況の随時把握・検証及びこれを踏まえた見直しの実施、③従業員の参画意識向上、経営管理部門と現場間の双方向のコミュニケーションの充実に向けた取り組み」などの点について、高い評価をいただきました。

今後も、全社的な安全意識の向上を目指し、取り組みを推進していきます。



国土交通省による評価のようす

「安全性優良事業所」の認定取得

佐川急便と佐川引越センター、ワールドサプライは、2010年3月20日時点で339の事業所において「安全性優良事業所」の認定を取得しています。この認定は、全国貨物自動車運送適正化事業実施機関によって、交通安全などへの取り組みを正当に評価された事業所が取得できるものです。今後も、引き続き高い評価をいただけるよう取り組んでまいります。



認定マーク

CSR活動に真摯に取り組む 全国の仲間たちの声



佐川急便
津山店
セールスドライバー
内田 一也

お客さまからの信頼が、新たな仕事に発展

集配業務でお客さまの所へ伺った際、「ご苦労さま」ではなく「いつもありがとう」という言葉をいただいた時は、うれしいですね。また、あるときは突然見知らぬ電話番号から携帯電話に着信が。電話に出てみると、「佐川急便の内田さんなら大丈夫と、知り合いから紹介されて電話しました」と新規のお客さまからの電話だったのです。びっくりすると同時に、お客さまが自分を信頼してくださったことにとても感激しました。



ワールドサプライ
営業統括部
工藤 敬音子

持ち前の明るさで、みんなを元気にしていきたい

納品代行の営業を担当している私は、持ち前の明るさを大切に、社内、社外を問わずどんな方にも笑顔で接することをモットーに働いています。先日も「対応が早く、明るくて元気がいいから」と、あるお客さまから新規のお客さまをご紹介いただきました。何事にも前向きに、エネルギーに、誠心誠意の気持ちを大切に。こうした姿勢を通じて、皆さんに少しでも元気を与えることができれば何よりですね。



SGモーターズ
南大阪店
営業担当 係長
田仲 良行

難しい仕事こそ、お客さまに満足いただけるチャンス

日々の仕事の中には、タイトな納期やハードルの高いオーダーをいただくことがあります。そんな時は、「無理です」と簡単にお断りするのではなく、「こんな方法はいかがでしょう?」とお客さまに満足いただける提案をすることを心がけています。難しい仕事ほど達成感を得られますし、お客さまからの感謝の度合いも高まります。これからもお客さまに喜んでいただけるよう、顧客ニーズを追求した営業活動を実践していきます。



佐川急便
九州支社
管理課
中原 麻衣

「人と地球におもいやり」を合言葉に、さまざまな活動を展開中

九州支社では、エコキャップ運動を支社全体で推進しており、2010年4月までに145人分のワクチンに相当するエコキャップを回収しました。その他にもプルタブを回収して車いすを送るボランティア活動や、古紙回収や省エネ運動によるCO₂排出削減に貢献しています。今後もこのような「人と地球におもいやり」のある社会貢献活動を実践していきます。

環境への
取り組み

地域社会と連携し、
環境保全に向けた活動を推進

事業
の取り組み

安全
への取り組み

環境
への取り組み

社会
とのかわり

ハードとソフト、 両面での取り組みを 推進しています。

REPORT

佐川急便株式会社
総務部 環境推進課
課長

日山 欣也



私たちSGホールディングスグループでは、毎日多くのトラックを業務で使用しています。排出ガス削減は、物流事業を中核とする企業体として真剣に考えなければならない課題です。そこで私たちは、輸送の効率化やエコドライブの推進など、地球温暖化、大気汚染防止を目指した活動を積極的に推進しています。さらには社会と自然との共生を目指してハード(物的対応)と、ソフト(教育・啓発)の両面から地球規模の環境問題に取り組んでいます。また、環境目的や環境目標を明確に定め、定期的に見直すことでこれらの取り組みの継続的な改善を図っています。かけがえのない自然を未来に残すために、今、SGホールディングスグループなら何ができるか。真剣に考え、行動することが、良き企業市民としての責任と義務であると考えています。

▶ 2009年度の実績

一人ひとりの省エネ活動が成果につながる

2009年度の佐川急便におけるCO₂総排出量は40.5万トンで、2002年度の基準年に比べ10.56%の増加となりました。これは、2006年度以降のM&Aによる事業規模拡大にともなう車両台数の増加が大きな要因です。一方、全社で実施した省エネ活動による効果は、佐川急便の電力消費量が前年比約992万kWh削減され、3.8%の削減を達成しました。これは、一般家庭が1日に消費する電力量の約100万世帯分に相当するエネルギーであり、年間を通した各事業所での取り組みや、従業員一人ひとりの取り組みが実を結んだ結果といえます。

▶ 今後の目標

環境保全活動が社会全体へ拡大することを目指して

佐川急便が取り扱う貨物輸送量は年々増加傾向にあり、輸送エネルギーをいかに削減していくかが大きな課題であると把握しています。また、CO₂削減や省エネ活動において、さらなる成果を達成するには、グループが一体となって環境保全活動を推進していく必要があります。今後は、本業の中での環境対策を継続することはもちろんのこと、佐川急便をはじめとしたSGホールディングスグループを取り巻くステークホルダーの方々と連携し、社会全体での環境保全活動の拡大に向けて努めてまいります。

▶ 環境活動の考え方／地球温暖化への取り組み

地球温暖化の防止に向け、社会と自然との共生を目指すSGホールディングスグループは、新しい技術の導入をはじめ、一人ひとりの行動を積み重ねています。

環境理念と環境方針

環境理念

佐川急便は「良き企業市民」として自主的で継続的な環境保全の為の基本方針を定め、社会と自然との共生を図りつつ、地球規模の環境問題に取り組み、地域社会の発展に貢献します。

環境方針

- 1 排出ガスによる地球温暖化、大気汚染を防止するため、輸送の効率化、低公害車の導入、エコドライブの実践を推進し、環境保全のための継続的な改善を図ります。
- 2 省資源・省エネルギー・3R※を推進し、循環型社会構築のために、その取り組みに対する改善、企画、提案をします。
- 3 環境関連法規制、条例、協定及びその他の要求事項を順守し、環境負荷の低減、環境汚染の防止に努めます。
- 4 環境教育、啓発活動を通じて全従業員に本方針を周知し、環境活動を推進します。さらに広く一般に本方針並びに当社の環境活動に関する情報を提供します。
- 5 環境目的、環境目標を定め、定期的に見直すことにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。

※ Reduce(ゴミの発生抑制)、Reuse(再使用)、Recycle(再資源化)の頭文字をとって3Rと呼ばれています。

クライメート・セイバーズ・プログラムへの参加

「クライメート・セイバーズ・プログラム」とは、世界最大の民間自然保護団体であるWWF(世界自然保護基金)と、先進的な環境対策を進めている世界の企業が協働して、温室効果ガスの削減を目指す取り組みです。

WWFとの対話を通じて削減目標を設定し、第三者機関による検証が行われることから、参加する企業は自社の環境活動に透明性と信頼性を得ることができます。

本プログラムは参加条件として、現状の計画を上回る削減目標の設定が求められます。さらに原則として、生産量や売上高あたりの排出量である原単位で定めるのではなく、絶対量(総排出量)での目標設定が定められているため、高いリーダーシップが求められるプログラムです。

2010年3月現在、全世界で23社がこの取り組みに参加しており、佐川急便は日本企業において第一号、物流企業としては世界で唯一の参加企業です。



クライメート・セイバーズ サミットの様子



碳减排先锋
Defensores do Clima
クライメート・セイバーズ
Climate Savers

佐川急便のCO₂排出量削減目標

佐川急便は、2003年5月にクライメート・セイバーズ・プログラムに調印し、CO₂排出量削減に向け、WWFと協働した取り組みを開始しました。調印時には2012年度までにCO₂総排出量を2002年度比で6%削減するという目標を掲げました。この目標値は事業活動で使用する燃料や電力の使用量を基準に、会社全体で排出しているCO₂の総排出量である絶対量で策定したもので、削減目標は6%ですが、業績拡大による増加量を考慮すると、実質的に約14%の削減が必要となります。

佐川急便では、目標達成に向け、天然ガストラックの積極的な導入をはじめ、さまざまな対策を実行しています。

進捗状況

佐川急便では、2002年度のCO₂総排出量を基準とし、天然ガストラックの大量導入をはじめとした、さまざまな取り組みを行ってきました。

■佐川急便全体のCO₂排出量推移

(単位:t-CO₂)

| | 軽油 | ガソリン (ハイオク、バイオガソリンを含む) | 天然ガス | 電力 | 合計 |
|----------------|---------|---------------------------|---------|---------|---------|
| 2002年度 | 244,552 | 18,780 | 5,810 | 97,477 | 366,619 |
| 2003年度 | 235,154 | 17,153 | 9,660 | 97,654 | 359,621 |
| 2004年度 | 221,886 | 19,474 | 14,658 | 101,459 | 357,477 |
| 2005年度 | 217,648 | 20,741 | 18,916 | 97,927 | 355,232 |
| 2006年度 | 207,515 | 25,893 | 24,300 | 98,407 | 356,116 |
| 2007年度 | 238,886 | 30,808 | 28,261 | 101,307 | 399,262 |
| 2008年度 | 236,158 | 40,028 | 32,010 | 98,653 | 406,849 |
| 2009年度 | 230,854 | 44,177 | 35,397 | 94,902 | 405,330 |
| 増減 (09-02年) | ▲13,698 | 25,397 | 29,587 | ▲2,574 | 38,712 |
| 対比 (09-02年) | 94.40% | 235.23% | 609.26% | 97.36% | 110.56% |

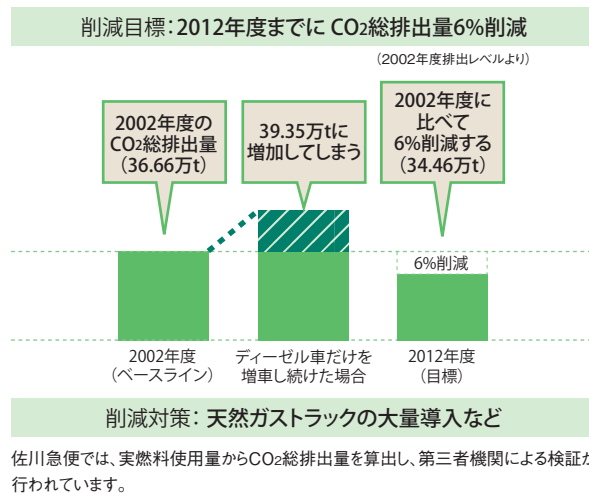
※クライメート・セイバーズ・プログラムの取り組みを開始した2002年度を基準(ベースライン)としています。
 ※集計の範囲:2002年度ベースライン算出の集計範囲は、佐川急便施設内に併設するグループ会社や外部テナント分の電力、燃料外販分を含みます。なお、2004年度以降は、当該プログラムに取り組んでいる佐川急便の事業活動のみを対象として集計しています。ベースラインとの比較のため、佐川急便施設内に併設するグループ会社や外部テナント分の電力、燃料外販分に相当するCO₂排出量(10,435t-CO₂)を加算しています。
 ※集計の基準:「クライメート・セイバーズに係る覚書」および「環境会計マニュアル2008年度版」
 ※CO₂排出係数:環境省2002年12月19日発表「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」に基づくCO₂排出係数
 ※燃料は購入量より集計していますが、一部は自社集計による給油量データを採用しているものがあります。

COP15/CMP5応援ステッカー

2009年11月、12月の約2カ月間、佐川急便は東京都中心部にて集配業務を行う天然ガストラック1,105台に「COP15/CMP5応援ステッカー」を貼付し、WWFの取り組みの告知展開に協力しました。

同ステッカーは京都議定書の次期枠組みを決める会議として、2009年12月にデンマークで開催された「国連気候変動枠組条約コペンハーゲン会議(COP15/CMP5)」の成

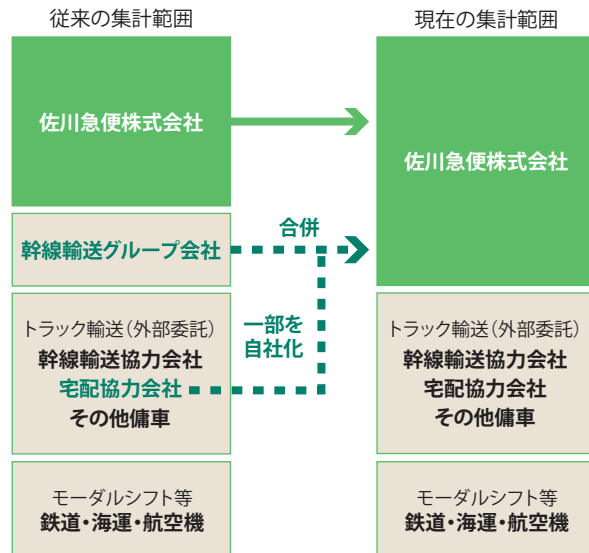
■削減目標と対策



2009年度は、エコ安全ドライブの徹底や省電力の取り組み成果により、前年比-0.37%となりましたが、基準年比では10.56%の増加となっています。

■CO₂排出量増加の理由

従来は外部委託をしていた幹線輸送業務および、宅配業務の一部を佐川急便に取り込んだことにより、集計範囲に含めていなかった部分が、佐川急便の排出分となったことが大きく影響しています。



■クライメート・セイバーズ・プログラムの集計範囲

功を目指し、WWFジャパンが制作したものです。

これからも佐川急便は、WWFとのパートナーシップによる活動を積極的に展開し、環境負荷低減に取り組んでいきます。



ステッカーを貼付したトラック

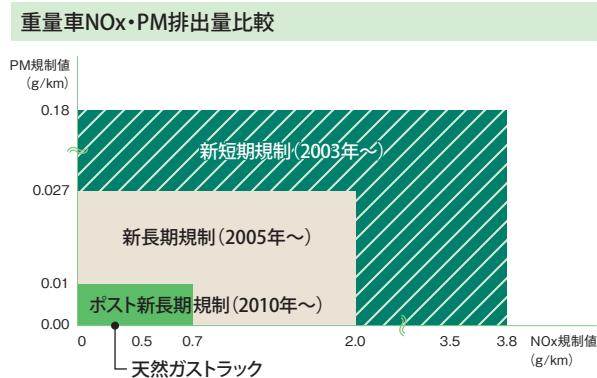
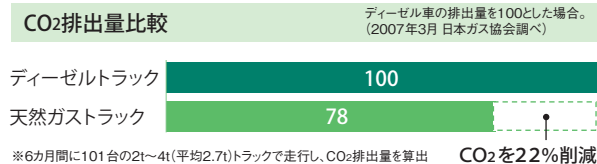
天然ガストラックの導入

天然ガストラックとは、天然ガス(都市ガス)を燃料とするトラックです。ディーゼル車やガソリン車、LPG車と比較し、CO₂やNO_xの排出量が少なく、PMは全く排出しないことから、トラック分野で最もクリーンな貨物自動車として注目されています。



天然ガストラック

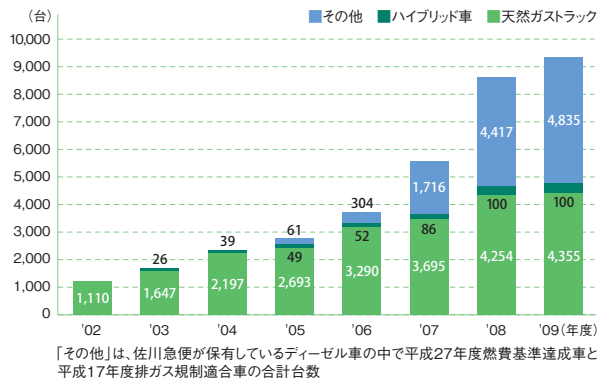
■排出ガスの性状性能(ディーゼル車と天然ガストラックの比較)



低公害車の積極的な導入

佐川急便では、2010年3月現在で累計4,355台の天然ガストラックを導入しています。これは日本国内の天然ガストラック普及台数の約25%にあたり、民間企業では最も多い台数となります。その他、ハイブリッド車をはじめ低公害車の導入を積極的に進めています。

■低公害車導入の推移



天然ガス充填スタンドの整備

天然ガストラックの導入を促進するためには、インフラの整備が不可欠です。しかし、公共の天然ガス充填スタンドの普及が進まない状況から、佐川急便では独自に天然ガス充填スタンドを設置しています。2010年3月現在で、佐川急便が設置した自家用天然ガス充填スタンドは、全国で23カ所となります。今後も、天然ガストラック導入の基盤となるインフラ整備を推進していきます。



自家用天然ガス充填スタンド(千代田店)

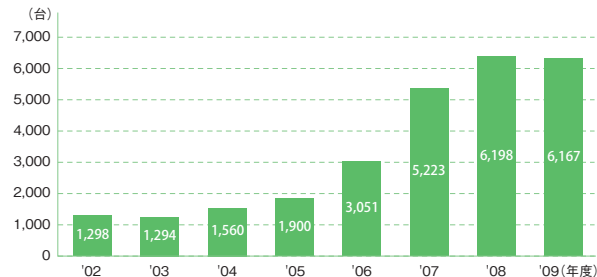
軽自動車の導入推進

佐川急便では都市部や市街地を中心に低燃費でCO₂の排出が少なく、PM(粒子状物質)を排出しない軽自動車の導入を推進しています。



軽自動車

■軽自動車導入の推移



バイオ燃料の活用

集配車両のCO₂排出量を削減するため、天然ガストラックの燃料にバイオガスを利用しています。バイオガスは下水処理の過程で発生する消化ガス※を有効利用したもので、CO₂排出量削減につながる次世代燃料として注目されています。

現在、神戸市で下水処理施設の汚泥から発生した消化ガスを精製したバイオガスを東神戸店のトラック10台に使用しています。

また、軽貨物自動車については、関東・関西エリアを中心に販売されているバイオガソリンの活用を始めています。バイオガソリンとは、ガソリンに生物由来の原料から製造したバイオエタノールを配合した燃料で、バイオガスと同じくバイオ燃料として展開が広がっています。

※下水処理過程で発生するガスでメタンを多く含む



バイオガスステーション

地域との連携事例

大阪グリーン配送推進運動に参加

グリーン配送とは、物品の輸配送に低公害な自動車（グリーン配送適合車）を使用することをいいます。佐川急便関西支社では、事業活動にともなう車両からの大気汚染物質を少しでも減らし、大阪にきれいな空気を取り戻すことを目的に、「大阪グリーン配送推進運動」に参加しています。

■主な取り組み

【グリーン配送適合車への転換】

使用する車両について、グリーン配送適合車への転換を図る。適合車の中でも、より排出量の少ない天然ガストラックや低排出ガス認定車などの導入に努める。

【グリーン配送による納入】

自ら納入を行う場合にはグリーン配送を積極的に実施する。

【物品の調達などへのグリーン配送の要請】

部品・原材料の調達、事務用品などの購入を行う際に、取引先に対しグリーン配送の実施について協力要請などを行う。

【グリーン配送による輸配送の実施】

荷主からグリーン配送による輸配送の要請があったときには、できる限りグリーン配送適合車による輸配送に努める。



グリーン配送推進運動ステッカー

京都まちなかエコカー普及活動

事業者と京都市とのパートナーシップのもと、グリーン配送を実践し、大気汚染の改善と地球温暖化の防止を目的とした「京都市都心部（まちなか）グリーン配送推進協議会」に参加しています。対象地域となる京都市都心部の配置車両全車を天然ガストラックに切り替え、グリーン配送を行っています。



▶ 輸送の効率化による環境対策

「環境負荷の小さい輸送」を目標に、輸送本数の削減やトラック以外の輸送手段の導入など、効率化に向けた取り組みを推進しています。

サービスセンターの活用

佐川急便では、トラックなどを使用せず、台車や三輪自転車をういた人力での集荷・配達をする「サービスセンター」を設置しています。

このサービスセンターを活用し、トラックなどの配送車両の使用を抑えることで、CO₂排出量やNO_x・PMなどの大気汚染物質の排出量削減に寄与しています。

また、地域密着型のサービス展開が図れることにより、お客さまへのサービス品質の向上や、交通量が多い都心部でのパーキング使用料の経費削減、交通渋滞の緩和といった副次的効果にもつながっています。

さらに、エコ通勤に便利な主要都市のオフィス街に立地し、車の免許を取得していない人でも活躍できる職場として、女性従業員も多数勤務し、効率的に業務を行っています。

2010年3月現在、全国都市部を中心に251カ所のサービスセンターを設置しており、1,260台の増車抑制に貢献しております。今後も、人と地球と社会にやさしい配送拠点として、サービスセンターを積極的に展開していきます。

■サービスセンターフロー図

サービスセンターがない場合



サービスセンターを設置した場合



サービスセンターと配達の様子



三輪自転車での配達の様子

大型集約施設による輸送の効率化

輸送を支えるネットワークづくりの一環として、大型集約施設を設置し、輸送の効率化を推進しています。

施設に集められたお荷物は、行き先ごとに仕分けすることで積載率が向上し、車両の使用便数が抑制されます。これにより、トラックの排出ガスが大幅に削減され、大気汚染物質やCO₂の排出抑制につながっています。

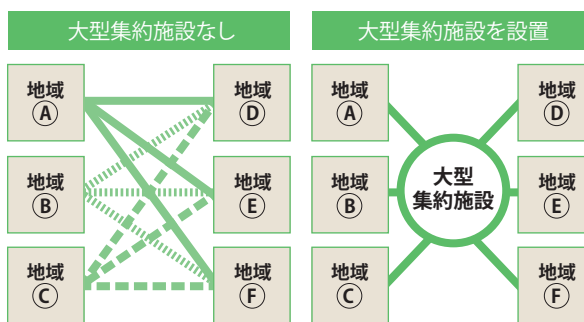


大型集約施設に集結する配送先別のトラック

今後も、大型集約施設を活用することで、さらなる車両運行の効率化と積載率の向上による環境負荷低減を目指していきます。

今後も、大型集約施設を活用することで、さらなる車両運行の効率化と積載率の向上による環境負荷低減を目指していきます。

■大型集約施設利用による輸送フロー図



各地域から直行便でお荷物を運ぶ必要があります。

各地域から、大型集約施設にお荷物を集約し、行き先ごとにまとめて運びます。



西日本ハブセンター



中部ハブセンター



久喜センター



Tokyoビッグベイ



北九州センター

佐川流通センターの運営・管理

一般的に商品の流通には、工場で生産されてから市場へ出荷するまでに多くの工程を必要とし、作業工程間ごとに輸送が発生するケースが見られました。一方、佐川グローバルロジスティクスが運営・管理する「佐川流通センター（SRC）」では、施設内で商品を一元管理することにより、入荷から出荷までの作業工程間で輸送を発生させず、お客さまの物流業務の手間の簡略化とコスト削減、さらに輸送エネルギーの削減に貢献しています。

2010年3月現在、25カ所のSRCと30カ所の営業所を駆使し、お客さまの物流の合理化とCO₂排出量およびNO_x・PMの大気汚染物質の排出量削減を実現しています。

■SRCでの輸送フロー図

輸送回数の削減＝環境負荷の低減

一般的な商品の流通



SRCを利用した商品の流通



SRC内では物流加工業務で発生する廃材の分別回収を徹底し、リサイクルを推進しています。また、環境配慮素材を使用した梱包資材の提案など、お客さまとともに地球環境の保全に積極的に取り組んでいます。



SRC外観



商品管理



在庫管理

モーダルシフトの推進

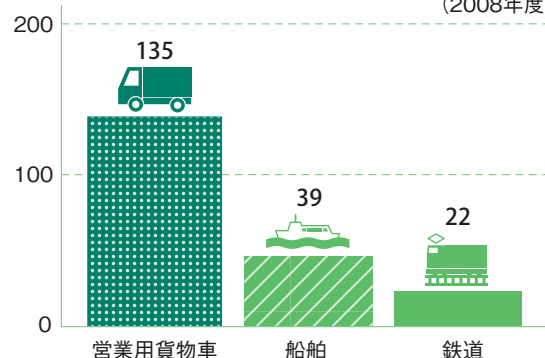
トラックによる輸送手段を、船舶や鉄道に転換することを「モーダルシフト」といいます。これにより省エネや道路混雑の緩和はもちろん、環境負荷の低減も実現しています。例えば、1トンの貨物を1km運ぶ際のCO₂排出量では、鉄道はトラックの1/6、海運は1/4程度といわれています。これは、一度に大量のお荷物を輸送することで効率が高まり、エネルギー消費を低減できるためです。

佐川急便では、このモーダルシフトを推進し、トラックと鉄道や船舶を複合的に組み合わせた輸送方法を積極的に採用しています。

■輸送機関別CO₂排出原単位

(g-CO₂/トンキロ)

出典：国土交通省ホームページ
(2008年度)



スーパーレールカーゴによる宅配便輸送

佐川急便は、安定的な輸送サービスの実現、輸送時のCO₂排出量削減などを目的に、日本貨物鉄道株式会社と「スーパーレールカーゴ」を2004年に共同開発しました。

このスーパーレールカーゴは、国土交通省の実証実験から誕生したもので、佐川急便が全編成を借り切り、日本経済の大動脈といわれる東京－大阪間の宅配便輸送に利用しています。毎日深夜に、16両編成の列車を上り下り各1本運行し、積載量は往復で10トラック56台分に相当します。

現在、スーパーレールカーゴで東京－大阪間の全輸送量の約10%をまかなっており、CO₂排出量の大幅な削減と、環境負荷低減に直接的な効果を発揮しています。

さらに広がる地球にやさしい輸送手段、 モーダルシフト

佐川急便では、スーパーレールカーゴ以外にも、鉄道輸送や海上輸送を積極的に活用し、トラック輸送便数の削減を推進しています。こうした取り組みは、現在50を超える区間で実施されており、環境負荷の低減はもとより、交通事故防止や長距離運転による労務問題の解消にもつながっています。

2009年度もモーダルシフトの推進により、大きな効果を上げています。

■スーパーレールカーゴの車両データ

| | |
|------|--|
| 最高速度 | 130km/h |
| 型式 | M250系 |
| 車両編成 | 16両編成(モーター付車両4両、付随車両12両) |
| 運行区間 | 東京貨物ターミナル駅(東京)－安治川口駅(大阪) 所要時間6時間12分 |

■モーダルシフトによる効果(2009年度)

| | 年間減便数 (10t換算)(台) | CO ₂ 削減量 (t-CO ₂) |
|--------------------|---------------------|---|
| スーパーレールカーゴ | 16,281 | 9,391 |
| 鉄道輸送(スーパーレールカーゴ以外) | 29,295 | 38,058 |
| 海上輸送(フェリー) | 43,375 | 16,099 |
| 合計 | 88,951 | 63,548 |

※国土交通省出典：貨物輸送機関の二酸化炭素排出原単位(2008年度)より算出

※2009年度における実質的な削減量ではなく、モーダルシフトを行わなかった場合の環境負荷を効果として算出



スーパーレールカーゴ



スーパーレールカーゴ専用コンテナトラック

■モーダルシフト実績(2009年度)

スーパーレールカーゴ

| 利用区間 | | 累計コンテナ数 |
|---------|---------|---------|
| 安治川口 | 東京ターミナル | 8,162 |
| 東京ターミナル | 安治川口 | 8,119 |
| 合計 | | 16,281 |

鉄道輸送(スーパーレールカーゴ以外)

| 利用区間 | | 累計コンテナ数 |
|----------|----------|---------|
| 福岡ターミナル | 東京ターミナル | 4,440 |
| 名古屋ターミナル | 札幌ターミナル | 3,339 |
| 隅田川 | 札幌ターミナル | 17,018 |
| 東京ターミナル | 福岡ターミナル | 16,702 |
| | 北九州ターミナル | 3,552 |
| 上記他 | | 15,116 |
| 合計 | | 60,167 |

海上輸送(フェリー)

| 利用区間 | | 累計台数 |
|------|-------|--------|
| 敦賀港 | 苫小牧東港 | 3,365 |
| 青森港 | 函館港 | 7,454 |
| 八戸港 | 苫小牧港 | 7,184 |
| 苫小牧港 | 八戸港 | 7,855 |
| 函館港 | 青森港 | 3,938 |
| 上記他 | | 9,495 |
| 合計 | | 39,291 |

▶ 資源の有効活用

廃材を利用した製品づくりや、太陽エネルギーの利用など、資源を事業に有効活用することにより、環境負荷低減に努めています。

ECO車体の開発・導入

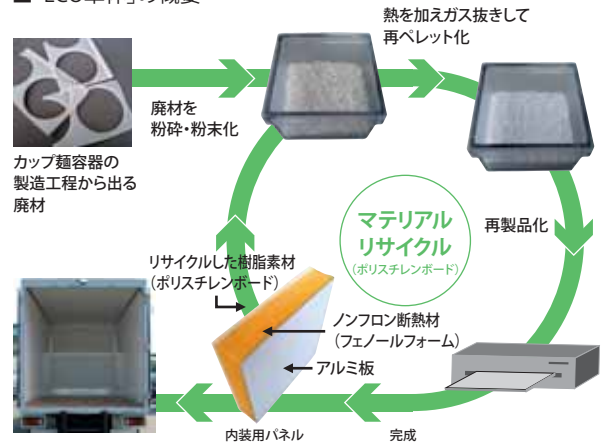
SGモーターズでは、車両ボディの製造による地球環境負荷への配慮として、地球にやさしい「ECO車体」を開発し、展開しています。車両ボディの内装材には、カップ麺容器の製造過程で発生する廃材を100%利用したリサイクル樹脂素材を使用しております。従来の車両ボディに比べ、木材使用を大幅に削減しています。このエコボディを使用したトラックは、2003年の開発以降、順次導入され2009年には通算7,400台となっており、木材の削減量は474トンにも及んでいます。

また、断熱材にはノンフロン断熱材を採用し、フロンガス排出の抑制と、ドライバーの荷台内での作業を改善するために、温度環境に配慮しています。

自動車の車体には多様な素材が使用されており、トラックのような大型車両の場合、1台の車両に使用される材料の量も多くなります。今後、燃費や排気ガスへの対応に加え車体の環境対応の推進により、自動車をめぐる環境負荷の低減がさらに進んでいくことが期待されます。

こうした取り組みが評価され、2009年11月には、グリーン購入大賞(優秀賞)を受賞しました。

■「ECO車体」の概要



「ECO車体」を搭載したクール便BOX車



グリーン購入大賞受賞式の様子

植林事業への協賛

SGモーターズは、自然と共存する企業を目指し、植林事業に協力しています。植林している樹種はアカシア・ハイブリッドという早生樹で、植えてから20年で直径50cm以上に成長し、材質も強い非常にめずらしい樹種です。

SGモーターズでは、この植林材をトラック内部の床材として使用しています。「使用する木材は自分たちの手で」を合言葉に、車両ボディの資材として植林材を積極的に採用しています。



植林のようす
(マレーシア サバ州)



植林から2年8か月後

太陽光発電システムの導入

発電の際にCO₂や有害物質が全く発生しない発電方法として、太陽光発電が普及しはじめています。佐川急便では、この太陽光発電システムを2003年度より導入しており、現在、全国23カ所で稼働し、累計500kWのシステムを保有しています。年間発電量は約50万kWhとなり、国内一般家庭の、約51,000世帯の1日分の消費電力量に相当します。

今後も太陽光発電システムの導入をはじめ、自然エネルギーや再生可能エネルギーの利用を推進していきます。



太陽光発電電量表示パネル



太陽光発電システム

ロイコカードの導入

多くの企業でオフィス環境のデジタル化が進み、レーザープリンタなどで大量の用紙が消費される中、佐川急便では、無駄な紙の使用を避けるため、作業指示書の発行に繰り返し書き換えられる環境にやさしい「ロイコカード※」を用いています。

大型集約施設「Tokyoビッグベイ」の「ゆうメール」専用自動仕分け機の運用において、ロイコカードの導入により、導入前と比較して、1日に約1,500枚の用紙の使用を抑制しています。

今後も、廃棄物削減に向けた取り組みを、積極的に実施していきます。

※ 記録面に熱を加えることで、文字を書いたり消したりできるカード。磁気を使った印字よりも読みやすく、より多くの書き換えが可能。



ロイコカード(印字前)



ロイコカード(印字後)

環境配慮型整備工場

SGモーターズは、「安全」「環境」「効率」をコンセプトに、車両整備工場の改修と最新設備の導入を進めています。

札幌店

(竣工2008年12月17日、敷地面積:42,211.00㎡、延床面積:1,636.47㎡)

環境に配慮した施設展開として、窓を大きく設けて、自然光を室内に取り入れることで、照明点灯時間の短縮や空調運転時間の短縮を実現しています。また廃油を燃料にして、工場内の床暖房や構内のロードヒーティングなどの積雪対策に活用し、資源の循環利用を実現しています。



札幌店外観

高松店

(竣工2009年1月14日、敷地面積:5,071.73㎡、延床面積2,185.32㎡)

排出処理システムを活用(工場からの排水に凝集沈殿処理や微生物を活用)し、汚水の河川への流出を防止しています。また、年間の降水量が少ないという地域性を考慮し、雨水を浄化処理して貯留し、工場内での洗車用水やトイレ洗浄水として有効活用しています。



高松店外観

▶ 循環型社会を目指した取り組み

エコマーク認定品の採用や、使用済み車両の適正処理、家電リサイクルへの貢献事業など、循環型社会の実現に向け、多角的な取り組みを行っています。

エコユニフォームの採用

SGホールディングスグループは、環境負荷低減に貢献する製品を積極的に購入する「グリーン購入」を推進しています。その一環として、当グループのユニフォームには、ペットボトルを再利用した再生ポリエステルを使用したエコマーク認定品を採用しています。2009年度は、12万2,699着のユニフォームを製造しました。これは33万5,757本のペットボトルを再利用したことになります。

また、使用済みユニフォームでリユースが困難なものは、制服管理センターで回収後、中間処分場にて破碎処理・ペレット

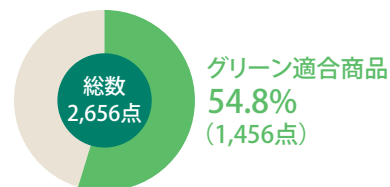
■使用済みエコユニフォームのリサイクル



化を行い、製鉄所の高炉還元剤としてリサイクルしています。

さらに、セールスドライバーが使用している軍手についても、エコマーク認定品を採用しています。2009年度は、86万5,013双の軍手を利用しました。また文具類についてもグリーン購入を積極的に推進しています。

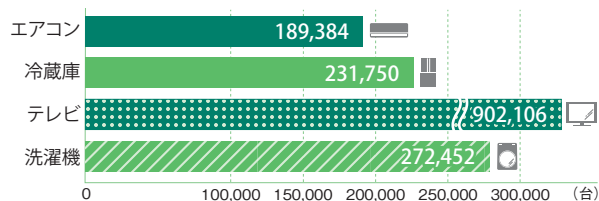
■文具類のグリーン購入品



家電リサイクル回収品の運搬支援

家電リサイクル法で回収が義務付けられている指定家電製品のリサイクル推進に向け、佐川急便では、家電メーカーからの依頼により、再商品化施設などへの搬送業務を実施しています。近畿・中部・四国のグループおよび協力会社が指定業者となり、円滑な資源循環を支えています。

■家電リサイクル取り扱い実績(2009年度実績)



車両のリサイクル

佐川急便で償却された車両は、SGモーターズにより、環境負荷の小さい方法で適切に処理しています。

車両フロンの回収

整備作業時および車両廃棄時に発生するフロンガスを適切に回収・破壊処理し、大気中への放出を防いでいます。2009年度は、107.54kgのフロンガスを回収しました。

車両で使用しているオイルの回収

エンジンオイル、ミッションオイルなど不要になった廃オイルは、廃棄物とせずリサイクルを推進しています。2009年度は、439,608ℓのオイルをリサイクルしました。

廃タイヤの回収

使用不可となった廃タイヤについては、最終処分業者に加工利用・熱利用・原型利用などのリサイクルを実施しています。2009年度は約92,000本の廃タイヤを回収しました。

再生タイヤの導入

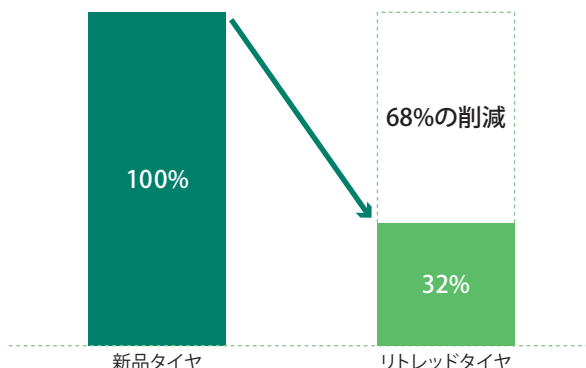
佐川急便では環境保全活動の一環として、集配トラックの後輪タイヤに再生タイヤ(リトレッドタイヤ)を導入しています。

再生タイヤとは、摩耗したタイヤを選別・加工し新品同様に蘇らせたもので、新品タイヤに比べて製造に必要な石油を約68%削減可能です。これにより資源の有効活用による環境負荷低減につながり、大幅なコスト削減効果も得ることができます。また、安全性についても、再生タイヤを装着した2トントラックの走行実験を行い、通常の新品タイヤと遜色なく使用できることを確認しています。

導入については、2009年9月より関東圏内の2トントラックから開始しています。

■製造時に必要な石油資源の比較

(更正タイヤ全国協議会より)



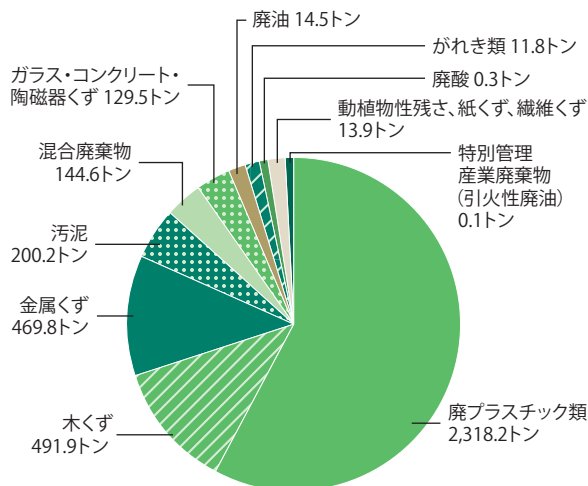
廃棄物削減に向けた取り組み

2008年度のCSRレポートでは一般廃棄物を含むグループ会社の集計数値を報告していましたが、2009年度からは「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、佐川急便各支社・各店での廃棄物の数値を集計しています。そのため、2008年度の実績数値は約46,642トンと報告していましたが、上記集計での実績は約2,780トンとなります。

佐川急便では、2008年度から事業活動で生じる廃棄物の削減に向けてさまざまな取り組みを実施していますが、2009年度廃棄物総量は約3,795トン(前年比36.5%増)となりました。

グループ環境方針にもある「3R(Reduce、Reuse、Recycle)」をさらに推進し、徹底した分別による廃棄物の抑制と再資源化に対する取り組みに注力していきます。

■2009年度佐川急便廃棄物の分類



宅配専用自転車を導入

佐川急便では、このほど宅配専用自転車を開発しました。

この宅配専用自転車は、電動アシスト付き三輪自転車にコンテナを取り付けた自転車で、重いお荷物の配達や坂道での走行も負担が少ないのが特徴です。運転席の上部には、雨天でも走行できるように樹脂製の透明なルーフを装着しています。また左右には広角ミラーも取り付けています。後部のアルミ製コンテナは、50kgのお荷物まで積載可能な設計となっており、重いお荷目に耐えられるよう、タイヤも一般に比べて約2倍の太さのものを採用しています。

現在は関東・関西などの都市部を中心に約110台が導入されています。



宅配専用自転車

▶ SGホールディングスグループ環境行動

グループ全従業員の環境保全に対する意識向上を目指し、毎年環境行動指針を制定。
一人ひとりの行動が、SGホールディングスグループの環境活動を支えています。

2009年度 環境行動の取り組み

環境保全への取り組みを、グループ全社を通して、従業員自らが積極的に推進していくことを目的に、2003年度より毎年、年間の「環境行動」を制定し、従業員参加型の環境活動を実施しています。

■環境行動実施項目(2009年度)

| | |
|---|--------------|
| 1 | アイドリングストップ検証 |
| 2 | 全社一斉ライトダウン |
| 3 | クリーンアップ運動 |
| 4 | コピー用紙削減運動 |
| 5 | 省エネルギー運動 |
| 6 | 環境絵日記コンクール |
| 7 | エコファミリーコンクール |
| 8 | 環境モデル店コンクール |



環境行動カレンダー(2009年度)

Heart to Heart >>>

一人ひとりの気遣いが、大きなチカラに

SGホールディングスグループでは、
従業員やその家族、地域の皆さまと協力しながら、
環境保全活動を推進しています。

環境絵日記コンクール

家庭における環境保全活動を推進することを目的として「環境絵日記コンクール」を実施しています。
2009年度は、1,784点の応募があり、年々、応募数が増加している活動となっています。



最優秀賞

添田千絵さん



優秀賞

保坂雛奈乃さん



優秀賞

濱浪陽さん

環境モデル店コンクール

グループ全事業所を対象に、環境保全活動の推進や環境意識の高揚を図ることを目的として「環境モデル店コンクール」を実施し、他の模範となる活動を実施している事業所を表彰する制度です。

■2009年度の最優秀事業所と主な取り組み

【佐川急便 文京店】

- 成果の「見える化」に注力し、基準年から現在までの燃費の推移を、燃費表にして管理。
- 削減したCO₂量を熱帯林が固定する量に置き換え、幹線道路の中央分離帯にグリーンベルトを想出するバーチャル緑化運動を実施。
- 「エコライブラリー」を開設し、環境問題関連のビデオや図書の貸し出しを実施。

【佐川急便 西日本ハブセンター】

- 従業員が頻繁に利用する場所の節電を徹底。
- 用紙のリサイクル、使用済み電池の回収活動を徹底。
- 管理棟や社員食堂、入場門周辺の緑化活動を推進。
- 月に1度の安全衛生委員会後、環境について考えるミーティングを実施。地域美化活動などにも参加。

【SGモーターズ 本社】

- 不要な電気が使用されていないか、本社施設内を1日2回見回り点検。
- 整備職などが着用した使用済作業服を、熱源として再利用する「サーマルリサイクル活動」を実施。
- 地域の美化推進に貢献することを目的として、「クリーンアップ運動」を実施。
- 従業員の環境意識向上のため、日常の環境取り組み方法を説明し、対策ビデオを上映。

【佐川グローバルロジスティクス 西東京支店 川崎SRC】

- 需要電力が基準を超えた場合にアラームを発信するデマンドコントロールシステムを活用し、空調機の使用電力量を削減。
- 産業廃棄物の分別徹底により、処理経費の削減と資源リサイクルを推進。
- 佐川急便 横浜鶴見店との共同作業により、社屋周辺の清掃・草刈りなどを実施。
- デマンドコントロールシステムの理解促進のため、運用マニュアルを作成し、説明会を開催。



コンクールは、所定の応募フォーマットに記載された各事業所の活動内容を元に審査をします。

全社一斉ライトダウン

グループ全事業所を対象に看板灯などを消灯する「全社一斉ライトダウン」を実施しています。

2009年度は、4月、7月、10月、1月に、のべ27日間実施し、合計約98万kWhの電力消費を削減しました。これは553.6トンのCO₂削減効果に相当し、約10万世帯の1日分の消費電力量を抑制したことになります。



ライトダウン前



ライトダウン後

クリーンアップ運動

従業員一人ひとりの環境保全(ゴミ問題)に対する意識向上と、地域の美化推進に貢献することを目的に「クリーンアップ運動」を実施しています。

2009年度は、のべ37,000人の従業員が参加し、事業所近隣の自治体や企業、NPO等と協働して地域の清掃活動を行いました。



クリーンアップ運動①



クリーンアップ運動②

» 第4回我が家の「eco宣言☆」で環境大臣賞

環境省では、家庭におけるエコライフをレポートとしてまとめた「我が家の「eco宣言☆」」を募集しています。SGホールディングスグループもこの活動に積極的に参加、前年に引き続き2009年度も従業員の子が環境大臣賞を受賞しました。

こども部門 最優秀賞

「緑のへいから生まれた家族の絆」 久保 桜花さん

こども部門 優秀賞

「江戸に見習うecoライフ」 設楽 遥さん

▶ 生物多様性への取り組み

環境負荷低減と同様に「自然との共生」を重要テーマと位置づけ、生物多様性を守るための活動を、積極的に実施しています。

森林保全に向けた活動

SGホールディングスグループでは、高知県と徳島県、また東京都八王子市に合計約750ヘクタールの森林を保有し、森林保全に向けたさまざまな活動を行っています。

高知県の「さがわの森」では、佐川林業による森林管理を適切に行いながら、森林保全に関する環境研修を実施し、自然と身近にふれあう場を設けています。

また八王子市の高尾の森林では、「高尾100年の森」プロジェクトとして、NPOやボランティア、地域の方々と協力した里山再生の取り組みを実施しています。

今後も、自然との共生に向けて、森林の新しい活用モデルの検討と提案に取り組んでいきます。

「高尾100年の森」

「高尾100年の森」では、自然を実感していただくさまざまな体験型イベントを実施しています。

■主な実施イベント

| | |
|------------|-------------------------|
| 2007年7月 | 里山の森林管理 |
| 2008年1月 | 高尾山ランドワークショップ |
| 2008年3月 | ラブ・高尾の森 |
| 2008年7月 | 森林リラクゼーション調査 |
| 2008年8月 | 舞台と空間のワークショップ |
| 2009年6月／8月 | 子供自然体験 |
| 2009年11月 | 佐川急便内定者自然体験in「高尾100年の森」 |



間伐作業を見学

環境省、農林水産省が後援する「第1回いきものにぎわい企業活動コンテスト」※において「高尾100年の森」プロジェクトが審査委員特別賞を受賞しました。

※企業が地域社会や市民団体などと連携し、森づくりや里山、棚田などの保全再生に取り組む活動を表彰するもの。

VOICE 自然体験に参加した佐川急便内定者の声

- ・以前より間伐に興味があったので、体験できて良かったです。
- ・森林をバランス良く手入れすることの大変さを知りました。
- ・このような事業を積極的に推進している企業に入社できたことを、誇りに思います。
- ・久しぶりに自然と触れ合うことができ、環境のことを考える絶好の機会となりました。



自然体験学習の実施

子どもたちに自然の恵みや食物の大切さを知ってもらうことを目的に、2007年度より「自然体験学習」を実施し、自然を身近に感じられる学習として田植えや草刈り、稲刈りなど、昔ながらの米づくり体験を行っています。

滋賀県守山市で実施した田植え体験には、グループ社員



田植えのようす



稲刈りのようす

の家族や地域住民の方など279名が参加し、約900坪の広大な水田で行いました。

子どもたちに自然との共生を意識してもらえるよう、今後もこうした自然体験学習を継続して実施していきます。

VOICE 保護者の皆さまの声

- ・子どもがご飯を最後の一粒まで残さず食べるようになりました。
- ・普段なかなか体験できないことだったので、大変喜んでいました。
- ・自然体験学習後、自分たちで家庭菜園を始めました。
- ・子どもたちは、お米を作る苦労、お米を食べるありがたみを体験を通じて実感したようです。

▶ 環境啓発への取り組み

従業員や次世代を担う地域の子どもたち、さらにはグループ会社の経営幹部まで、幅広いステークホルダーに対して、環境保全の大切さを知っていただく啓発活動を行っています。

環境授業の開催

佐川急便では、地球温暖化をはじめとした環境問題を題材に、子どもたちへの「環境授業」を各地で開催しています。

授業では、物流(宅配便)のしくみの中で佐川急便が取り組むさまざまな環境活動をわかりやすく紹介しています。

今後も、これからの社会を担う子どもたちの環境意識向上につながる活動として、広く展開したいと考えています。



環境授業のようす

環境イベントへの出展

地方自治体や省庁、団体などが主催する環境イベントに積極的に出展し、一般の方々の環境意識向上に貢献する啓発活動を実施しています。

■ 主な出展イベント (2009年度)

| イベント名 | 開催日 | 開催場所 | 主催 |
|-----------|-----------|-----------------|-----------|
| エコライフ・フェア | 6月6～7日 | 東京都 都立代々木公園 | 環境省 他 |
| エコプロダクツ | 12月10～12日 | 東京都 東京ビッグサイト | 日本経済新聞社 他 |



エコライフ・フェア



エコプロダクツ

幹部向けセミナー

SGホールディングスグループ各社の経営幹部を対象に、環境分野における社会動向の把握と、経営視点での環境対策を推進することを目的として、環境関連セミナーを開催しました。また、環境実務者向けセミナーも実施しました。



環境実務者向けセミナー

「ap bank fes」への協力

音楽を気持ちのよい場所で楽しみながら、環境問題をより身近に、より前向きに考えることができる場として、静岡県掛川市の「つま恋」にて開催されている「ap bank fes」。ライブはもちろんのこと、トークショーやワークショップ、オーガニックフードや環境配慮の雑貨を楽しむことができます。また、会場では、環境負荷の少ないエネルギーの導入や、ごみの分別回収の徹底およびリサイクル、飲食店ではリユース食器を全面的に使用するなど、さまざまな環境への取り組みを実践しています。



ap bank fes

そのような取り組みに賛同し、佐川急便では、2006年から輸送等の協力をしています。

※ ap bank fesの収益は、ap bankの融資原資、活動資金、環境をはじめとするさまざまなプロジェクトの支援や推進のための資金となります。

▶ 環境活動推進の体制づくり

環境会計や環境マネジメントシステムの導入、PDCA(Plan・Do・Check・Action)サイクルの徹底により、適切で効果的な環境活動を実践しています。

環境会計

より効果的な環境経営の実現に向け、佐川急便では、環境会計を導入しています。環境対策関連の投資額や経費を的確に把握することで、将来の投資に向けた指標設定や

プロジェクトごとの分析などに役立てています。

2009年度実績では、環境投資額が約3千万円、環境費用額が約68億円となりました。

■環境保全コスト

(単位:百万円)

| 分類 | 主な取り組み内容 | 2008年度 | | 2009年度 | | 増減の主な要因 |
|---------------|---|--------|-------|--------|-------|--|
| | | 環境投資 | 環境費用 | 環境投資 | 環境費用 | |
| (1) 事業エリア内コスト | | 484 | 1,060 | 31 | 995 | |
| 内 訳 | ①公害防止コスト | 2 | 41 | 0 | 34 | 既存設備の減価償却費減少に伴い、環境費用が減少。 |
| | ②地球環境保全コスト | 482 | 178 | 30 | 193 | 前年に自家用天然ガス充填スタンドを16カ所設置し、当年は新設計画がなかったことにより環境投資が減少。 |
| | ③資源循環コスト | 0 | 842 | 1 | 768 | 廃棄物処理費の減少、および廃タイヤ処理費見直しにより、環境費用が減少。 |
| (2) 上・下流コスト | | — | — | — | — | |
| (3) 管理活動コスト | 環境マネジメントシステム導入、グリーン経営推進、環境広告、環境教育、環境情報の開示 | — | 183 | — | 240 | 環境関連広告の増加に伴い、環境費用が増加。 |
| (4) 研究開発コスト | 環境に配慮したサービスの開発 | — | 79 | — | 67 | 飛脚パソコン便関連資材購入の減少に伴い、環境費用が減少。 |
| (5) 社会活動コスト | 国内外環境保全団体への寄付、啓発活動 | — | 166 | — | 64 | JOC環境オフィシャルパートナー契約の終了に伴い、環境費用が減少。 |
| (6) 環境損傷対応コスト | アスベスト粉塵対策 | — | 0 | — | — | |
| (7) 安全対策コスト | 安全対策としての車両点検、従業員教育、啓発活動 | — | 5,516 | — | 5,424 | EMS機器の導入コスト減に伴い、環境費用が減少。 |
| 合計 | | 484 | 7,004 | 31 | 6,790 | |

■環境保全効果

| 環境パフォーマンス指標 | 2008年度 | 2009年度 | 環境保全効果 (2009年度実績-2008年度実績) |
|---------------------------------|---------|---------|-------------------------------|
| 軽油(kℓ) | 89,881 | 87,856 | -2,025 |
| 灯油(kℓ) | 292 | 253 | -39 |
| 重油(kℓ) | 76 | 90 | 14 |
| 天然ガス(km ³) ※バイオガス含む | 16,373 | 18,110 | 1,737 (注1) |
| 都市ガス(km ³) | 1,194 | 1,070 | -124 (注1) |
| プロパン(kg) | 383,557 | 371,847 | -11,710 (注2) |
| ガソリン(kℓ) ※ハイオク バイオガソリン含む | 17,241 | 19,028 | 1,787 |
| 電気(kWh) | 23,539万 | 22,547万 | -992万 |
| 水(上水)(km ³) | 913 | 876 | -37 |
| 水(下水)(km ³) | 911 | 846 | -65 |
| 工業用水(上水)(km ³) | 30 | 26 | -4 (注3) |
| 工業用水(下水)(km ³) | 30 | 26 | -4 (注3) |
| NOx(t) | 1,115 | 1,105 | -10 (注4) |
| PM(t) | 62 | 60 | -2 (注4) |
| ペットボトルリサイクル量(本) | — | — | 335,757 (注5) |

・環境保全効果は、2008年度比の単純増減で算出しています。
 (注1)天然ガス、都市ガスについては、供給会社からの請求書に記載された数値を集計しており、温度補正、圧力補正をしていない数値です。
 (注2)供給会社からの請求書に記載された数値(m³)を2.07kg/m³を使用し重量換算しています。
 (注3)工業用水については2006年度から集計しています。
 (注4)NOx、PM排出量は、トラックに関連するもののみ。(国土交通省の定める車両型式ごとの排出係数を基に、車両ごとの走行距離から理論上の推定値を算出)
 (注5)ペットボトルリサイクル量は、2009年度においてペットボトルを原料とするユニフォームの使用により、ペットボトルのリサイクルに貢献したと考えられる効果をペットボトル本数に換算して記載しています。(換算値:半袖2.42本/枚、長袖3.76本/枚)

■環境保全効果に伴う経済効果

(単位:万円)

| 経済効果 | 金額 |
|----------------------|---------|
| 軽油使用量削減に伴う費用削減 | 254,098 |
| 電力使用量削減に伴う費用削減 | 52,631 |
| 都市ガス使用量削減に伴う費用削減 | 2,305 |
| 水(上水)使用量削減に伴う費用削減 | 1,254 |
| 水(下水)使用量削減に伴う費用削減 | 804 |
| 灯油使用量削減に伴う費用削減 | 643 |
| プロパンガス使用量削減に伴う費用削減 | 435 |
| 工業用水(上水)使用量削減に伴う費用削減 | 18 |

■集計方法

- ・集計期間:2009年度(2009年3月21日~2010年3月20日)
- ・対象範囲:佐川急便株式会社単体(一部SGモーターズ株式会社含む)
- ・参考としたガイドライン:環境省「環境会計ガイドライン2005年版」
- ・20万円以上の資産の取得を投資として計上しています。
- ・環境設備の減価償却は、4年間の定額償却で算出しています。
- ・人件費は環境活動時間×佐川急便平均人件費単価で算出しています。

環境マネジメントシステム

佐川急便社は、2001年にISO14001:2004の認証を取得しており、体制の整備や実施目的・目標の設定、達成度の検証を継続的に行い、より効果的・効率的な環境保全活動を目指しています。

また、2004年からは佐川急便の9つの営業店が、グリーン経営認証を取得し、環境保全に対する体制整備、エネルギー使用量の低減に向けた取り組みを行っています。



ISO14001
適合証明証(佐川急便 本社)
登録証明証No. NQE-07060074A



グリーン経営認証登録証
(佐川急便 文京店)

■2009年度の主な環境目標と実績

| 排出ガスによる地球温暖化・大気汚染の防止 | | | | | |
|---------------------------------|---|---|----|---|-----------|
| 目標 | 低公害車の導入を推進する (CNG車を年間108台導入) | → | 実績 | 既存車両を効率よく活用することを目的として増車計画の変更を行ったため計画台数に届きませんでした。 (目標108台⇒実績97台) | 未達成 → P51 |
| 目標 | サービスセンター設立により、 増車台数を抑制する (新規32店設置、増車64台を抑制) | → | 実績 | サービスセンターを34店(全国合計251店)設立し、 増車を97台抑制。 | 達成 → P53 |
| 目標 | エコ安全ドライブ推進により 環境負荷の低減を図る | → | 実績 | 営業車両の燃費目標5.77km/ℓ ⇒実績5.85km/ℓ | 達成 |
| 目標 | モーダルシフトの運用・ 輸送効率の向上・ エコドライブの推進 | → | 実績 | 鉄道・船舶輸送10t換算台数実績目標83,210台⇒実績89,207台 1車あたりの平均積載個数目標617個⇒実績647個 自社大型車の燃費目標3.73km/ℓ ⇒実績3.84km/ℓ | 達成 → P54 |
| 目標 | 次世代燃料の研究及び検証 (バイオガソリン、BDF※、 バイオガスの使用を検証) | → | 実績 | 東神戸店において10台の車両にバイオガスを使用。 2010年度より関西エリアでBDF100%の試験運用を開始。 | 達成 → P52 |
| 省資源・省エネルギー・3R推進による循環型社会構築のための活動 | | | | | |
| 目標 | 機密文書古紙等の適正処理を行う | → | 実績 | 一般古紙、古新聞、雑誌の専用回収箱を設置し、 分別による再資源化を推進すると共に機密文書回収箱を設置し、 溶解処理を経て再資源化を実施。 | 達成 → P59 |
| グリーン購入の推進 | | | | | |
| 目標 | 購買管理システムへ 環境対応商品をカタログ掲載する | → | 実績 | 2,656品目を購買管理システムへ商品カタログとして 掲載している内、1,456品目を環境対応商品として掲載。 | 達成 → P58 |
| 目標 | グリーン適合品発注率の 向上を図る | → | 実績 | グリーン購入適合商品ラインナップの充実により 適合品の発注率を上げることができました。 (目標70%⇒実績80%) | 達成 → P58 |
| 社内外での環境啓発活動の推進・環境情報開示 | | | | | |
| 目標 | 各種環境活動などを題材にした 広報ツールの作成および パブリシティ活動を行う | → | 実績 | ニュースリリース17件、取材対応72件、社内誌(HIKYAKU)30件、 映像社内報(SG-Stage)16件、映像社内報(ふれあい)6件、 Webニュース13件を実施し、社内外へ環境啓発に努めました。 | 達成 |
| 目標 | ホームページを活用し、 環境活動の情報発信を行う | → | 実績 | ホームページ更新17件を実施し、 広くステークホルダーに情報を発信しました。 | 達成 |

※ BDF (Bio Diesel Fuel) : 生物由来油から作られるディーゼルエンジン用燃料。石油燃料の代替燃料として注目を浴びている。

環境法令への対応

SGホールディングスグループでは、法令遵守の精神に則り、「地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)」や「自動車NOx・PM法」、「エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)」など、環境にかかわる法律や条例、規制

に適切に対応しています。

今後も、地球温暖化の防止と大気汚染防止に向けた取り組みを推進していきます。

CSR活動に真摯に取り組む 全国の仲間たちの声



佐川急便
千代田店
セールスドライバー
木村 豊

私の安全運転が隣を走るドライバーの手本に

運転中は、交差点の右左折時横断歩道手前の一時停止などを徹底して行うなど、何よりも安全運転に気を配っています。こうした取り組みは、地域の方々からの信頼獲得だけに留まりません。例えば、佐川急便のトラックが横断歩道手前で一時停止すると、横の車両も同様に一時停止をすることも。周囲の車両へも交通安全に対する無言のメッセージとして伝わっているのです。これからも安全運転の手本として、社会に貢献していきたいです。



佐川フィナンシャル
決済サービス事業部
鈴木 沙弥佳

お問い合わせには、丁寧に分かりやすく対応しています

現在私は、お電話によるお問い合わせ対応業務を担当しています。当社のサービスである「e-コレクト[®]」をお客さまのご希望に添えるよう、有効にご利用いただくために、わかりやすく説明し誠心誠意対応することでお客さまに喜んでいただくことが私なりのCSR活動だと考えています。そのほかにも、開発途上国の子どものポリオの予防接種をバックアップする、エコキャップ運動にも積極的に取り組んでいます。



佐川引越センター
名古屋支店
営業1課
末武 健太郎

運ぶ必要のないものにも、目を向けた提案を

お引越を機会に、お客さまは不要品を処分されます。その中にはまだまだ使えるものもあり、積極的にリサイクルをご提案しています。先日事務所移転の際に、机などをリサイクル会社に買い取ってもらうよう手配したところ、「ここまで対応してくれたのは皆さんだけでした」と感謝の言葉をいただきました。モノを運ぶ私たちですが、運ぶ必要のないものにも気を配ることで、さらなるお客さまの満足を目指していきます。



佐川急便
大井川店
セールスドライバー
曾根 のぞみ

私を支えてくれるすべての人に感謝

仕事を始めたころは、忙しいあまりに心に余裕をなくしてしまった私。あるとき先輩から「態度が顔に出てるから気を付けよう」と言われ、笑顔での接客を心がけるようになりました。しばらくすると「笑顔がいいね、こっちまで元気になるよ」とお客さまから声をかけてくださったり「いつもありがとう、よかったですぞ」と栄養ドリンクをいただいたことも。これからもお客さまや職場の仲間への感謝の気持ちと笑顔を忘れずに、仕事に励んでいきます。

社 会 と の か か わ り

人々との
コミュニケーションを通じ
信頼される企業グループへ

事業
の取り組み

安全
への取り組み

環境
への取り組み

社会
とのかかわり



人と人をつなぎ 豊かな社会を 目指します。

REPORT

SGホールディングス株式会社
事業戦略部 総務・CSR担当
部長

小林 康男



物流事業を通じて「人」と「人」をつなぐ企業だから、社会とのつながりを大切にしたい。その想いは、SGホールディングスグループが創業以来受け継いできた変わらないものです。私たちは、お客さま、従業員、地域の皆さまとのコミュニケーションを深めながら業務改善や新サービスの開発、福利厚生の実施などの取り組みを推進しています。また、事業を通じて社会から受けた恩恵を広く還元したいという想いから、医療、文化芸術、スポーツ、さらには、中国をはじめとしたアジア各国の人々との交流事業や開発途上国に対する経済協力など財団法人を通じて幅広い分野で支援活動を展開しています。SGホールディングスグループが社会とともに発展するためには、「私たちが社会に求められている期待や役割とは何か」を自問することが大切。これからも人々の意見に謙虚に耳を傾け、真摯に事業に取り組んでいきます。

▶ 2009年度の主な取り組み

ステークホルダーとともに持続的な発展への取り組み

2009年度は、お客さま向けのサービスの向上として、新たに特定信書の送達事業である「飛脚特定信書便」をスタートさせました。また、次世代を担う子どもたちの育成支援を目的とした職場体験学習を引き続き全国で実施したほか、講演活動やスポーツイベントへの協賛など、社会への貢献活動に取り組みました。従業員への働きやすい職場環境づくりとして、夏場の熱中症対策にセールスドライバーの夏期制服「ハーフパンツ」を導入。人材育成を目的に女性従業員向け「女性キャリア支援教育研修」を実施しました。

▶ 今後の目標

「ステークホルダー経営」を基盤に、CSRを強化

社会とともに歩む企業として、地域や社会との関係の重要性は強まっています。SGホールディングスグループでは、「ステークホルダー経営」を基盤に、お客さまのニーズに応えられる高品質・高付加価値のサービス提供に努めます。また、よき企業市民としての責任を果たし、豊かで健康な生活、安心できる社会の実現に向け、地域社会との共生を目指した取り組みを今後も実施していきます。そして、従業員の能力を存分に発揮できる職場環境づくりに努め、社会変化に柔軟に対応できるCSR体制を強化していきます。

▶ お客さまに向けて

高品質、高付加価値のサービスの開発と提供を通じて、多くのお客さまから選ばれ、信頼される企業を目指しています。

3Rに対応したパソコン輸送サービス「飛脚パソコン便」

佐川急便では、3Rに対応した輸送サービス「飛脚パソコン便」を展開しています。

パソコンの修理時に、メーカーとユーザー間で輸送を行う際、繰り返し使用することができるオリジナルの梱包材「SAGAWA soft air package」は、振動や衝撃から製品を守る輸送品質の高さと、従来の梱包のようなゴミを出さないなど、環境に配慮した製品として高く評価されています。



飛脚パソコン便のオリジナル梱包材

包装資材を大幅削減する「飛脚グリーンメール」

包装資材を大幅に削減した環境にやさしい輸送サービスが「飛脚グリーンメール」です。これは、冊子やカタログなどの開封口部分を汚さず簡単にはがすことができる特殊なテープと、宛名ラベルを貼るだけで送れるメーリングサービスです。2009年度の取り扱い通数が前年度比103.32%となる57万2,548通に達するなど、環境意識の高まりの中でご利用が急速に増えています。

紙やビニールなどの封筒が不要になり、一般的なA4

サイズの封筒で送る場合と比べ、1冊あたり約13gの包装資材が削減できます。例えば毎月1万冊をご利用いただいた場合、1年間で約1,560kgの包装資材の削減につながります。



■A4サイズの冊子を送った場合の削減量

| | 包装資材の重さ | | | 毎月 10,000冊 を1年間 |
|-----------|---------|------|--------|-----------------------|
| | 1冊 | 500冊 | 1,000冊 | |
| 従来の冊子メール | 14g | 7kg | 14kg | 1,680kg |
| 飛脚グリーンメール | 1g | 500g | 1kg | 120kg |

溶解処理まで行う「飛脚機密文書リサイクル便」

個人情報保護や資源保護の観点から、企業で取り扱う機密文書は、裁断処理から溶解処理へ移行するケースが増えています。こうした中、佐川急便では機密文書の集荷から溶解処理まで行うサービス「飛脚機密文書リサイクル便」を展開しています。

処理の流れは、機密文書を専用箱に収納し、機密性を保持した上で、一貫輸送で溶解処理場まで配送し、溶解処理をするものです。溶解処理した書類は再資源としてトイレットペーパーなどにリサイクルされます。また、

溶解処理終了後、証明書をWebサービスにて発行しています。



専用ダンボール

許可取得で「飛脚特定信書便」をスタート

佐川急便では、2009年3月に「民間事業者による信書の送達に関する法律」で定められた、特定信書の送達事業への参入について許可を取得しました。これにより、特定信書便事業を行うことが可能になり、「e-コレクト[®]」を活用した収納代行やインターネットなどの既存インフラと連携

したサービスを積極的に展開していきます。

■取り扱い可能な信書類

書状・請求書類・免許証等の許可証・住民票、戸籍謄本などの証明書・ダイレクトメールなど

通販インフラを安全・安心に支える代金引換サービス「e-コレクト[®]」

通信販売をご利用される方の安心・安全な決済サービスとしてご利用が着実に普及しているのが、代金引換サービス「e-コレクト[®]」です。

商品と引き換えに、専用の決済端末機による決済を行うため、「金融機関への事前振込み」による手間や商品不達への心配、「インターネット上のクレジットカード決済」によるカード情報漏洩の不安がありません。2009年度は約1億2,713万個、1兆3,709億円の決済にご利用いただいております。通販インフラを支えるサービスとして不可欠なシステムとなっています。サービスも常に進化を続け、決済方法のひとつであるクレジットカードは、2010年3月現在合計20ブランドのお取り扱いが可能で、デビットカードなど、現金の他にも幅広い決済方法が選択可能です。

また佐川急便では、より高い安心をご提供するため、お届け先さまを確実に特定できる業界初のサービス「受取人確認配達サービス」や「飛脚セキュリティ便」を開発するなど、セキュリティ関連サービスのさらなる充実に力を注いでいます。



決済端末機



ご利用可能なクレジットカード

「CO₂ 排出権付き飛脚宅配便」の開発・商品化

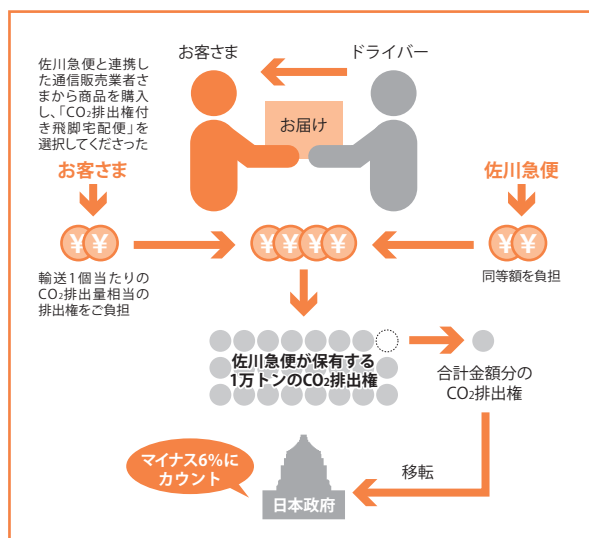
佐川急便では、宅配便を通じて地球温暖化防止に貢献する「CO₂排出権付き飛脚宅配便」サービスを展開しています。通信販売で商品を購入された際の宅配便利用によるCO₂排出量を削減する仕組みとして、お客さま、通信販売事業者さま、佐川急便が協力する取り組みです。

このサービスは、CO₂排出権(CDMクレジット)を利用し、宅配便輸送にともなうCO₂排出量相当のCO₂排出権を日本の温室効果ガス排出削減分へと移転します。

これは、京都議定書で日本が定められた「マイナス6%」の削減義務に対して、宅配便利用者も地球温暖化防止に取り組める仕組みとして、多くの方にご利用いただいております。

これまでに日本政府に移転できたCO₂排出権は、約115t-CO₂です。

■サービスの仕組み



グループの特性を生かした「大型家具・家電設置輸送」

佐川急便と佐川引越センターは、インターネットにより事業を拡大される通信販売事業者さまのご要望から、グループの輸送ネットワークと事業特性を生かした「大型家具・家電設置輸送」を行っています。

大きな家具や家電をセールスドライバーとスタッフの2名でお届けし、指定された場所にお荷物を開梱・設置し、さらに段ボールなどの発生したゴミも回収するサービスです。またインターネットを利用した貨物追跡システムにより、配送状況の確認ができるうえ、e-コレクト®の利用も可能なため、通信販売で商品を購入されたお客さまにもご利用いただいています。



セールスドライバーとスタッフによる設置

「迅速・確実・丁寧」な電話応対を目指して

佐川急便では、お客さまからの電話1本が企業イメージを決定すると考えています。電話応対を担当するカスタマーサービス課では、セールスドライバーに次ぐ第2の営業と位置づけ、お客さまに喜ばれるサービスの徹底に努めています。そのために、支社ごとにインストラクターを配属しているほか、外部の講師による定期的な指導も実施しています。また新入社員には、マンツーマンで約1年間にわたり実践的な教育を行っています。

その他にも、電話応対の技術向上を目的に、2001年度から社内カスタマーサービスコンテストを実施しています。外部の講師やコンサルタントが審査を行い、全国の各支社、支店の代表チームが競い合い、日常のサービス品質向上に努めています。



カスタマーサービス課



カスタマーサービス
コンテスト

品質向上への取り組み

ISO9001の取得

佐川急便では、お客さまのニーズに的確にお応えできるサービス品質の管理を実施し、お客さまに満足いただけるサービスの提供を目指しています。2010年5月現在、品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001:2000の認証を386の事業所で取得しており、輸送サービスに関連するプロセスの継続的な改善に取り組んでいます。



ISO9001適合証明証

クオリティマークの認定

佐川急便独自の品質管理として、「クオリティマーク」の認定を行っています。これは、お客さまのニーズに的確にお応えするためのサービス品質管理で、時間帯サービスの履行率や不在再配達率の履行率など16項目の基準を設けて審査を行うものです。2009年度の認定営業店数は9店舗となっています。



クオリティマーク

▶ 従業員とともに

企業にとって、従業員はかけがえのない存在です。

従業員の尊重や機会均等に努め、誰もが働きやすい職場環境の整備に取り組んでいきます。

働きやすい職場環境づくり

従業員数約44,000名、パート・アルバイト・契約社員を含めると約63,000名になるSGホールディングスグループでは、従業員をかけがえのない「人財」と考え、全従業員にとって働きやすい職場環境づくりに努めています。お互いの人権・人格と個性の尊重や職場でのプライバシーの尊重、また安全で健康的な職場環境づくりを徹底する5S(整理・整頓・清潔・清掃・しつけ)の徹底に取り組んでいます。



VOICE



佐川急便
人事・安全管理部
労務課 主任
兵藤 美穂

ワークライフバランスと相談窓口

SGホールディングスグループは、仕事と生活の調和の取れた職場環境の実現を目指し、ワークライフバランスの取り組みを進めています。そのひとつとして、女性従業員が働き続けられるように、母性健康管理に関する制度などをWebにて紹介し、今後、女性従業員や管理職に対して周知教育を実施していきます。また、「SGホールディングスグループ何でも相談室」を開設し、一般用と女性専用の2つの窓口から、従業員や家族からの会社や業務に関するご相談をお受けしています。

ワークライフバランスの取り組みにより、一人ひとりが働きがいを感じ、ライフステージに合わせて成長できる職場環境づくりに努めています。

充実した人財育成・研修制度

佐川急便では、教育研修を通じて仕事に対するやりがいと自己の成長を全従業員に感じてもらうため、さまざまな全国統一の教育体系を整備しています。

今後はさらに、より良い人財育成を行うためにも、教育研修を修了した従業員の成果や成長を数値化して測定する仕組みの構築を目指します。

■2009年度研修実績

| | 研修名称 | 人数 |
|--------|-------------------|--------|
| 1 | 新入社員基礎研修 | 3,994 |
| 2 | 安全運転基礎研修 | 3,295 |
| 3 | SD独り立ち認定研修 | 3,108 |
| 4 | CS基礎実務研修 | 715 |
| 5 | CS独り立ち認定研修 | 459 |
| 6 | CS指導員認定研修 | 113 |
| 7 | SD指導員認定研修 | 768 |
| 8 | 安全運転検定員認定研修 | 202 |
| 9 | 安全管理者専任時研修 | 195 |
| 10 | 女性キャリア支援研修/職場変革PJ | 125 |
| 11 | 管理職実務講座 | 1,131 |
| 12 | リーダーシップ研修 | 1,195 |
| 13 | 基幹管理要員育成研修 | 32 |
| 14 | 店長初任研修 | 48 |
| 合計(のべ) | | 15,380 |

障がい者の雇用促進

佐川急便では、障がい者の雇用促進に力を入れており、2009年度の障がい者雇用率は、1.85%で法定雇用率を達成しています。他の企業との違いは、特定法人での集約雇用ではなく、健常者と同じ職場で働く点です。協力し合いながら業務に取り組み、互いに苦労を分かち合い、目標達

成の喜びを共有することで、真の意味で「障がい者の自立につながる」取り組みを実践しています。

今後もこのポリシーに基づき、ともに成長できる雇用促進への取り組みを進めていきます。

職域を越えて女性従業員の活躍を支援

従業員が性別や年齢に関係なく個々のライフステージに合わせて長く働ける労働環境を整備することが、将来を見据えた優秀な人財確保のための企業戦略であると考えています。業界内では女性が相対的に少ない状況にある中で、佐川急便では女性の採用に積極的に取り組んできたことにより、従業員に占める女性の比率は年々着実に増加してまいりました。単に女性従業員を増やすだけでなく、今後は、しっかりと育成し、能力開発を視野に入れたうえで、管理職への登用を積極的に推進していきます。

また、育児休業の取得から復帰後の就業促進など仕事と育児の両立を高める施策も進めており、出産後に職場復帰している女性従業員も数多くいます。

女性キャリア支援教育研修

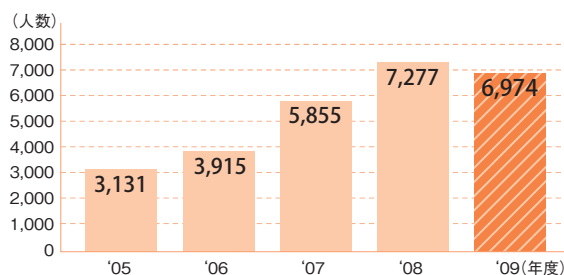
この研修は佐川急便の女性管理職ならではの活動を活性化させて業績に結びつけていくための知識とスキルの研鑽を目的としています。特に佐川急便における女性のビジネスパーソンとしてさまざまなビジネスシーンで期待されている役割の認識とモチベーションの高揚によるキャプテンシーやリーダーシップなどを大切にしています。

《主なカリキュラム》

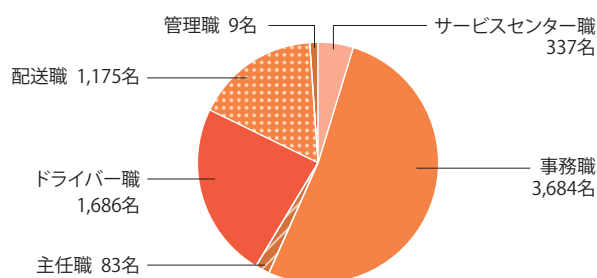
- ・男性が作ってきた企業組織内での女性の活躍
- ・仕事のスタンスの持ち方
- ・組織を円滑にするコミュニケーションとネットワーク作り
- ・リーダーに必要なマインドとスキル
- ・リーダーに求められる表現力
- ・メンバーのやる気の引き出し方
- ・コーチング
- ・ベーシックマネジメント
- ・ロジカルシンキング

研修では、活躍している女性実業家をゲストに招き、組織マネジメントにおいて、正しい思考プロセスによる情報の収集・認識・分析と、それに基づく判断力などについて学びながらスキルアップを進めています。

■女性従業員数推移(佐川急便)



■女性従業員職種別内訳(佐川急便)



第1回研修のようす

VOICE

さまざまな制度のおかげで、安心して働けます

佐川急便 恵那店 カスタマーサービス課

山口 千歳

育児休業のおかげで、1年間子どもと楽しい時間を過ごすことができました。また、子どもが生まれたことで、仕事に対するモチベーションも上がり、以前よりも一つひとつの仕事をより丁寧に行うようになりました。

今後、私のように福利厚生制度を上手に活用する女性従業員が増えてくることを、期待しています。

国内宅配便業界初のハーフパンツ導入

佐川急便は、セールスドライバーの夏期制服として、国内宅配便業界初となるハーフパンツを導入しました。

管理職、事務部門スタッフを中心に推進してきたクールビズの対象範囲をセールスドライバーまで拡大するとともに、熱中症予防など労働環境改善にもつながっています。



ハーフパンツを着用したセールスドライバー

従業員・家族専用ホームページで生活をサポート

SGホールディングスグループでは、従業員・家族向けの専用ホームページを運営しています。健康や職場環境における悩みなどの各種相談窓口や、全国の保養所・リゾート情報、各種ライフサポート情報などを掲載し、心身ともに豊かな生活を送るための支援を行っています。



サイトのトップ画面

メンタルヘルスケアの促進

SGホールディングスグループは、労働者の心の健康の保持増進のために「メンタルヘルスケアに関する指針」を基に、職場におけるメンタルヘルス対策を推進しています。

そのひとつとして、従業員と家族を対象に、専門機関による相談窓口として「SGホールディングスグループ健康ダイヤル24」を開設しています。相談内容は、健康・介護・育児の相談や医療機関情報の提供から、仕事や人間関係の悩みやストレスなどのメンタルヘルス相談まで、24時間フリーダイヤルやWebで受け付けております。

また、希望により、専門家による「面談カウンセリング」を47都道府県全200カ所で行うことができるなど、従業員とその家族の方々をサポートしています。



「健康ダイヤル24」のパンフレット

さらなる向上のための従業員表彰制度

SGホールディングスグループでは、年に一度、優れた業績を収めた従業員と年間を通じて優れた業績を収めた営業店所が表彰される「グループ合同表彰式」を開催しています。

2009年度より「環境保全活動」に対する表彰を新たに加え、業績・品質・安全・環境の4つの分野における社内関心を高め、活動を促進することで、さらなる公益の増進と業界発展に期することを目的としています。



グループ合同表彰式

充実した福利厚生

SGホールディングスグループ スポーツフェスティバルを開催

従業員がいきいきと働くためには家族の理解・協力が重要であり、従業員だけでなく家族も含めた全体でSGホールディングスグループが成り立っていると考えています。そこで、従業員、家族の親睦を図るため、グループ各社または事業所、地域ごとにさまざまなイベントを開催しています。

中でも、毎年5月に開催している「SGホールディングスグループ スポーツフェスティバル(SSF)」は、グループを挙げてのイベントとして、全国から従業員と家族が滋賀県守山市にある保養施設「守山パーク」に集結し、スポーツやイベントを通じて親睦を深めています。



クラブ活動

佐川急便は、スポーツの振興と健全な体づくりを目指し、さまざまなクラブ活動を支援しています。また、クラブ活動を通じて、地域社会と協力しながら、スポーツ支援、子どもたちの教育支援などにも取り組んでいます。

陸上競技部

毎年元旦に行われる全日本実業団駅伝に15年連続で出場を果たしております。びわ湖毎日マラソンに出場した清水選手は2年連続入賞や北海道マラソンに出場した山本選手は2位に入賞するなど、数々の実績を残しております。



サッカー部

日本フットボールリーグ(JFL)所属。2009年度は2度目のJFL優勝を果たしました。また、小中学生対象のサッカーアカデミーを開校するなど、本拠地の滋賀県に根付いたチームづくりを進めています。



女子ソフトボール部

2005年に日本女子ソフトボールリーグ3部へ参加後、2度の昇格を果たし、現在は1部リーグで活躍しています。また、2009年の新潟国体に出場し、京都府成年女子代表チームとして3位という結果を残しました。



厚生施設の提供

従業員のリフレッシュや、一家そろってのコミュニケーションに活用できる施設として、国内外に厚生施設および契約リゾート施設を提供しています。

■主な厚生施設



レークさがわ



熱海さがわ荘



SGホールディングスグループ守山陸上競技場

▶ 社会とともに

「社会の中の企業」であるということを意識し、企業市民としての責任を果たすため、「できること」「すべきこと」を常に検討し、実行しています。

ステークホルダー・ダイアログの開催

物流事業者である佐川急便が社会から求められている期待や役割とは何か、また事業活動の中で貢献できることは何か、その要望に応えられているかなどを知るために

「SAGAWAステークホルダー・ダイアログ」を2004年度から毎年開催しています。

第6回SAGAWAステークホルダー・ダイアログの概要

- テーマ ありがとうと言われる企業を目指して
 開催日 2010年2月5日(金)
 開催場所 佐川急便 東京本部
 施設見学 東京ミッドタウン、サービスセンター、メールセンター
 参加者 15名
 実施内容 ●施設見学
 ●基調講演
 ●全体ディスカッション

<全体ディスカッションでの主な論点>

- ・活発な経済状況の創出に向けて物流事業のできること、すべきこと。
- ・佐川急便にとっての期待されることは何か、その期待に答えているか。
- ・物流事業者にとって、CSRの活動や思想をいかに事業活動へ結びつけていくことができるか。
- ・連携と協力関係について。
- ・佐川急便として、今できること、将来すべきこと、求められていること。等

ステークホルダーからの意見(抜粋)

- 物流事業者のあるべき姿
 今や社会インフラとなっている物流ネットワークの健全な運営体制を維持継続することこそが、「あるべき姿」と言える。
- 社会問題に対応する新たなビジネス
 消費者ニーズを的確に捉えつつ、現代社会における社会問題にも対応し得るサービスの提供を検討する必要がある。
- サービスに対する付加価値
 新たなサービスは、付加価値サービスとして対価が期待できるビジネスモデルとなり得る。等

VOICE 参加者の声



立教大学経営学部 教授
高岡 美佳 様

社会問題に対する宅配便の可能性に期待

普段何気なく宅配便を利用していましたが、佐川急便のダイアログに参加したことで、改めて宅配便について考える機会となりました。
 現代社会の中で当たり前のように存在する宅配便は、経済活動を支えるだけでなく、人と人のつながりにも寄与する社会インフラであると考えられています。今後、私たちが直面する少子高齢化や過疎化などの社会問題に対し、宅配便ネットワークに寄せられる期待は大きく、社会の要請に応じて進化を続けてきた宅配便に、これからも注目していきたいと思います。



ディスカッションのようす

▶ 社会貢献活動

SGホールディングスグループは、「地域社会の発展に奉仕する」という社是を掲げ、今まで、私たちを支えてくださったお客さま、そして社会に、その恩恵を広く還元したいとの思いから、社会貢献活動を行っております。

スポーツイベントなどを通じた社会貢献

各種イベントへの協賛

佐川急便では、企業市民としての社会貢献の一環として、サッカーや野球などのスポーツイベントやアマチュア囲碁大会への協賛を行っています。

また、2005年よりスタートした京都発の運動「ピンクリボン京都」にも参加し、啓発活動の応援やシンポジウムの開催にも協賛しています。

健やかな心を育む「夢先生」

サッカー部では、地域貢献活動の一環として学校教育の現場と協力し、子どもの心の教育に取り組んでいます。これは「財団法人日本サッカー協会 こころのプロジェクト～夢先生～」に賛同した活動で、2009年度は守山市速野小学校5・6年生266名を対象に授業を行いました。また、幼稚園や保育園を訪問してのサッカー教室や地域の小学校3年生から中学生までを対象としたサッカーアカデミーも開校しています。

京都市民イベントなどに協力

女子ソフトボール部は、ソフトボールの普及、技術向上を願い、さまざまなイベントに協力しています。守山パークのグラウンドでは、京都府下の中学校18チームによるソフトボールの交流大会を開催しました。この大会は、佐川急便が日本女子ソフトボール1部リーグに加盟していることから、地元地域とジュニア育成に貢献する趣旨で実施。大会には約500名の選手が参加しました。



佐川急便が協賛した沖縄マラソン大会



サッカー教室



夢先生の授業風景



京都府下中学生交流大会



ソフトボール教室

4つの財団法人による活動

社会貢献できる企業であり続けるために、財団活動を通じて、「地域との共生」「国際交流」「学術・芸術支援」など幅広い活動を行っております。

Heart to Heart >>>

物流事業の枠を越えて、よりよい社会を目指す私たちの財団活動

■ 財団法人佐川留学生奨学会

第24期生16名の 夢への第一歩をサポート

全国の国公立大学の大学長より推薦を受けてご応募いただいた、東南アジア各国からの84名の私費留学生の中から、厳正な審査により16名(学部生6名、大学院生10名)を奨学生として採用しました。

これにともない、11月2日に「2009年度佐川奨学生採用証書授与式・交流会」を開催しました。授与式には、2009年度の奨学生16名全員が出席し、ベトナムからの留学生レータン ティン ブー さん(福島大学 共生システム理工学類3年)が、「日本で勉強するうちに、ベトナムが日本のような発展ができるように精一杯頑張りたいと思うようになりました」と代表の挨拶をしました。その後の懇親会では、来賓の方や先輩にあたる第23期生、財団関係者、SGホールディングスグループ関係者と交流を深めました。



採用証書授与式で謝辞を述べる留学生

■ 財団法人佐川国際経済協力会

2009年度で20回目を迎えた 自動車整備を通じた日中交流

主要事業として「佐川日中友好車両整備技術研修」を実施しています。

2009年度は、本研修の20回目の節目にあたることから、研修生の派遣元である中国日本友好協会より袁 敏道(えんびんどう)秘書長が訪日され、9月4日の開講式で祝辞をいただきました。

研修生は、中国西部開発地区・青海省西寧市から派遣された6名を迎え入れ、8月17日から上海で約2週間の基礎研修を行い、その後9月4日から日本で約2カ月間、高度な車両整備技術の研修を行いました。

VOICE



中国日本友好協会
秘書長

袁 敏道 様

中国全土に広がる 日本の車両整備技術

1985年から中国へ整備が完了した中古トラックの寄贈、孤児院への物資の無料運送など中日友好親善と経済発展のため、長期にわたって積極的にご支援ご協力をいただきありがとうございます。中国の車両整備技術研修生を日本に招き、受け入れていただくことは非常に貴重なことであり、研修生は日本で高度な車両整備技術を学ぶだけでなく、SGホールディングスグループの従業員が仕事に取り組む熱意も受け継ぎ、中国全土で活躍しています。

この研修をひとつのきっかけとして、中日友好がこれからも継続するよう願っています。

日本での研修では、エンジン・電気装置・電力伝達装置・制動装置(ブレーキ)など各部の整備技術を学んでいただくとともに、研修および外部機関の視察プログラムを通じて、国を越えた交流を経験していただきました。

また、中古トラック寄贈先であるラオス人民民主共和国の要請により、トリペッチいすゞセールス様の協力を得て、約10日間にわたり、車両整備技術研修生3名を受け入れられました。



タイの開講式風景

■ 財団法人佐川がん研究助成振興財団 がんで悲しむ人を少なくするため 私たちにできること

2009年度の「佐川がん研究助成金」対象研究の選考と、第7回「佐川特別研究助成賞・佐川看護特別研究助成賞」の受賞者の選考、授与式を行いました。研究助成には、全国の研究機関より195件の応募があり、選考委員会による厳正な審査を行い、その結果を理事会に諮り、14件の研究を助

成対象としました。それぞれの研究には、100万円(計1,400万円)の研究費が助成されました。

また、同様の選考プロセスを経て「佐川特別研究助成賞」を2名の方に、「佐川看護特別研究助成賞」を1名・1団体の方に決定して助成金、ブロンズ像を授与しました。



理事長・栗和田 榮一より助成金を授与

【佐川がん研究助成】

- ・京都大学医学部附属病院放射線部助教 上田 真史様 他13名

【佐川特別研究助成賞】

- ・自治医科大学医学部ゲノム機能研究部教授/東京大学大学院医学系研究科ゲノム医学講座教授 間野 博行様
- ・名古屋市立大学大学院医学研究科腫瘍・免疫内科学教授/名古屋市病院局局長 上田 龍三様

【佐川看護特別研究助成賞】

- ・医療法人パリアン看護部長 川越 博美様
- ・京都市立医科大学附属病院疼痛緩和医療部 代表者：藤本 早和子様

■ 公益財団法人佐川美術館

大自然の中で 文化や芸術に触れる喜び

2009年度は、平山 郁夫先生、佐藤 忠良先生、樂 吉左衛門先生の常設展示に加え、企画展や地域に密着したイベントなどを行い、110,234名の方にご来館いただきました。10月には累計入館者数が100万人に達しました。



ワークショップ
のようす

【企画展】

- ・関口 知宏
鉄道紀行 絵日記原画展 一旅、ひと、こころー
- ・こどもの本と歩んだ60年
太田 大八とえほんの仲間たち展
- ・吉左衛門X
インドネシアン・プリミティブアート 稲葉京セレクション

【その他】

- ・第40回守山市美術展覧会優秀作品展覧会
- ・佐川美術館 こども絵画コンクール優秀作品展覧会
- ・トワイライトコンサート 計4回公演
- ・福祉の日 (5月11日、8月17日)
- ・びじゅつかんでなつやすみ (6月20日～8月30日)
- ・絵本作家によるワークショップ (8月4日～9日)
- ・友の会ツアー
アンコール遺跡を巡る (9月29日～10月6日)
- ・さがわんとクリスマス (12月23日)

CSR活動に真摯に取り組む 全国の仲間たちの声



佐川グローバル
ロジスティクス
東東京支店
東京SRC
森 弘樹

自分の出荷した商品を街で見かけると、物流の大切さを実感

私の現場ではアパレル商品の入荷から出荷までの物流業務全般を行っております。普段何気なくショッピングモールなどに足を運ぶと、自分が出荷した商品が店頭に並んでおり、それを目にするたびにロジスティクスの意味や大切さを感じます。決して華やかな仕事ではありませんが、人々の生活に豊かさを提供する「物流」に携わっていることの誇りを大切に、社会に貢献していきたいです。



ヌーヴェル
ゴルフ倶楽部
営業部
伊藤 珠実

ホスピタリティの気持ちを大切にしています

「ホスピタリティ」を大切にしているヌーヴェルゴルフ倶楽部。お客さまの視線の先にあるものを敏感にキャッチし、「また来場したい」と心から思っていただけサービス心を心がけています。私自身、お客さまに満足を提供するだけでなく、「ありがとう」というお客さまの一言から、「また頑張ろう」という元気をいただいています。こうしたお客さまとの交流を通じて、少しずつ成長していきたいです。



佐川急便
稚内店
カスタマーサービス課
岡部 友明

廃品回収を通じて、高まる郷土愛

年に一度、地域奉仕の一環として地域の皆さんと「廃品回収」を行っています。小さい子どもたちが一生懸命になって回収物を運んでいる姿を見ていると「自分も負けられない!」と自然に張り切ってしまう。稚内は小さい町ですが、地域の方々との連携を通じて、地元で働けることの誇りを感じました。こうしたイベントを通じて、地元をもっと素晴らしい街にし、自分自身もさらに稚内を好きになっていきたいです。



SGリアルティ
CRE戦略部
森 江理

SGホールディングスグループは、女性が活躍できる風土がある

SGホールディングスグループは、女性にもチャンスを与えてくれる職場環境があります。私も今までさまざまな分野で働き、多くの経験を積むことができました。資格取得なども積極的に支援してくれるので、スキルアップを目指す人には最適な職場です。現在は、不動産の管理業務を通じて、施設のご利用者が不安に思っていること、不便に思っていることなどに的確にお答えできるように心がけています。



佐川急便
大阪店
セールスドライバー
清水 優也

お客さまのニーズに合った提案で、信頼関係を構築

お客さまと接するときは、笑顔での挨拶やハキハキとした口調を心がけています。毎日お会いする時間はほんの数分ですが、お客さまとの信頼関係は、こうしたコミュニケーションから徐々に構築していくものではないでしょうか。今後も相手の立場に立った最善の輸送プランをご提案し、お客さまから本当に必要とされるセールスドライバーを目指します。

第三者保証報告書(クライメート・セイバーズ・プログラム)



独立した第三者保証報告書

佐川急便株式会社
代表取締役社長 平間 正一 殿

2010年5月31日

1. 保証の対象と目的

株式会社あらたサステナビリティ認証機構(以下、「当社」という。)は、佐川急便株式会社(以下、「会社」という。)からの委嘱に基づき、会社と財団法人世界自然保護基金ジャパン(以下、「WWF」という。)との間で締結された「クライメート・セイバーズに係る覚書」(以下、「覚書」という。)に基づき、会社が算定した2009年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度に関して保証業務を行った。保証業務の目的は、SGホールディングス株式会社が作成した「CSRレポート2010」(以下、同レポートという。)に記載されている会社の2009年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度を対象に、「覚書」並びに会社の方針及び基準を規準として、以下の点について独立の立場から結論を表明することである。

- 同レポートに記載されている会社の2009年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度(同レポートP50)が、「覚書」並びに会社の方針及び基準(同レポートP50)に従って、重要な点において収集、報告されていないと認められる事項がないかどうか。

同レポートに記載されている会社の2009年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度は会社の責任のもとに作成されたものであり、当社の責任は独立の立場から結論を表明することにある。

2. 実施した保証手続の概要

当社は、「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務(ISA3000)」(2003年12月改訂 国際会計士連盟)、「環境報告書審査基準案」(2004年3月公表 環境省)に準拠して業務を行った。本業務はこれらの基準に基づき限定的な保証を提供するものである。また、本業務は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠した監査ではなく、従って監査意見を表明するものではない。

保証業務において行った手続の概要は以下のとおりである。

- 会社の全般的状況及び2009年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度のマネジメントに関する本社における資料の閲覧、質問
- 同レポートに記載されている保証対象に関する、会社の方針及び基準の設定と運用の状況に関する本社及びサイトにおける質問
- 保証対象を測定、集計、報告する方法に関する本社及びサイトにおける資料の閲覧、質問
- 保証対象について本社及びサイトにおけるサンプリングしたデータと根拠資料の証憑突合、各根拠資料間の整合性の評価、分析的手続

- 選定した往査サイト

| サイト名 | 主な機能 |
|---------------------------|------|
| 佐川急便株式会社 本社 東京本部 総務部環境推進課 | 本社機能 |
| 同 関東支社※ | 支社機能 |

※関東支社(東京地区)、西関東支店、東関東支店、北関東支店が対象

なお、保証の対象とし、手続を実施した2009年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度については、同レポートの該当箇所にマーク(☑)を付した。

3. 結論

当社の結論は、以下のとおりである。

- 同レポートに記載されている会社の2009年度の二酸化炭素排出量、削減量及び目標の達成度が「覚書」並びに会社の方針及び基準に従って収集、報告されていないと認められる重要な事項は、当社が実施した手続の範囲では発見されなかった。

4. 独立性

会社と当社の間には、「環境報告書審査基準案」及び公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

株式会社あらたサステナビリティ認証機構



東京都中央区銀座八丁目21番1号
住友不動産汐留浜離宮ビル

代表取締役社長 木村浩一郎

第三者意見

ステークホルダー経営の深化に挑戦

地球は有限な存在です。資源は使えば使うほど減少し、やがて底をついてしまいます。有害物質を自然界に排出し続ければ、地球環境はどんどん破壊されてしまいます。今、企業は地球限界時代に生きています。地球限界時代に生きる企業の条件は、世の中に必要とされている企業かどうかにかかっています。わが社が世の中に必要とされている理由は何か、地球のサステナビリティ(持続可能性)にわが社はどのような形で貢献しているのかをたえず問い続けることが求められます。企業は公共財ではありませんが、環境・資源制約が強まる時代の中で、公共財的性格を強めていかざるをえません。

企業がCSRレポートを作成し発表するのもそうした時代の要請に沿うものです。SGホールディングスグループは、すでに経営の基軸としてステークホルダー経営を掲げ、CSRに力を入れており、この分野では明らかに先進企業です。特に解決が急務となっている温暖化対策では「クライメート・セイバーズ・プログラム」を初めとして様々な課題に積極的に取り組み、成果を出しています。今年の報告書は、そうした取り組みが総合的に取り上げられており、評価できます。

しかし、SGホールディングスグループらしい報告書に仕上げるためには、さらにいくつかの工夫、改善が必要です。

第1はCSRを経営のど真ん中に据えた書き方が必要です。企業としてCSRを追求する行為が企業収益の拡大に貢献している姿をしっかりと書き込むことです。たとえば、大型集約施設による輸送の効率化などはそうした位置づけができます。企業とステークホルダー双方が「ウイン-ウイン」の関係を構築している姿をもっと浮き上がらせることができるでしょう。CSRといえば、植林や様々な環境活動、メセナ活動などに利益の一部を還元することと受け取られがちですが、CSRを経営の真ん中に置くことで利益を生み出す姿こそ、CSR活動の本来の姿でなくてはなりません。

第2は温暖化対策の中長期目標を提示してほしかったことです。民主党政権は温室効果ガスの排出を20年までに90年比25%減、50年には80%減を目標に掲げています。SGホールディングスグループは本年度から新しく中期経営計画(Second Stage Plan)をスタートさせましたが、この新計画と温暖化対策との関係についても、しっかり言及した方が親切です。経営計画と温暖化対策とは別々のものではなく、同じコインの裏表の関係と位置づけるべきです。この報告書を見るステークホルダーもこの点について大きな関心を持っていると思います。もし、そこまで作業ができていないなら、その事情を説明し、来年度の報告書では、明記することを約束すべきでしょう。

第3はSGホールディングスグループの仕事が男性向きの職場であるため、これまで女性従業員の構成比が相対的に低く、CSR活動への取り組みにも限界がありました。しかし最近では女性従業員比率を16%まで引き上げる目標を掲げ、女性の採用を増やし、女性管理職も誕生するようになりました。健全な企業活動には、男女従業員の構成バランスも大切です。CSR活動に指導的な仕事、役割を果たす女性従業員がどんどん増えてくればCSR活動に幅と厚みが加わり、報告書もさらに親しみやすくなるでしょう。女性の積極的な登用もCSR活動の重要な分野のひとつです。



千葉商科大学 大学院
客員教授

三橋 規宏 様

キャッチコピーについて

現代社会に不可欠な「物流」というインフラ事業を中心に、人と人、人と社会をつなぎ、豊かな未来を創造していきたい。そんなSGホールディングスグループの強い想いを、「人と社会と未来をつなぐ」というキャッチコピーに込めました。

表紙デザインについて

都市と自然が調和した空間を走るのは、佐川急便の天然ガストラックです。これは、環境に配慮したSGホールディングスグループの事業活動を象徴しています。天然ガストラックの上には見渡す限りの青空が広がり、手をつないだ人のかたちをした雲が浮かんでいます。これは、私たちの事業を通じて豊かな生活を営むステークホルダーです。このようなグラフィックデザインによって、日々の事業活動を通じて地球環境の豊かな未来を担うSGホールディングスグループの姿勢を表現しています。

編集方針と報告範囲

編集方針

- 1 多くのステークホルダーにお読みいただけるよう、カラーユニバーサルデザイン※で編集しています。
また、わかりやすい表現を心がけ、簡潔・明瞭に説明しています。
- 2 環境省の「環境報告ガイドライン2007」と「サステナビリティ レポートニング ガイドライン2006」(GRI)を参考にしています。
- 3 実績データは2009年度のものを集計しています(活動内容については一部2010年度の内容も含みます)。
- 4 取り組みの状況により、年間実績数値で報告できないものは対象期間を明示しています。

報告対象期間

2009年3月21日～2010年3月20日

報告対象組織

佐川急便の活動実績を中心に、SGホールディングスグループ企業と財団法人の活動を掲載しています。

その他情報提供手段

本報告書は、SGホールディングスWebサイトからもダウンロードできます。(http://www.sg-hldgs.co.jp/)

編集後記

SGホールディングスグループは、事業を通じて産業・社会インフラの充実、発展を目指しており、こうした公共性の高い事業への真摯な取り組みを通じて企業の社会的責任(CSR)を果たしていきたいと考えています。

2010年のCSRレポートの作成にあたりさまざまなステークホルダーの皆さまから当社グループに対するご意見、ご助言をいただき、出来る限り反映いたしました。編集者としても改めてSGホールディングスグループの魅力や克服すべきところを見つけることができました。感謝いたします。

このCSRレポートを通じて、私たちの活動を多くの皆さまにご理解いただければ幸いです。また、引き続き人と社会とのつながりを大切にしたい事業活動を行うために、皆さまの貴重なご意見・ご感想をお寄せいただきたく、宜しく願い申し上げます。

SGホールディングス株式会社
CSR担当

※ カラーユニバーサルデザイン:色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの方に見やすいように配慮されたデザインです

この報告書に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

〒601-8104 京都市南区上鳥羽角田町68番地

SGホールディングス株式会社
CSR担当

TEL 075-671-8600

<http://www.sg-hldgs.co.jp/>

タイトル CSRレポート2010

発行日 2010年6月

次回発行予定 2011年6月

印刷 佐川印刷株式会社

本報告書は上記インターネットホームページでもご覧いただくことができます。



●色覚の個人差を問わず見やすいように配慮したデザインをしています。



●森林保全につながるFSC認証紙を使用しています。



●環境対応型インキの植物油インキで印刷しています。



●有機溶媒を含む湿し水を使わない水無し印刷をしています。

